

大学生の意識に着目した草津市の魅力向上
のための基礎調査に関する報告書

2023(令和5)年3月

草津市 草津未来研究所

要旨

草津市では、1994(平成6)年の立命館大学びわこ・くさつキャンパス(以下「BKC」という。)の開設を契機に、2003(平成15)年には草津市と立命館大学は連携協力に関する協定を締結し、連携協力事業を進めてきた。しかし、2015(平成27)年に経営学部・経営学研究科が大阪いばらきキャンパス(以下「OIC」という。)に移転し、2024(令和6)年に情報理工学部・情報理工学研究科がOICに移転する予定であるため、行政と大学の連携をより深化させることで地域のさらなる発展につなげるため、滋賀県・草津市・立命館大学による3者意見交換会が継続的に開催されている。また、2024(令和6)年には、草津市制施行70周年、立命館大学BKC開設30周年の節目を迎えることから、草津市と立命館大学がさらに連携を深めていくため、協定の締結により、これまで様々な連携事業が行われ、大学生(学部生および大学院生)と市民が交わる機会があった中で、お互いがどのような意識にあるのかを把握する必要があることから、本調査研究において、BKCの学部生へのアンケート調査や、草津市内で地域活動を実践している学生団体へのヒアリング調査、および30歳以上の草津市民を対象にしたアンケート調査を行った。

BKCの学部生へのアンケート調査の結果から、多くの学部生は、草津市は学生生活を過ごしやすいまちであると感じている。その理由は、飲食や買い物をする店舗がある、安全に生活をする事ができる、自然が豊かである等の項目で、満足と回答する割合が高かった。また、大学生活で関心のあることについての質問には、大学での学びや実践に関心があるとの回答割合が特に高かった。このような学びに関心のある学部生においては、地域活動に対しても参加してみたい意向のある学部生が多かった。さらに、地域活動を経験した学部生の方が、卒業後も草津市に住みたいとの回答割合が高かった。一方で、地域活動に参加してみたい意向はあるものの参加経験がなかったり、草津市内での活動頻度の質問では、課外活動やアルバイト、まち歩きを全くしていないとの回答割合が高く、新型コロナウイルス感染症が影響を及ぼしていることも想定されるが、課題であると考えられる。

また、アンケート調査と併せて行った、草津市内で地域活動を実践している学生団体へのヒアリング調査の結果では、活動のきっかけとして、ボランティアや子どもに興味があったり、地域との関係を重視している大学生が多く、活動に関する情報の入手手段は様々であるが、自分から行動して情報を入手していた。また、地域活動を通じて、通常の学生生活では出来ない体験やつながり、地域等からの感謝、子ども達のあこがれにやりがいを感じていた。課題としては、新型コロナウイルス感染症による活動休止の影響や、卒業に伴う活動の継続、また活動の拡充があげられた。

30歳以上の市民を対象にしたアンケート調査の結果では、立命館大学や大学生が草津市内で行った取組への意識や取組への関わりの回答割合は高くなかったが、一方で半数以上の市民が草津市は大学・学生のまちだと感じており、立命館大学を身近に感じる

と回答した市民も約半数おり、感じないを上回った。市民が大学に対して望むこととしては、地域課題の解決や地域経済の活性化、地域を支える人材の育成を望む回答が多くあり、大学生に対しては、地域を舞台にした活動や子どもとの交流を望む回答が多かった。また、市が大学と今後強めていくべき連携としては、地域経済の活性化や環境問題への取組、小学校や中学校などの教育に関する連携の回答が多かった。

本調査研究において、地域活動にこれまで参加経験はないが参加してみたい意向のある大学生が存在し、市民からも大学および大学生への期待があるものの、大学や大学生の取組への意識や関わりが少ないことが分かった。

今後は、立命館大学生と草津市民がお互いの取組や活動、課題等を知る機会を設けていくことが、より両者の連携を深めていくためのきっかけとなる。今回のアンケート調査等の結果で、両者の望みが重なる地域や子ども達の成長に関する分野を中心に、市民と大学生を結びつける仕組みの構築を図っていくことが有益であると考えられる。

目次

はじめに	1
第1章 草津市と立命館大学の現状について	2
1 草津市の状況	2
2 草津市における立命館大学に関する状況	6
3 草津市と立命館大学の連携	8
4 草津市と立命館大学との連携取組実態	8
5 草津市民および立命館大学生の意識	10
第2章 立命館大学学部生の草津市に対する意識	12
1 アンケート調査の概要	12
2 アンケート調査結果	13
第3章 草津市において活動する立命館大学生の意識	30
1 立命館大学生の地域での活動の仕組み	30
2 ヒアリング調査の概要	32
3 ヒアリング調査結果	33
第4章 草津市民の立命館大学および大学生に対する意識	39
1 アンケート調査の概要	39
2 アンケート調査結果	40
第5章 調査結果からみえた大学および大学生との連携の方向性	51
おわりに	54
関係者一覧	55
参考文献	56
参考資料	57

はじめに

草津市では、これまでに市の総合計画に大学を生かしたまちづくりを掲げ、取り組んできた。1994(平成6)年に、立命館大学BKCが開設され、開設当初は約5,000人であった学生数が、現在は15,000人を超えている。

草津市と立命館大学は、2003(平成15)年に、草津市と立命館大学との連携協力に関する協定を締結し、連携協力事業を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業や活動が休止する等の状況がある。また、BKCからOICへの学部移転に伴い、行政と大学の連携をより深化させることで地域のさらなる発展につなげるために、滋賀県・草津市・立命館大学による3者意見交換会が継続的に開催されている。

現在、草津市においては第6次総合計画が、立命館大学においてもR2030チャレンジ・デザインがそれぞれスタートしている。2024(令和6)年には草津市制施行70周年、立命館大学BKC開設30周年と双方が節目を迎える。これを機会に、草津市と立命館大学がさらに連携を深めていくためには、本市に多く居住、活動する同大学生を考慮した取組が必要であるが、大学生が草津市をどのように感じているのか、また何を望んでいるのか等の具体的な意識に関するデータは把握できていない。また、草津市民の立命館大学および大学生に対する具体的な意識調査も出来ていないことから、連携協力に関する協定の締結により、様々な連携事業が行われ、大学生と市民が交わる機会があった中で、お互いがどのような意識にあるのかを把握する必要がある。

そこで、本調査研究は、第1章では、草津市と立命館大学の状況について整理し、第2章では、草津市に対する意識を把握することを目的に学部生を対象にアンケート調査を実施し、その結果をまとめた。さらに、第3章では、大学生が地域で活動している事例についてヒアリング調査を行い、活動理由等の把握を行う一方、第4章では、草津市民の立命館大学および大学生に対する意識を把握することを目的にアンケート調査を実施し、その結果をまとめた。そして、最後の第5章では、各調査結果からみえた実態や課題から、大学および大学生との連携の方向性を検討した。

第1章 草津市と立命館大学の現状について

1 草津市の状況

(1) これまでの草津市における大学を生かしたまちづくりの位置づけ

総合計画における大学を生かしたまちづくりの位置づけについては、第3次草津市総合計画「くさつハイプラン21」(1991(平成3)年～1998(平成10)年)では、高校・大学分野において、「大学などの高等教育機関の設置・拡充」、「大学などの高等教育機関の地域社会への開放」を基本方針に位置づけ、1994(平成6)年に立命館大学BKCが開設された。引き続き、第4次草津市総合計画「くさつ2010ビジョン」(1999(平成11)年～2009(平成21)年)では、基本方針に「大学を生かしたまちづくり」を掲げ、基本方向「未来を育む人間都市づくり」における「生涯学習社会の構築」として高校・大学教育を位置づけ、「草津市と立命館大学との連携協力に関する協定書」の締結や「草津市と立命館大学との協定型インターンシップ・プログラムに関する覚書」¹の締結などを行った。第5次草津市総合計画基本構想(2010(平成22)年～2020(令和2)年)のまちづくりの基本構想では、「“若い力”が地域社会のなかで活躍し、新たなまちづくりの動きをつくる原動力となっていけるよう、大学等との連携による仕組みづくりを充実させていきます。」と示し、表1-1で示すように、各大学等との包括協定の締結やアーバンデザインセンターびわこ・くさつ(以下「UDCBK」という。)²の開設など、大学等と行政の連携や産学公民の協働に取り組んだ。

表1-1 大学等との包括協定一覧

大学・高校名	締結日	協定の名称
立命館大学	2003(平成15)年11月6日	草津市と立命館大学との連携協力に関する協定
滋賀大学	2010(平成22)年5月31日	草津市と滋賀大学との協力に関する協定・覚書
成安造形大学	2010(平成22)年8月5日	草津市と成安造形大学との協力に関する協定
京都橘大学	2014(平成26)年12月25日	草津市と京都橘大学との協力に関する協定
滋賀県立大学	2016(平成28)年3月30日	草津市と滋賀県立大学との連携・協力に関する協定
滋賀医科大学	2017(平成29)年3月29日	草津市と滋賀医科大学との協力に関する協定
龍谷大学	2018(平成30)年2月23日	草津市と龍谷大学との連携協力に関する協定
県立湖南農業高等学校	2018(平成30)年12月12日	草津市と滋賀県立湖南農業高等学校との協力に関する協定

出所：草津未来研究所作成

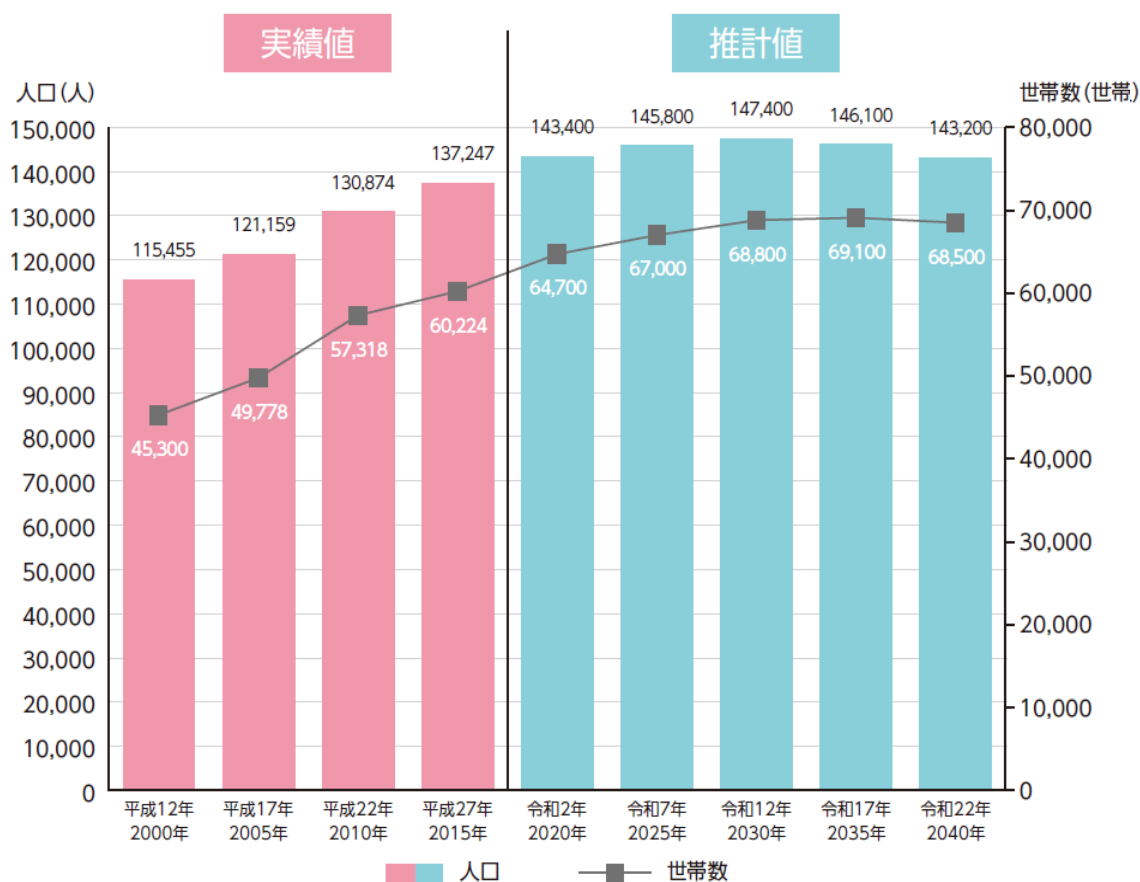
(2) 2020年国勢調査結果による草津市の状況

2020年国勢調査人口等基本集計結果(確定値)による本市の人口は143,913人であつ

¹ 2005(平成17)年3月29日に、草津市長と立命館大学BKC 教学部長にて締結。2006(平成18)年2月27日および2009(平成21)年8月3日に改定を行い、対象を大学全体に拡充した他、研修内容を改正した。

² 2016(平成28)年10月にフェリエ南草津5階に開設、2017(平成29)年8月に西友南草津店1階に移転。

た。2015年国勢調査と比べると6,666人(4.9%)の増加となり、引き続き人口増加が続いているものの、増加率は1975年の39.8%をピークに下降傾向にある。2021(令和3)年3月に策定された第6次草津市総合計画基本構想における人口の見通しにおいては、図1-1が示すように、依然継続して人口が増加し、2030(令和12)年には147,400人程度に達する見通しであるが、その後は減少に転じ、2040(令和22)年には143,200人程度になると見込まれている。



(草津市推計:実績値は各年国勢調査)

出所: 第6次草津市総合計画 基本構想

図1-1 草津市の人口・世帯数の見通し

また、表1-2が示すように、草津市の総人口を年齢3区分別にみると、15歳未満人口(年少人口)は19,722人、15歳～64歳人口(生産年齢人口)は93,062人、65歳以上人口(高齢者人口)は31,129人となっており、総人口に占める割合を前回調査と比べると、15歳未満人口は14.7%から13.7%に低下、15～64歳人口は65.2%から64.7%に低下、65歳以上人口は20.0%から21.6%に上昇で、少子高齢化が進み、生産年齢人口の割合が減少するという日本全体の傾向は、本市も同様である。

しかしながら、表 1-3、表 1-4 が示すように、多くの学部生³が該当する年齢である 19 歳～22 歳、そして大学院生⁴も含めた 19 歳～27 歳の本市の総人口に占める割合は、わが国の総人口に占める割合に比べて高く、また 5 年齢ごとの小学校区・地区の人口を比較した場合に、大学周辺の玉川、南笠東小学校区の学部生や大学院生が属する年齢区分の人口や割合は高く、立命館大学 BKC の影響は大きいと考えられる。

表 1-2 年齢 3 区分別人口と割合

年次	人口 (人)				構成比 (%)		
	総数	15 歳未満	15～64 歳	65 歳以上	15 歳未満	15～64 歳	65 歳以上
2000 年	115,455	17,034	85,165	13,059	14.8	73.9	11.3
2005 年	121,159	17,593	86,477	16,738	14.6	71.6	13.9
2010 年	130,874	18,752	89,186	21,427	14.5	68.9	16.6
2015 年	137,247	19,741	87,537	26,879	14.7	65.2	20.0
2020 年	143,913	19,722	93,062	31,129	13.7	64.7	21.6

注) 構成比は表章単位で四捨五入しているため、合計が 100%にならないことがある。

出所：国勢調査

表 1-3 19～22 歳・19～27 歳人口と割合

	人口 (人)			構成比 (%)	
	総数	19～22 歳	19～27 歳	19～22 歳	19～27 歳
全国	126,146,099	4,704,725	10,705,899	3.7	8.5
草津市	143,913	8,776	16,986	6.1	11.8

出所：国勢調査

表 1-4 各小学校区・地区の年齢区分別人口と割合

小学校区等	人口 (人)				構成比 (%)	
	総数	15～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	15～19 歳	15～29 歳
志津	14,177	721	907	775	2,403	16.9
志津南	6,408	358	279	161	798	12.5
草津	11,448	476	579	693	1,748	15.3
大路	11,644	582	603	569	1,754	15.1
矢倉	10,609	588	838	493	1,919	18.1
渋川	9,931	535	593	596	1,724	17.4
老上西	9,465	456	479	337	1,272	13.4
老上	9,418	390	435	551	1,376	14.6
玉川	16,380	1,125	2,631	1,028	4,784	29.2
南笠東	10,380	723	1,669	507	2,899	27.9
山田	7,634	300	386	354	1,040	13.6
笠縫	10,846	463	409	415	1,287	11.9
笠縫東	10,984	480	509	531	1,520	13.8
常盤	4,589	190	196	185	571	12.4
合計	143,913	7,387	10,513	7,195	25,095	17.4

出所：国勢調査

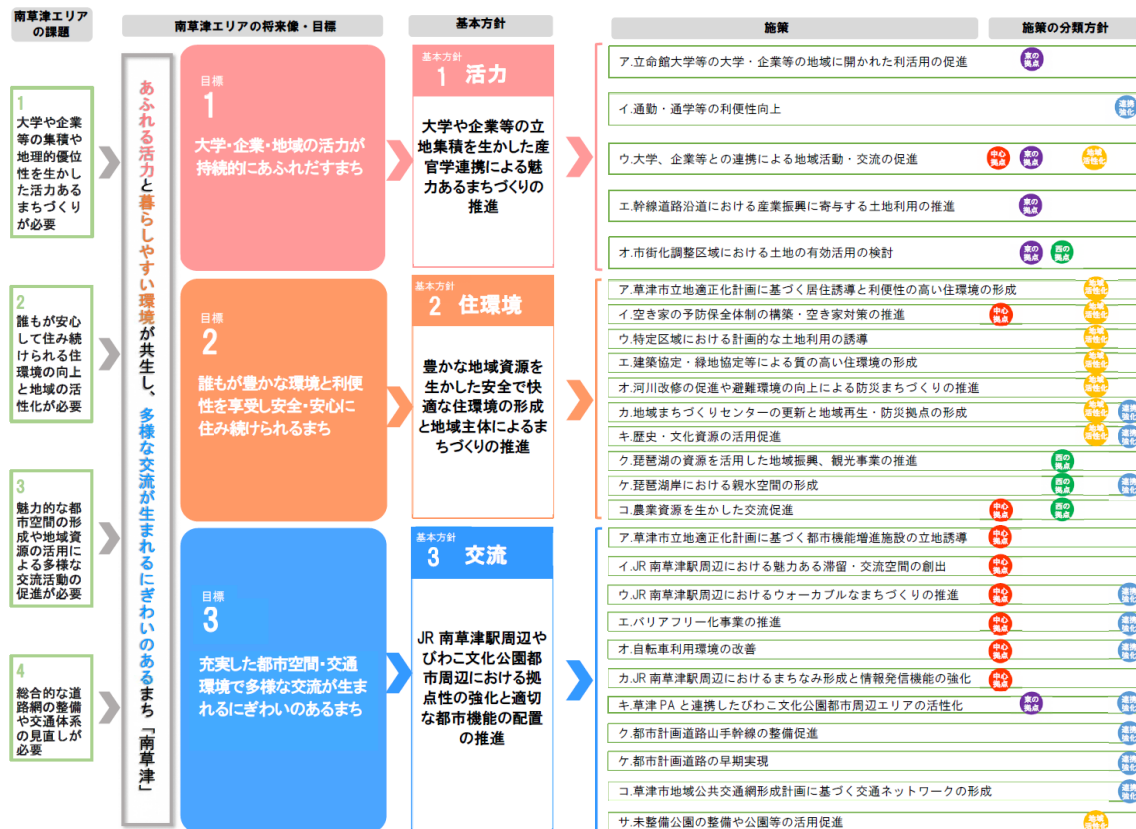
³ 大学の学部³に在籍する学生で、卒業時には学士号を取得する。

⁴ 学士号取得者および同等の学力があると認められる大学院修士課程、博士課程等に在籍する学生で、各課程を修了し、基準を満たした場合、修士号、博士号の学位を取得する。

(3) 現在の各計画における大学の位置づけ

2021(令和3)年度からスタートし、2032(令和14)年度までの本市のまちづくりの指針となる第6次草津市総合計画基本構想では、将来のまちの構造で「まちなか・にぎわいゾーン」、「丘陵・産業・交流ゾーン」、「湖岸・農業・再生ゾーン」の3つのゾーンを位置づけ、丘陵・産業・交流ゾーンは、「製造業等の産業活動を促進するとともに、大学を中心とした様々な分野の人材育成・研究・開発のほか、福祉、医療、文化等の交流活動を促進するゾーンです。」と謳っており(草津市2021: 28)、第1期基本計画(2021(令和3)年~2024(令和6)年)では、「多様な連携・交流の展開」の基本方針において、行政の役割を「大学の知を地域の活性化に生かせるよう支援します。」と示し、「産学公民の連携によるまちづくりの展開」を施策に位置づけている(草津市2021b: 167)。

2021(令和3)年10月に策定され、JR南草津駅周辺とその周辺の地域(志津南、矢倉、老上、老上西、玉川、南笠東学区)において、今後のまちづくりの推進の方向性を定めた南草津エリアまちづくり推進ビジョン(以下「南草津ビジョン」という。)では、図1-2が示すように、目標1に「大学・企業・地域の活力が持続的にあふれだすまち」、基本方針1を「活力」として、大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進を掲げている。



出所：南草津ビジョン

図1-2 南草津ビジョンの施策の体系

また、南草津ビジョンの推進体制においても、「地域(市民)や大学・企業、関係団体および行政等の連携体制のもとプロジェクトに取り組み、南草津エリアのまちづくりを進めていくことを目指します。」と謳っている(草津市 2021c: 34)。

2 草津市における立命館大学に関する状況

表 1-5、表 1-6 が示すように、1994(平成 6)年に理工学部が開設され、1998(平成 10)年には経済学部・経営学部が加わり、以降も新たな学部が設置されるなど、BKC が開設された当初は約 5,000 人であった学生数が、現在は 15,000 人を超え、その内約 7,500 人が草津市に居住すると言われている。

しかし、2015(平成 27)年には経営学部・経営学研究科が OIC に移転し、2024(令和 6)年にも情報理工学部・情報理工学研究科が OIC に移転する予定である。

表 1-5 立命館大学 BKC 学生数

2022 年 5 月 1 日現在 単位:人

学部		大学院(修士・博士前期)		大学院(博士後期)	
経済学部	3,242	経済学研究科	87	経済学研究科	20
理工学部	4,071	理工学研究科	824	理工学研究科	74
情報理工学部	2,019	情報理工学研究科	371	情報理工学研究科	64
薬学部	816	薬学研究科	61	薬学研究科	19
生命科学部	1,277	生命科学研究科	311	生命科学研究科	24
スポーツ健康科学部	1,030	スポーツ健康科学研究科	65	スポーツ健康科学研究科	49
食マネジメント学部	1,261	食マネジメント研究科	35	食マネジメント研究科	5
小計	13,716	小計	1,754	小計	255

出所：立命館大学ホームページを基に作成

表 1-6 草津市における立命館大学の変遷

年次	内容
1994 年	びわこ・くさつキャンパス(BKC)開設、理工学部拡充移転
1998 年	経済・経営学部 BKC へ移転
2004 年	情報理工学部を設置
2008 年	生命科学部・薬学部を設置
2010 年	スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科を設置
2012 年	情報理工学研究科・生命科学研究科を設置
2014 年	薬学研究科を設置
2015 年	経営学部が大阪いばらきキャンパス(OIC)に移転
2018 年	食マネジメント学部を設置
2021 年	食マネジメント研究科を設置

出所：立命館大学ホームページを基に作成

学校法人立命館では、2030 年に向けて「学園ビジョン R2030 挑戦をもっと自由に」を掲げられ、6 つの政策目標⁵の 1 つに「未来社会を描くキャンパス創造」を位置づけ、「キャンパスを最大限活用して、地域や社会との関係を強め、社会におけるキャンパスの新しい価値提案に挑戦します。」と謳われている(立命館大学 2018: 6)。

また、立命館大学全体と各学部・研究科の将来計画の方向性、各キャンパス・部門の基本課題を示す「チャレンジ・デザイン」において、BKC は「グローバルに展開する高齢化社会への取り組みや、健康長寿国としての食や健康に関する研究・教育を地域に還元し、環びわこ地域との共生、健康で豊かな生活創造への貢献など、地域に開かれた大学として展開する。」と謳われている(立命館大学 2020: 41)。

学園ビジョンR2030の政策目標

学園ビジョンR2030の学園像・人間像を実現するために、6つの政策目標を示します。

新たな価値創造の実現

将来の社会のあるべき姿を思い描き、その実現に向けた新たな価値創造に挑戦する人を応援し、立命館学園として新たな価値創造に挑戦します。

- 常識にとらわれず、より良い社会を目指して自ら課題を設定し、その解決に取り組む主体性を育成するために、多様な人とつながり、また多様な知識に接することにより、豊かな発想や考えを生み出すことのできる教育・研究環境を創造します。
- 社会の変化に対応するとともに、将来の社会を見据えて、社会に必要な新たな知の領域を創造し、それを高める場を提供します。
- 様々な場面で新たな価値の創造を実現すべく、基礎研究、応用研究、さらには社会実装に至るまで、フェーズに応じた研究の場を充実させます。

グローバル社会への主体的貢献

グローバル化に伴う世界の変化が益々複雑化するなかで、地に至るまで理念を掲げ、他者への共感と信頼を築く主体として、世界がより良い方向に進むことに貢献するために教育・研究のグローバル化に挑戦します。

- グローバル化推進の目的として、現在と将来のグローバル社会に潜む様々な課題を洞察し、その解決に尽力する姿勢を明確にすることと定義し、教育・研究においてその具現化を図ります。
- 国際標準の学びの質保証をはかり、海外大学をはじめとする国際的なネットワークを通じた教育連携を進め、さらに進んだグローバル教育・研究の深化を図ります。
- 世界のさまざまな国・地域、多様な文化的背景を持った児童、生徒、学生、教職員、校友が、様々な形で交流・共修することのできるグローバル教育・研究を推進します。

テクノロジーを活かした教育・研究の進化

テクノロジーが社会を大きく変えていく時代において、進化するテクノロジーを適切に活用し、教育・研究の高度化に努めるとともに、あるべき社会の創造に貢献するテクノロジーの創出に挑戦します。

- 多彩なデバイスやテクノロジーを活用し、学習支援の充実や時間と場所にとらわれず自由に学ぶことができる新たな教育システムの構築に取り組みます。
- テクノロジーが加速度的に広がる社会において、新しい知識と技術を導入し、時代をリードする教育・研究を推進します。
- 技術社会の動向を注視し、新たなテクノロジーの創出によって未来社会のあり方をデザインし、積極的に発信します。

未来社会を描くキャンパス創造

キャンパスを最大限活用して、地域や社会との関係を強め、社会におけるキャンパスの新しい価値提案に挑戦します。

- 豊富な知的学術資産が集積しているキャンパスを、より良い社会をつくるための一つの社会(モデルフィールド)とみなし、その未来像をキャンパスで実践し、その成果を社会に実装します。
- キャンパスと地域社会の境界をなくし、豊かな教育研究資源を社会に開放し、魅力に満ちた未来の社会と地域文化の創造に貢献します。
- テクノロジーの活用によってキャンパスを全く持たない大学・学校が新たに展開するなかで、改めてキャンパスを有することの意義を再確認し、キャンパスを児童、生徒、学生、教職員、校友のリアルな交流を生み出す、実践の場として展開します。

シームレスな学園展開

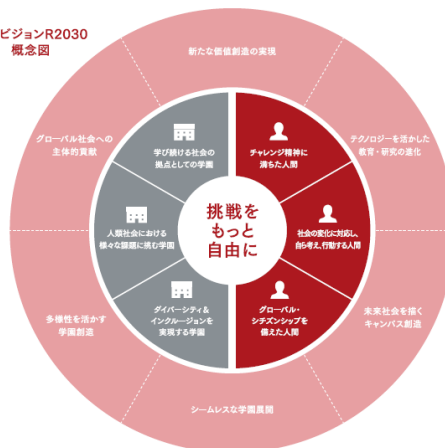
新たな価値の創造に挑戦する環境を充実させるために、空間的、地理的、時間的と様々な要素でシームレスにつながる教育・研究に挑戦します。

多様性を活かす学園創造

児童、生徒、学生から教職員、校友に至る多様な個人と多様な組織が交わる学園の多様性を(集合力)としてプロデュースする学園創造に挑戦します。

- 多世代の人々が集い、社会的・文化的背景の異なる多様な人びとが交流しあう、幅広い学びの機会を提供します。
- 立命館大学、立命館アジア太平洋大学、各附属校の枠を超えた立命館ならではのシームレスな教育・研究を展開します。また、人文社会科学系・自然科学系の融合(文理総合)を一層加速させ、分野を横断した新たな教育・研究を展開します。
- 産業界、自治体、NPOをはじめとする社会の様々な組織との多様な連携により、教育・研究の新たな展開を推進します。
- 各大学・附属校がそれぞれの強みや個性を最大限発揮することにより、新たな価値が生まれ、それらが立命館学園のさらなる強みや個性として際立つ運営体制を整備します。
- 多様な児童、生徒、学生、教職員が互いの強みを発揮できるように、組織が個人の成長を後押しし、個人と組織が互いの価値を高め合う学園文化を育みます。
- 世界に広がる校友や父母をはじめ、立命館学園の多様なステークホルダーの参画による、多様性を活かした学園運営に取り組みます。

学園ビジョンR2030 概念図



出所：学園ビジョン R2030

図 1-3 学園ビジョン 2030 の政策目標と概念図

⁵ 「新たな価値創造の実現」「グローバル社会への主体的貢献」「テクノロジーを活かした教育・研究の進化」「未来社会を描くキャンパス創造」「シームレスな学園展開」「多様性を活かす学園創造」の 6 つの政策目標が掲げられている。

3 草津市と立命館大学の連携

1994(平成6)年のBKC開設以来、草津市と立命館大学は個別事業等で連携を行ってき
ており、またBKCは地域に開かれた大学を目指して、さまざまな地域交流にチャレンジ
され、周辺自治会との交流や地域の行事への学生サークルの参加などが行われた。

こうした連携実績を踏まえた上で、2003(平成15)年11月6日に、草津市と立命館大
学が、これまでの連携をさらに深めることを目的に、産官学連携や人材育成等あらゆる
連携協力関係を発展させるために、包括協定として、草津市と立命館大学との連携協力
に関する協定を締結した(図1-4)。

<p style="text-align: center;">草津市と立命館大学との連携協力に関する協定書</p> <p>草津市と立命館大学は、相互の人的・知的資源の交流・活用を図り、産業、 教育、文化、まちづくり等の分野で協力し、地域の発展と人材の育成に寄与す るための協定を締結する。</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 この協定は、草津市と立命館大学が包括的な連携のもと産業、教育、文 化、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に 寄与することを目的とする。</p> <p>(協力事項)</p> <p>第2条 両者は、次の事項について協力する。</p> <p>(1) 産業振興のための連携 (2) 教育・文化・スポーツの振興・発展のための連携 (3) 人材育成のための連携 (4) まちづくりのための連携 (5) その他両者が協議して必要と認める連携</p> <p>(期間)</p> <p>第3条 この協定書の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、こ の協定書の有効期間満了の日の1月前までに、草津市と立命館大学のいずれ からも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その 後も同様とする。</p> <p>(その他)</p> <p>第4条 この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他の事項について は、草津市と立命館大学が協議して別に定めるものとする。</p>

図1-4 草津市と立命館大学との包括協定項目

4 草津市と立命館大学との連携取組実態

草津市では、大学等の教育機関の「知」を活かし、相互連携を図りながら地域の活性
化を推進するため、立命館大学をはじめ包括協定等を締結している7大学1高等学校と
各種事業を行っている。

草津未来研究所が各課に照会を行い把握しているこの3年間の連携事業の実績を見
ると、表1-7に示すように、約5割は立命館大学との連携になっており、事業内容では
審議会等委員依頼が全体の6割を超えている。また、連携件数については、新型コロナ
ウイルス感染症の影響がありながらも、表1-8に示すように増加している。

表 1-7 草津市と大学等との包括協定に関する連携事業の実績

	令和元年度 実績								令和2年度 実績								令和3年度 実績											
	立命館大学	滋賀大学	成安造形大学	京都橘大学	滋賀県立大学	滋賀医科大学	龍谷大学	湖南農業高校	合計	立命館大学	滋賀大学	成安造形大学	京都橘大学	滋賀県立大学	滋賀医科大学	龍谷大学	湖南農業高校	合計	立命館大学	滋賀大学	成安造形大学	京都橘大学	滋賀県立大学	滋賀医科大学	龍谷大学	湖南農業高校	合計	
イベント協力	9	0	0	0	0	1	1	5	16	11	0	0	0	0	0	0	0	7	18	13	1	0	0	1	0	0	9	24
インターンシップ	2	0	0	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	0	0	0	0	4
共催・後援事業	13	4	1	2	1	1	1	0	23	14	5	0	2	1	0	0	0	0	22	14	5	1	1	1	1	0	0	23
業務委託	5	0	0	1	0	0	0	0	6	5	1	0	2	0	0	0	0	0	8	3	1	0	2	1	0	0	1	8
講師依頼	6	0	0	2	0	0	0	2	10	3	1	0	0	0	1	1	2	8	4	1	1	0	1	0	2	0	9	
審議会等委員依頼	54	12	3	8	14	4	18	3	116	53	8	5	8	15	5	25	4	123	57	9	5	7	12	3	19	4	116	
補助事業	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	0	0	2	0	0	0	1	5	
その他	2	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	93	16	4	14	15	6	20	12	180	89	15	5	12	16	6	26	14	183	96	17	7	13	16	4	21	15	189	

出所：草津未来研究所作成

表 1-8 草津市と大学等との包括協定に関する連携件数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
立命館大学	44	46	50	55	44	73	84	83	83	93	89	96
滋賀大学	10	9	7	7	10	15	13	20	20	16	15	17
成安造形大学	3	5	3	6	3	5	5	5	7	4	5	7
京都橘大学						13	13	11	14	14	12	13
滋賀県立大学							9	12	12	15	16	16
滋賀医科大学							4	4	6	6	6	4
龍谷大学								7	13	20	26	21
湖南農業高校									15	12	14	15
合計	57	60	60	68	57	106	128	142	170	180	183	189

出所：草津未来研究所作成

立命館大学との連携事業の内容については、審議会等委員依頼が最も多く過半数を占めており、その他、草津宿場まつりやみなくさままつり等へのイベント協力、正課の活動であるシチズンシップ・スタディーズ⁶の学生の受け入れ、産業支援コーディネータ⁷の業務委託等を実施している。また、草津未来研究所においても、研究所の所長や副所長等の役員就任や調査研究に関する分析等の業務委託、UDCBKのセンター長、副センター

⁶ 立命館大学ホームページの科目概要では、「地域社会で行われる事業に参加し運営を支えることを通じて、そこに携わる人々の役割や責務を体験的に学ぶ。」とされている。

⁷ 人材の発掘やマッチングを担う草津イノベーションコーディネータとして、企業訪問活動を実施。

長への就任、事業プロジェクト⁸への参加、社会実験準備事業⁹での業務委託などの連携がある。

また、地域と大学の発展に向けて意見交換を図るため、滋賀県・草津市・立命館大学の3者トップによる意見交換会を行っている他、立命館大学が事務局を担うアクティブライフ共創コンソーシアム¹⁰に、オブザーバーとして参画している。

5 草津市民および立命館大学生の意識

これまで立命館大学 BKC の大学生を対象に本市が実施した草津市への意識の調査としては、2012(平成 24)年度に草津未来研究所の調査研究「南草津のまちづくりに関する調査研究報告書—南草津地域のまちづくりの方向性について—」において、「地域参加学習入門(近江・草津論)」の受講学生を対象に、「南草津が私の「第二のふるさと」といえるようになるためには、どのような体験機会が必要か？」¹¹があるが(草津市 2013b: 55-56)、BKC の大学生が草津市をどのように感じているのか、また何を望んでいるのか等の具体的な意識に関するデータは把握できていない。

また、草津市民の意識に関しては、毎年実施している草津市のまちづくりについての市民意識調査において、2021(令和 3)年度結果¹²では、産学公民の連携や多様な連携と幅広い市民交流を促して活気があふれるまちづくりに努める「多様な連携・交流の展開」の取組について、満足度・重要度の結果は表 1-9 のとおりであるが、大学および大学生に関する具体的な意識調査は出来ていない。

表 1-9 市民意識調査における多様な連携・交流の展開の取組の評価

満足度	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	わからない	無回答
多様な連携・交流の展開	4.6%	7.5%	51.7%	4.8%	1.5%	28.6%	1.4%
重要度	思う	やや思う	普通	あまり思わない	思わない	わからない	無回答
多様な連携・交流の展開	14.3%	15.0%	42.4%	7.2%	2.7%	16.6%	1.8%

出所：2021(令和 3)年度市民意識調査結果

⁸ 「都市デザイン連携プロジェクト」「都市と交通プロジェクト」「大学生が住むまちプロジェクト」の3プロジェクトを実施している。

⁹ 包括協定を締結する7大学を対象に、UDCBK の提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託している。

¹⁰ 2022(令和 4)年 9 月 29 日に設立。立命館大学スポーツ健康科学総合研究所が事務局を担い、大学や研究機関との学術連携に基づくスポーツ・健康・ウェルフェアの研究コンソーシアム。

¹¹ 2012(平成 24)年 6 月 13 日実施。有効回答数 56 件。

¹² 無作為抽出した 18 歳以上の市民 3,000 人を対象に調査は無記名とし、2022(令和 4)年 2 月 1 日から 2 月 21 日までを調査期間として、郵送およびインターネットにより実施した。有効回答 1,019 件、有効回答率 34.0%を得た。

草津市は 2030 年までは人口が増加する見通しであるが、以降は人口減少に転じることとなり、全国で少子高齢化が進んでいる中、草津市も同じ状況となる。全国では、関係人口を視野に入れた定住促進を推進している自治体は多くあるが、本市には立命館大学 BKC があり、本市に多く居住、活動する同大学生を考慮した取組は必要である。

また、地方自治体と大学生の連携について、早稲田大学での全国各地の自治体が学生に地域活性化や観光振興などの課題を提示し、学内公募で選考された学生チームが解決策を提案する「地域連携ワークショップ」などの取組¹³があるが、草津市内でも立命館大学 BKC 学生オフィスやサービスラーニングセンターを通じて、多くの立命館大学生が活動しており、活動の実態や課題を把握することにより、効率的に地域の活性化が図られることが期待される。

令和 3 年度草津未来研究所第 4 回運営会議¹⁴において、令和 4 年度の調査研究テーマ案を議論した際に、未来研究所役員より、「草津市や市民の方が大学に何を望んでいるのかが分からないところである。」、「2024 年は草津市が市制施行 70 周年、BKC が開設 30 周年と双方が節目を迎えるためことを念頭に調査研究されると良い。」との助言をいただいている。

草津市が、本市に立地する立命館大学と、2024 年の市制施行 70 周年、BKC 開設 30 周年を機会に更なる連携を推進するためには、草津市および草津市民と、立命館大学および立命館大学生がお互いのことをどのように意識しているのか等の情報を共有できれば、市と大学の双方にとって有益な取り組みの展開につなげることができる。そのためには、お互いの意識や関わりをまずは把握する必要があると考えられる。

¹³ 文部科学省(2021)「地域で学び、地域を支える。大学による地方創生の取組事例集」

¹⁴ 2022(令和 4)年 2 月 4 日に草津市役所で開催。

第2章 立命館大学学部生の草津市に対する意識

1 アンケート調査の概要

(1) 目的

市内に立地する唯一の大学である立命館大学 BKC に所属する学生数が現在 15,000 人を超え、市内人口の 1 割以上を占めることから、立命館大学生の意見の政策への反映や市政への参画が課題であるものの、大学生の考えや意見等のデータを市は持ち合わせていないことから、今回 BKC で学ぶ大学生のうち学部生を対象に、草津市内での生活や地域活動の実態、また草津市をどのように感じているのか、就職や定住に対する意識等、学部生の意識に関するデータの収集を目的としてアンケート調査を行うこととした。

(2) 方法

調査方法：ウェブアンケート

対象者：立命館大学 BKC に所属する学部生 13,716 人(2022 年 5 月 1 日現在)¹⁵

経済学部・理工学部・情報理工学部・薬学部・生命科学部・スポーツ健康科学部・食マネジメント学部の学部生を対象とした。

大学院生については、学部生に比べて人数が少ないこと、また日本語を主要言語としない大学院生も一定数いることから、対象としなかった。

回答期間：2022 年 10 月 17 日(月)～11 月 28 日(月)

回答数：332 人

アンケート内容：参考資料 参照

今回のアンケートでは、大きく下記の視点を前提として設問を設定した。

- ・まち(草津市)への満足度を把握すること
- ・地域(草津市内)での活動実態を把握すること
- ・大学卒業後の意識を把握すること

設問

問 1～7 回答者の属性(学部、回生、出身地など)

問 8、9 通学に関する状況

問 10、11 大学生活での関心事

問 12～14 生活・活動の状況、情報の入手手段

問 15、16 まちへの満足度、活動場所

問 17、18 地域活動への参加状況

¹⁵ 立命館大学ホームページを参照。

問 19～40 各地域活動への参加理由、情報の入手手段

問 41、42 卒業後の草津市への意識

問 43～45 就職、起業に関する意識

問 46 大学生活を送る中で良かったこと、不便に感じたことの自由記述

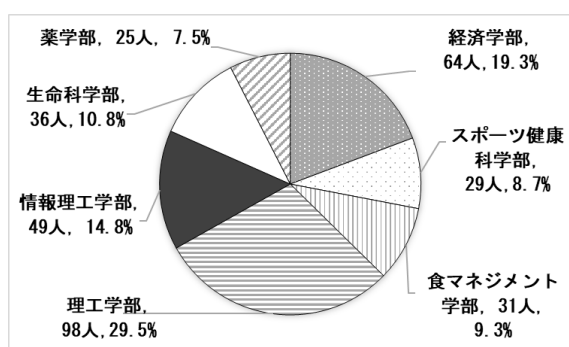
今回のアンケート調査については、調査研究の趣旨を BKC 事務局はもとより、朱雀キャンパスの法人本部にも御理解いただき、アンケートの設計や実施に関して協力をいただいた。学部生へのアンケートの協力依頼の広報では、BKC 教学部門の御支援により立命館大学の e-learning ツールである manaba+R において、アンケート調査への協力を広く呼び掛けていただき、BKC 地域連携課には学部生が集まりやすい施設・ラウンジや各事務室窓口等へチラシを配架・配布いただいた。また、未来研究所役員の教員を通じて各授業での教員からの周知や、BKC で開催されたイベント¹⁶でのチラシ配布、ヒアリング調査を実施した学生団体への協力依頼を行い、アンケート調査への回答を依頼した。

回答者数が BKC に所属する学部生数の割合としては高くないこと、また回答者について、積極的に大学との関わりや地域活動等をしていることが想定されるため、必ずしも立命館大学 BKC 学部生全体の総意とは一致していない可能性があるが、一定の傾向は読み取ることができると考える。

なお、本報告書におけるパーセンテージ(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が 100.0%にならないことがある。

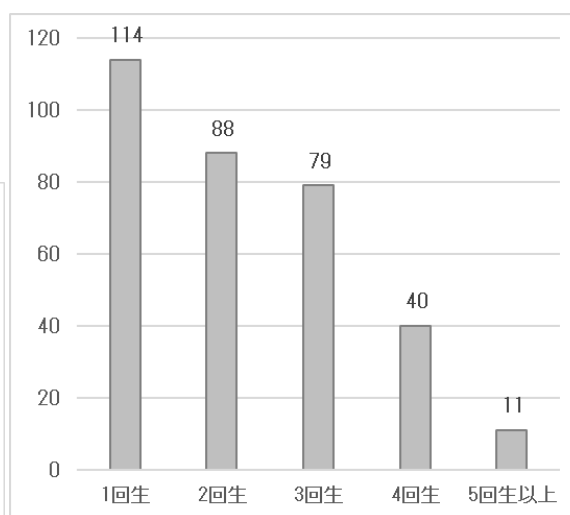
2 アンケート調査結果

(1) 回答者の属性



出所：草津未来研究所作成

図 2-1 所属学部(設問 1)

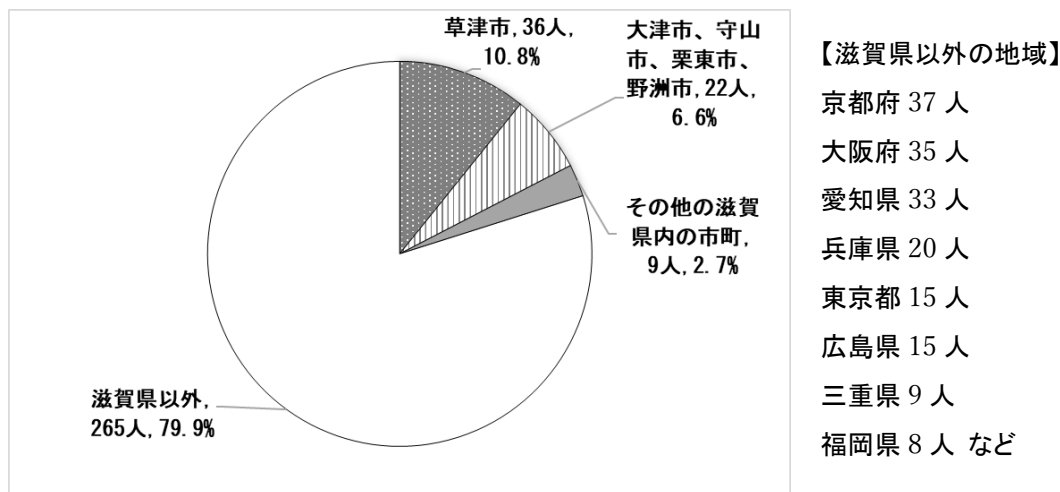


出所：草津未来研究所作成

図 2-2 学年(設問 2)

¹⁶ 2022(令和4)年11月5日に開催された、BKC ウェルカムデーびわこ・くさつ健幸フェスタ 2022。

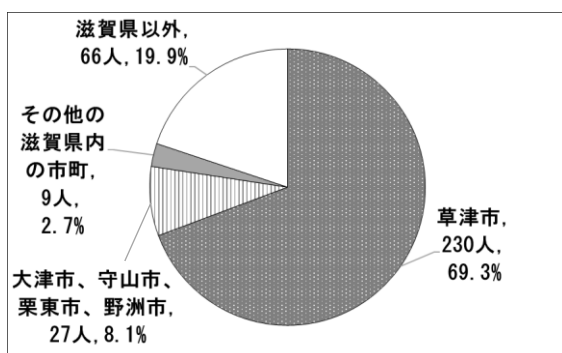
回答者の所属学部は、図 2-1 で示すとおりであるが、この回答割合は実際に各学部
 所属する学部生の割合とほぼ一致している。また、学年については、1 回生からの回答
 が一番多く、2 回生、3 回生と続いている(図 2-2)。



出所：草津未来研究所作成

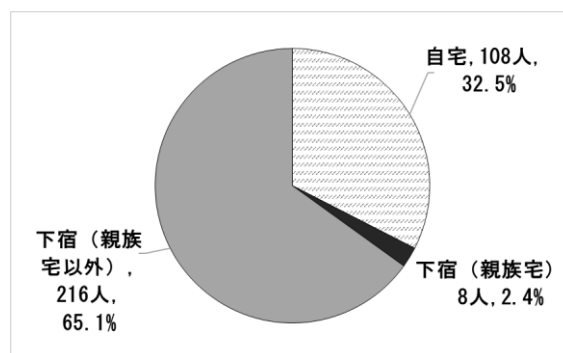
図 2-3 大学入学前に住んでいた地域(設問 3・4)

大学に入学前に住んでいた地域については、図 2-3 で示すように、8 割近くが滋賀県
 以外と回答しており、京都府や大阪府などの近畿地方や、愛知県や東京都、広島県など
 の政令指定都市など大都市のある都道府県の回答者の割合が高い。



出所：草津未来研究所作成

図 2-4 現在住んでいる地域(設問 5)



出所：草津未来研究所作成

図 2-5 住まいの状況(設問 7)

また、現在住んでいる地域については、草津市と答えた回答者が 7 割近くいるが、実
 際は半数程度と言われており、下宿生の回答割合が高かったと想定される(図 2-4)。

住まいの状況としては、下宿(親族以外)が 65.1%と最も多く、自宅は 32.5%となっ
 ている(図 2-5)。

(2) 立命館大学学部生の草津市に対する意識の現状

大学生活において関心のあること(設問 10)については、表 2-1 で示すように、いずれの項目でも、「とても関心がある」または「少し関心がある」に、最も多く回答があった。中でも、「大学での学びや学んだことの実践」や「資格の取得」は「とても関心がある」の回答割合が最も多かった他、「国や地方自治体の政策づくりに関わってみたい」においても、「とても関心がある」「少し関心がある」で 47.6%の回答があった。

表 2-1 大学生活において関心のあること(設問 10 および設問 11)

設問 10 : 大学生活において、次のことについてどれぐらい関心がありますか？

回答 10 : 項目ごとに当てはまる回答を 1 つ選んでください。

項目	とても 関心がある	少し関心が ある	どちらとも いえない	あまり 関心がない	全く関心が ない
大学での学びや学んだことの実践	48.2% 160人	40.1% 133人	7.2% 24人	2.7% 9人	1.8% 6人
地域の人との交流	17.8% 59人	31.3% 104人	22.0% 73人	21.7% 72人	7.2% 24人
スポーツに関係する活動	22.3% 74人	27.4% 91人	19.3% 64人	21.1% 70人	9.9% 33人
文化、芸術に関係する活動	16.3% 54人	35.2% 117人	26.8% 89人	15.7% 52人	6.0% 20人
ボランティアに関係する活動	17.5% 58人	34.9% 116人	23.2% 77人	16.9% 56人	7.5% 25人
資格の取得	39.8% 132人	37.3% 124人	12.3% 41人	6.9% 23人	3.6% 12人
アルバイト	37.7% 125人	40.1% 133人	14.5% 48人	4.5% 15人	3.3% 11人
国や地方自治体の政策づくりに関わってみたい	16.9% 55人	30.7% 102人	27.7% 92人	15.4% 51人	9.3% 31人

出所：草津未来研究所作成

設問 11 : 上記以外で大学生活で関心があることがあれば、記入してください。

回答 11 : 回答数 25 人

国際交流。留学や海外のボランティア。町おこし・復興。商品開発。就職関係。
投資や起業。友人関係。など

また、今年度の草津市内における活動の頻度(設問 12)については、表 2-2 で示すように、買物や外食など、日常生活に関わる項目については、草津市内において一定の活動頻度の回答割合が多かったものの、他の項目については、全くしていないの回答割合が最も多かった。これには、新型コロナウイルス感染症の影響も一定あることが考えられる。

表 2-2 今年度の草津市内における活動の頻度(設問 12)

設問 1 2 : 今年の 4 月 1 日から 9 月 3 0 日までの草津市内における活動のおおよその頻度を教えてください。

回答 1 2 : 項目ごとに当てはまる回答を 1 つ選んでください。

項目	週 4 日 以上	週 2 ~ 3 日 程度	週 1 日 程度	月 2 ~ 3 日 程度	月 1 日 程度	それ 以下	全く して いない	わか らない
買物 (キャンパス外・ 草津市内)	13.9% 46人	<u>36.4%</u> <u>121人</u>	20.5% 68人	8.7% 29人	3.6% 12人	5.7% 19人	10.8% 36人	0.3% 1人
外食 (キャンパス外・ 草津市内)	3.9% 13人	16.0% 53人	<u>22.0%</u> <u>73人</u>	20.8% 69人	14.8% 49人	10.8% 36人	11.1% 37人	0.6% 2人
遊び (映画、娯楽施設 など) (キャンパス 外・草津市内)	1.8% 6人	3.6% 12人	16.6% 55人	20.5% 68人	19.9% 66人	16.0% 53人	<u>21.4%</u> <u>71人</u>	0.3% 1人
アルバイト (キャンパ ス外・草津市内)	6.0% 20人	30.1% 100人	8.1% 27人	3.0% 10人	1.2% 4人	3.9% 13人	<u>46.7%</u> <u>155人</u>	0.9% 3人
クラブ、サークル、団 体などでの活動 (キャン パス外・草津市内)	2.7% 9人	6.6% 22人	9.0% 30人	8.1% 27人	6.6% 22人	10.8% 36人	<u>53.0%</u> <u>176人</u>	3.0% 10人
クラブ、サークル、団 体などでの活動 (B K C 内)	9.6% 32人	13.6% 45人	13.6% 45人	6.6% 22人	4.8% 16人	5.7% 19人	<u>44.6%</u> <u>148人</u>	1.5% 5人
観光地巡り、まち歩き (草津市内)	1.2% 4人	1.8% 6人	6.3% 21人	7.8% 26人	14.8% 49人	21.4% 71人	<u>45.2%</u> <u>150人</u>	1.5% 5人

出所：草津未来研究所作成

草津市での満足度(設問 15)については、表 2-3 で示すように、「草津市は学生生活を過ごしやすいまちである」の項目について、「満足」「やや満足」を合わせて 57.8% が回答している。各項目においては、「飲食や日常生活の買い物をする店舗がある」や「安全に生活することができる」などの暮らしやすさの他、「琵琶湖や田園風景など自然が豊かである」で満足度が高い。

表 2-3 草津市での満足度(設問 15)

設問 1 5 : 草津市 (B K C を除く) について、どのように感じていますか？

回答 1 5 : 項目ごとに当てはまる回答を 1 つ選んでください。

	項目	満足	やや 満足	普通	やや 不満	不満	わからない ・あてはま らない
全 般	草津市は学生生活を過ごしや すいまちである	28.0% 93人	<u>29.8%</u> <u>99人</u>	24.7% 82人	9.9% 33人	3.9% 13人	3.6% 12人
生 活	飲食や日常生活の買い物をす る店舗がある	31.0% 103人	<u>33.4%</u> <u>111人</u>	18.7% 62人	8.7% 29人	4.5% 15人	3.6% 12人

生活	草津市の特産品（メロン、アオバナなど）や草津市産の品物を買える場所がある	7.5% 25人	13.6% 45人	<u>29.5%</u> <u>98人</u>	17.2% 57人	6.9% 23人	25.3% 84人
	娯楽施設などの遊ぶ場所がある	8.7% 29人	18.1% 60人	<u>32.5%</u> <u>108人</u>	20.5% 68人	14.2% 47人	6.0% 20人
	公共交通機関（バス）で市内の移動がしやすい	11.4% 38人	19.6% 65人	<u>25.9%</u> <u>86人</u>	20.5% 68人	14.5% 48人	8.1% 27人
	道路が整備されていて、徒歩や自転車で市内の移動がしやすい	14.5% 48人	<u>27.4%</u> <u>91人</u>	<u>27.4%</u> <u>91人</u>	13.6% 45人	14.2% 47人	3.0% 10人
	公園が整備されている	11.7% 39人	20.5% 68人	<u>36.7%</u> <u>122人</u>	8.1% 27人	4.8% 16人	18.1% 60人
	安全に生活することができる	31.6% 105人	<u>34.3%</u> <u>114人</u>	22.9% 76人	4.2% 14人	2.1% 7人	4.8% 16人
環境	観光地や見どころがある	5.7% 19人	15.7% 52人	<u>34.0%</u> <u>113人</u>	22.9% 76人	9.6% 32人	12.0% 40人
	歴史や文化情緒的な雰囲気を感じる場所や機会がある	8.9% 27人	26.2% 87人	<u>33.1%</u> <u>110人</u>	13.6% 45人	4.5% 15人	13.9% 46人
	琵琶湖や田園風景など自然が豊かである	<u>31.3%</u> <u>104人</u>	31.0% 103人	27.4% 91人	3.6% 12人	1.8% 6人	4.8% 16人
活動	アルバイトの求人募集がある	13.3% 44人	24.7% 82人	<u>31.3%</u> <u>104人</u>	12.7% 42人	4.5% 15人	13.6% 45人
	スポーツができる施設が充実している	9.3% 31人	20.5% 68人	<u>37.0%</u> <u>123人</u>	13.3% 44人	5.4% 18人	14.5% 48人
	文化活動ができる施設が充実している	6.6% 22人	21.4% 71人	<u>32.8%</u> <u>109人</u>	13.6% 45人	5.1% 17人	20.5% 68人
	地域において研究や成果の発表、実践を行う場所や協力してくれる人がある	9.0% 30人	17.2% 57人	<u>33.7%</u> <u>112人</u>	10.2% 34人	3.3% 11人	26.5% 88人
	まちづくり活動ができる施設が充実している	8.7% 29人	20.5% 68人	<u>36.4%</u> <u>121人</u>	6.0% 20人	6.9% 23人	21.4% 71人

出所：草津未来研究所作成

草津市の地域での活動への参加状況（設問 17）については、表 2-4 で示すように、「何度も参加したことがある」「1回だけ参加したことがある」と回答した学部生は一定おり、また、「参加したことはないが、参加してみたい」との回答割合がどの項目においても、最も回答割合が多かった。

表 2-4 草津市の地域での活動への参加状況(設問 17)

設問 17 : 学生生活で、草津市の地域での活動に参加したことがありますか？

回答 17 : 項目ごとに当てはまる回答を 1 つ選んでください。

項目	何度も参加したことがある	1 回だけ参加したことがある	参加したことはないが、参加してみたい	参加したくない・興味がない
住民の交流に関する活動 (祭りのサポートなど)	6.3% 21人	4.8% 16人	<u>52.4%</u> <u>174人</u>	36.4% 121人
町内会と連携した地域の問題に関する活動	4.2% 14人	4.2% 14人	<u>46.7%</u> <u>155人</u>	44.9% 149人
保育園や小中学校などの活動の支援	3.0% 10人	4.2% 14人	<u>55.4%</u> <u>184人</u>	37.3% 124人
子どもに関する活動(遊び相手や勉強のサポートなど)	4.5% 15人	3.9% 13人	<u>59.0%</u> <u>196人</u>	32.5% 108人
高齢者・障害者に関する活動(見守りなど)	1.8% 6人	1.8% 6人	<u>50.6%</u> <u>168人</u>	45.8% 152人
防災や防犯に関する活動(防災マップづくりやパトロールなど)	2.1% 7人	3.0% 10人	<u>48.2%</u> <u>160人</u>	46.7% 155人
健康づくりに関する活動(教室のサポートなど)	2.1% 7人	2.4% 8人	<u>52.1%</u> <u>173人</u>	43.4% 144人
スポーツに関する活動(教室や大会のサポートなど)	4.2% 14人	5.1% 17人	<u>54.5%</u> <u>181人</u>	36.1% 120人
歴史・文化に関する活動(文化財保護や発表会のサポートなど)	3.0% 10人	2.1% 7人	<u>51.8%</u> <u>172人</u>	43.1% 143人
生活環境に関する活動(清掃活動など)	3.0% 10人	3.6% 12人	<u>53.6%</u> <u>178人</u>	39.8% 132人
地球環境に関する活動(SDGs など)	2.4% 8人	4.5% 15人	<u>53.6%</u> <u>178人</u>	39.5% 131人

出所：草津未来研究所作成

卒業後の草津市との関わりに関する意識(設問 41 および 42)については、表 2-5 および 2-6 で示すように、卒業後も草津市に住みたい、または機会があれば草津市に住みたいとの回答が一定割合あり、その理由としては、「京都や大阪などへの交通が便利」の回答が多く、「買い物ができる店や病院などが身近にあり生活しやすい」「琵琶湖の湖岸や公園など、心が安らぐ環境がある」などの回答もあることから、都市圏に近く、生活の便利さと自然の豊かさに魅力を感じていると考えられる。

表 2-5 卒業後の草津市との関わりに関する意識 (設問 41)

設問 4 1 : 卒業後、あなたはどのような内容で、草津市に関わりたいと思いますか (複数回答)

回答 4 1 :

回 答	回答数	割合
①草津市で就職 (起業) し、草津市に住みたい	7人	2.1%
②滋賀県内 (草津市以外) で就職 (起業) し、草津市に住みたい	12人	3.6%
③京都や大阪などで就職 (起業) し、草津市に住みたい	31人	9.3%
④機会があれば、草津市に戻ってきて住みたい	47人	14.2%
⑤地域の人と交流を続けたい	30人	9.0%
⑥大学に関係した活動に参加したい	58人	17.5%
⑦大学以外の草津市内の活動に参加したい	22人	6.6%
⑧観光で訪れたい	65人	19.6%
⑨インターネットやSNSで応援したい	23人	6.9%
⑩ふるさと寄付で応援したい	39人	11.7%
⑪あまり関わる予定はない	120人	36.1%
⑫その他 ()	4人	1.2%
⑬わからない	26人	7.8%

※①～④の回答者は設問 4 2 も回答

※⑫その他の回答

買い物などでよく利用すると思う。たまに昔を懐かしんで訪れたい。

京都と草津を同じぐらい観光名所にさせたい。教員として草津市の高校に赴任したい。

出所：草津未来研究所作成

表 2-6 卒業後の草津市との関わりに関する意識 (設問 42)

設問 4 2 : 設問 4 1 で、①から④までの回答を選ばれた方にお聞きします。

草津市に住みたい理由について教えてください。(複数回答)

回答 4 2 : 回答者 75 人

回 答	回答数	割合
①実家がある	9人	12.0%
②買い物ができる店や病院などが身近にあり生活しやすい	29人	38.7%
③京都や大阪などへの交通が便利	47人	62.7%
④働く場所が多いなど、働く環境が整っている	9人	12.0%
⑤活動してみたい場所や機会がある	7人	9.3%
⑥大学と連携した事業をしてみたい	4人	5.3%
⑦地域で活動し、住民とのつながりがある	4人	5.3%
⑧琵琶湖の湖岸や公園など、心が安らぐ環境がある	29人	38.7%
⑨スポーツや文化施設などの趣味が楽しめる環境が整っている	9人	12.0%
⑩子育てをする環境が整っている	12人	16.0%
⑪友人が多いなど人間関係を重視	14人	18.7%
⑫その他 ()	2人	2.7%

※⑫その他の回答

幼い頃からずっと住んでいる街なので安心する。

出所：草津未来研究所作成

(3) 地域活動への参加に関心のある学部生の特徴と将来の草津市への居住選択の分析

今回の立命館大学の学部生向けアンケートの回答結果を、次の二点に焦点を当てて検討した。第一に、回答した学部生が地域活動への関心を高めた要因である。第二に、同じ学部生の卒業後の広い意味での草津市への居住選択の要因である。

まず、回答者の属性を今回のアンケート回答者からみていく。第2章の冒頭で紹介したが、回答者数の所属学部別の構成割合(図 2-1)では理工学部が 29.5%でもっとも多い回答割合であったが、大学が公表する理工学部在籍している学部生数の BKC における学部生数に占める割合は約 3 割であり、ほぼ一致している。学年(図 2-2)でみると、1 回生は 114 人であり、2 回生は 88 人、3 回生は 79 人、4 回生は 40 人であった。5 回生以上はごくわずかの 11 人が回答していた。

・地域活動への参加に関心のある学部生の特徴の分析

学部生が地域活動に参加したり、関心を持ったりする要因は何であろうか。このことを確かめるために、大学生活において関心のあること(設問 10)および草津市の地域での活動への参加状況(設問 17)のクロス表での分析を行った¹⁷。

表 2-1 によれば、大学生活において関心のあることのうちで、肯定的な回答が多かった「大学での学びや学んだことの実践」は、回答者の「とても関心がある」と「少し関心がある」とを合計すると、全回答者の 88.3%を占めていた。この項目は、肯定的な回答が多かった他の項目(資格の取得、アルバイトなど)よりも、さらに突出して多いことが分かった。

大学生活において関心のあること(設問 10)および草津市の地域での活動への参加状況(設問 17)のクロス表(表 2-7)をみると、大学生活において関心のあること(設問 10)において、「大学での学びや学んだことの実践」に「とても関心がある」や「少し関心がある」を選択した学生が、表内にある「住民との交流活動」(設問での項目選択肢は「住民の交流に関する活動(祭りなどのサポート)」)に対して、「参加したことがある」(濃い藍色)、「参加したことはないが、参加してみたい(関心がある)」(藍色)を多数選択していることが分かる(332 人中 194 人=20 人+98 人+15 人+61 人)。

逆に、「参加したくない・興味がない」は少数の回答者であった。このことから、大学での学びの実践を希望する学生の層と、地域での活動への参加や参加を希望する学生の層には、相当の重なりがあることを示すことができた。

¹⁷ 問 17 の分析においては、回答の「何度も参加したことがある」と「1 回だけ参加したことがある」を統合した。

表 2-7 大学での学びや学んだことの実践と住民との交流活動

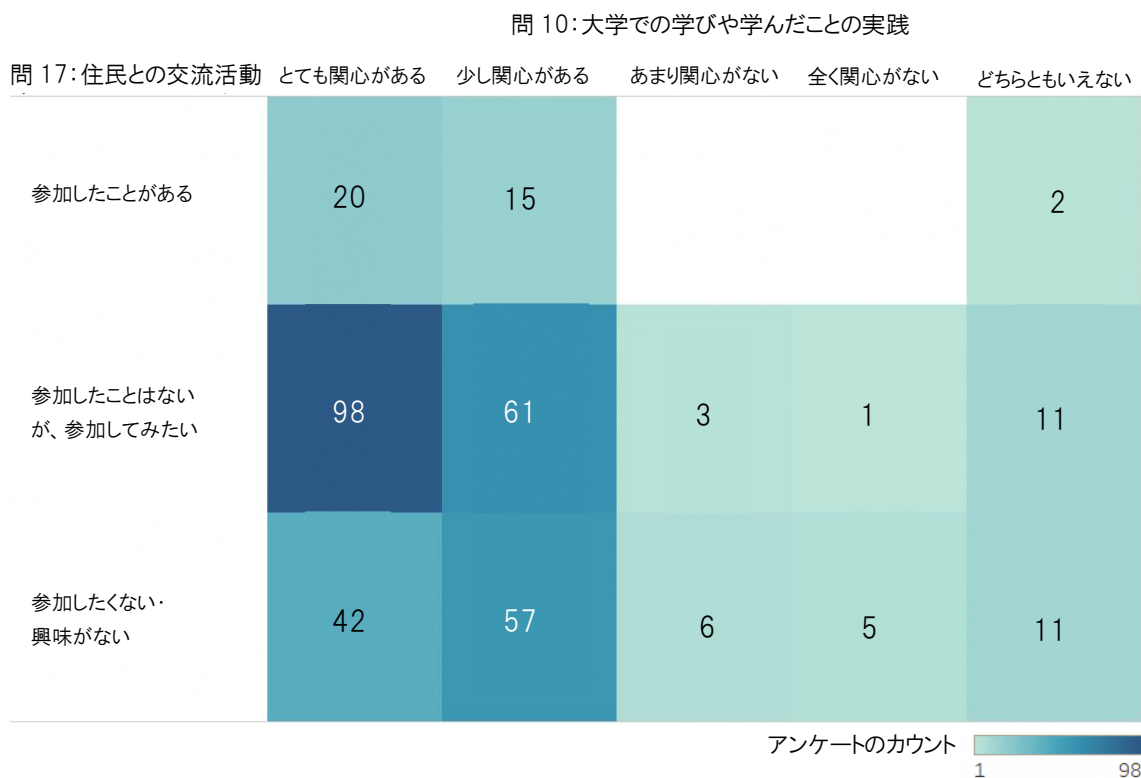
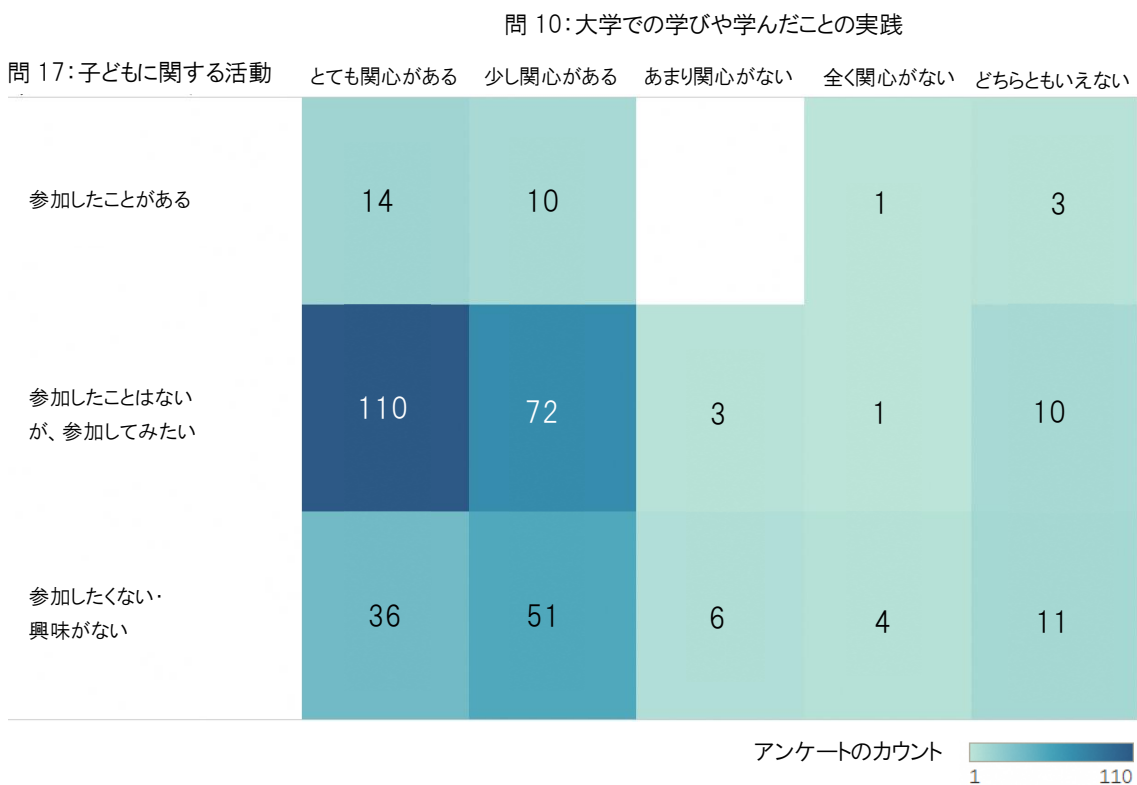


表 2-8 大学での学びや学んだことの実践と子どもに関する活動



大学での学びの実践と地域での活動に積極的な層との重なりについては、設問 17 の項目選択の一つである「住民との交流活動」だけでなく、「学校などの活動支援」（項目選択肢は「保育園や小中学校などの活動の支援」）や「子どもに関する活動」（項目選択肢は「子どもに関する活動（遊び相手や勉強のサポートなど）」）でも同様の結果を得ている。特に、表 2-8 で示すように、「子どもに関する活動」に「参加したことがある」または「参加してみたい」と回答した学部生が、「大学での学びや学んだことの実践」の「とても関心がある」や「少し関心がある」と回答した学部生の中に数多くみられることも、大きな特徴である（62.0%、332 人中 206 人＝14 人＋110 人＋10 人＋72 人）。

表 2-9 大学での学びや学んだことの実践と地域での実践に関する活動

問 17:住民との交流活動	問 17:学校などの活動支援	問 17:子どもに関する活動	問 10:大学での学びや学んだことの実践				
			とても関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	どちらともいえない
参加したことがある	参加したことがある	参加したことがある	7	7			1
		参加したことはないが、参加してみたい	2				
	参加したことはないが、参加してみたい	参加したことがある	1	1			
		参加したことはないが、参加してみたい	8	4			1
	参加したくない・興味がない	参加したことがある	1				
		参加したことはないが、参加してみたい		2			
参加したことはないが、参加してみたい	参加したことがある	参加したことはないが、参加してみたい	3		1		
		参加したことはないが、参加してみたい	4				2
	参加したことはないが、参加してみたい	参加したことがある	80	53	2	1	8
		参加したことはないが、参加してみたい	1				
	参加したくない・興味がない	参加したことがある	1	1			
		参加したことはないが、参加してみたい	5	3			
参加したくない・興味がない	参加したことがある	4	4			1	
	参加したことはないが、参加してみたい				1		
参加したくない・興味がない	参加したことがある	参加したことがある	1	1			
		参加したことはないが、参加してみたい	10	5			1
	参加したことはないが、参加してみたい	参加したことはないが、参加してみたい	1				1
		参加したくない・興味がない		1			
	参加したくない・興味がない	参加したことがある	1	4			
		参加したことはないが、参加してみたい	29	46	6	4	9

アンケートのカウン
1 80

表 2-7 と表 2-8 のそれぞれで検討した「住民との交流活動」や「子どもに関する活動」、そして同じ設問 17 の項目選択肢のうち「保育園や小中学校などの活動の支援」に

ついて、大学での学びや学んだことの実践との関係を見たものが、表 2-9 のクロス表である。この 3 つの種類の活動について、「参加したことはないが、参加してみたい」という潜在的な地域活動への参加希望者の層は、43.1% (332 人中 143 人=80 人+53 人+2 人+1 人+8 人) と一定の割合を形成していることが分かる。

表 2-10 卒業後の草津市への居住の希望と地域での実践に関する活動

問 17:住民との交流活動	問 17:学校などの活動支援	問 17:子どもに関する活動	問 41:草津市に住みたい	
			住みたい	それ以外
参加したことはないが、参加してみたい	参加したことがある	参加したことはないが、参加してみたい	1	3
		参加したことがある	3	3
	参加したことはないが、参加してみたい	参加したくない・興味がない		1
		参加したことはないが、参加してみたい	33	111
	参加したくない・興味がない	参加したことがある	1	1
		参加したくない・興味がない	2	7
		参加したことはないが、参加してみたい	1	7
参加したくない・興味がない	参加したことがある	参加したことがある	1	
		参加したことはないが、参加してみたい	1	1
	参加したことはないが、参加してみたい	参加したくない・興味がない	2	
		参加したことはないが、参加してみたい	4	12
	参加したくない・興味がない	参加したことがある		1
		参加したくない・興味がない	9	85
		参加したことはないが、参加してみたい	1	4
参加したことがある	参加したことがある	参加したことがある	7	8
		参加したことはないが、参加してみたい	2	
	参加したことはないが、参加してみたい	参加したことがある		2
		参加したことはないが、参加してみたい	7	6
	参加したくない・興味がない	参加したことがある		1
		参加したくない・興味がない		2
		参加したことはないが、参加してみたい		2

アンケートのカウン
1 111

続いて、表 2-10 では、表 2-9 の項目について、大学での学びや学んだことの実践に替えて草津市への居住希望とのクロスを行った表である。なお、ここでの卒業後の草津市への居住という意味は、設問 41 の回答選択肢の①草津市で就職(起業)し、草津市に住みたい、②滋賀県内で就職(起業)し、草津市に住みたい、③京都や大阪などで就職(起業)し、草津市に住みたい、④機会があれば、草津市に戻ってきたい、という 4 つの選択を統合した内容である。この表では、草津市の居住を選択したグループと、そうではないグループを比較すると、圧倒的に後者が多いため、より明確な地域での実践に関する活動と草津市への居住希望との関係やその特徴について検討することは困難であった。

・立命館大学生の将来の草津市への居住選択についての分析

そこで、次に行ったのは、草津市に何らかの形で今後居住したいという学部生の割合のまとめである。この今後居住したいという回答は、設問 41 の回答選択肢の①から④までで、かなり広範な回答内容となる。例えば、回答選択肢は、卒業後に草津市や滋賀県で働きかつ住みたいという内容だが、③の場合には、居住する場所のみが、草津市となる。④については、機会があれば住みたいというふうに弱い表現である。

図 2-6 では、学年(回生)別に、草津市への居住の意思を尋ねた結果をまとめている。図からは、学年別の卒業後に草津市に居住したいと回答した割合が、1 回生 (12.3%、114 人中 14 人) よりも 2 回生 (29.5%、88 人中 26 人) が多く、3 回生 (27.8%、79 人中 22 人) が続くという結果であった。4 回生は 3 回生まで割合が増大するという傾向とは異なり、逆に低下 (20.0%、40 人中 8 人) するという結果であった。この点について考察すると、2020 年 4 月からコロナ禍のもとで、全国の大学ではいわゆる対面での授業ではなく、オフキャンパスでのメディアを用いた授業が中心となった。大学生の課外活動や大学外での正課授業の活動に対して、感染症対策をはじめとした大きな制限が課され、結果として大学生の交流が希薄になったということが原因の一つと考えられる。その後、2021 年秋セメスターより、オンキャンパスでの対面授業が再開され、徐々に大学生の交流が深まったという経過があった。結果として、図 2-6 からは、今後草津市に居住したいという点でみると、1 回生や 4 回生に比べると、2 回生と 3 回生でその割合が高いという結果を得た。

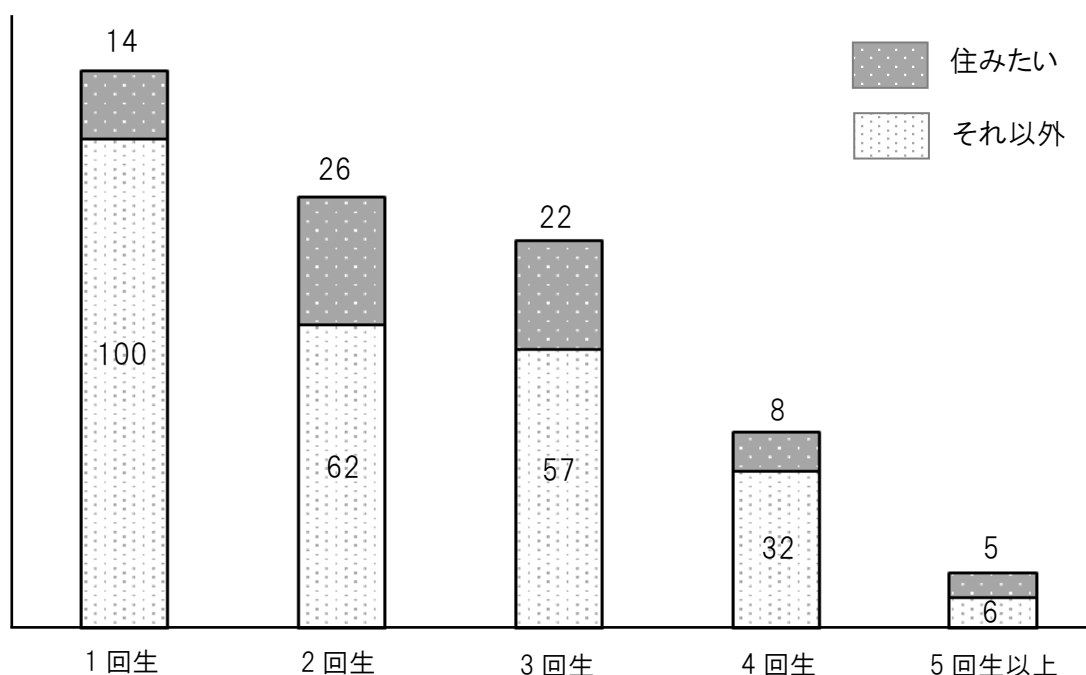


図 2-6 卒業後の草津市への居住の希望 (学年別)

次の図 2-7 では、所属学部別にみると、薬学部（32.0%、25 人中 8 人）、生命科学部（27.8%、36 人中 10 人）、情報理工学部（22.4%、49 人中 11 人）、理工学部（21.4%、98 人中 21 人）という順で、卒業後に草津市への居住の意思を示した学部生の割合が高いことが分かる。

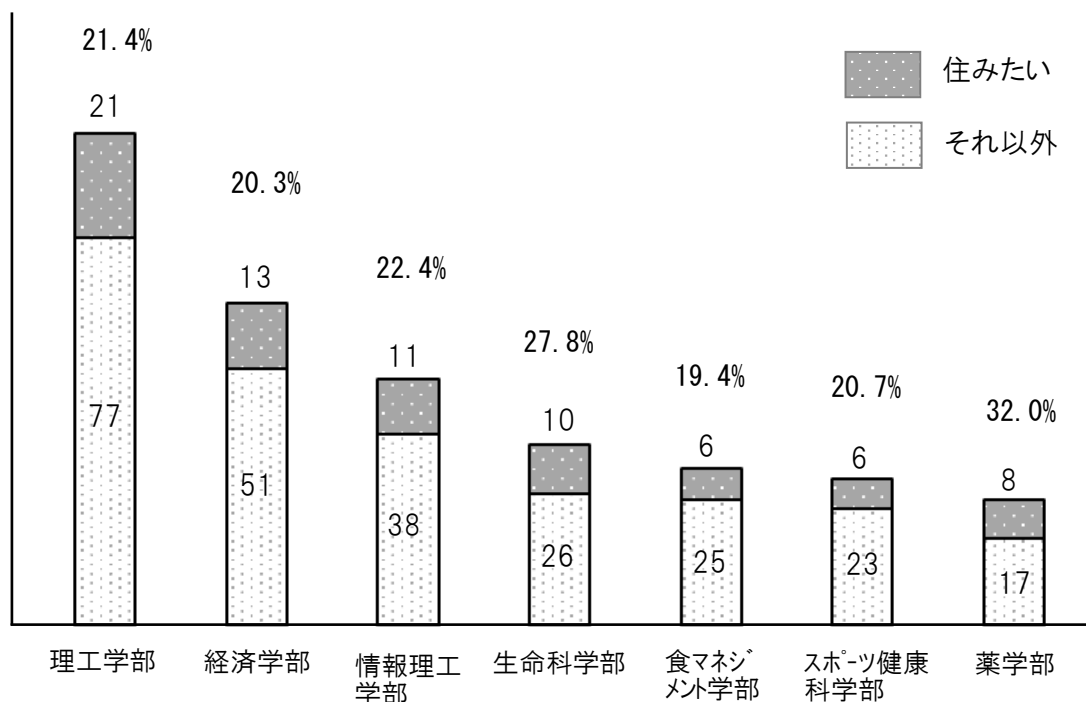


図 2-7 卒業後の草津市への居住の希望（所属学部別）

表 2-11 卒業後の草津市への居住の希望と現在の居住地

現在の居住地	問 41: 草津市に住みたい	
	それ以外	住みたい
愛知県	3人	
岐阜県	3人	
京都府	29人	3人
滋賀県	196人	70人
大阪府	18人	2人
奈良県	3人	
兵庫県	5人	

卒業後に草津市への居住の意思を示した学部生は、入学前に滋賀県に居住していた者が多数であった。具体的には、表 2-12 で示すように、32.8%（67 人中 22 人）の学部生

が草津市への居住を希望していた。一方で、入学後の現在の居住地をみていくと、表 2-11 で示すように、全回答者のうちの 80.1% (332 人中 266 人) が滋賀県に居住していると回答していた。そのうちの多数は、キャンパスが立地する草津市の周辺に居住していると予想される。この滋賀県に現在居住している学部生のうち、卒業後に 266 人中 70 人が草津市に居住したいと希望しており、この割合は 26.3% である。

卒業後の草津市への居住の希望について、現在滋賀県に居住している割合と、入学前の居住地でみた割合とを比較すると、後者が前者を上回ったことが分かる (32.8% > 26.3%)。入学前の滋賀県への居住経験の有無が、卒業後の草津市への居住の希望とより関係している可能性を示唆している。

表 2-12 卒業後の草津市への居住の希望と入学前の居住地

入学前の居住地	草津市に住みたい		入学前の居住地	草津市に住みたい	
	住みたい	それ以外		住みたい	それ以外
滋賀県	22人	45人	沖縄県	1人	2人
兵庫県	8人	12人	茨城県	1人	3人
大阪府	6人	29人	愛媛県	1人	2人
愛知県	5人	28人	和歌山県		2人
広島県	4人	11人	鳥取県		1人
京都府	4人	33人	長野県		4人
東京都	3人	12人	長崎県		1人
北海道	2人	2人	中国		1人
奈良県	2人	5人	大分県		1人
島根県	2人	1人	千葉県		1人
石川県	2人	5人	青森県		1人
三重県	2人	7人	新潟県		4人
香川県	2人	1人	山口県		1人
福岡県	1人	7人	埼玉県		2人
福井県	1人	1人	佐賀県		1人
富山県	1人	4人	高知県		2人
栃木県	1人	1人	群馬県		1人
徳島県	1人	2人	熊本県		1人
静岡県	1人	5人	宮崎県		1人
神奈川県	1人	2人	岐阜県		6人
宮城県	1人	1人	岡山県		5人

卒業後に草津市に住みたいと回答した学部生 (75 人) は、回答者数のうちで 22.6% (332 名人中 75 人) であった。全体からみれば、決して多数とは言えない割合であるが、一体どのような特徴を持つのであろうか。

図 2-8 の上段は卒業後に草津市に住みたいと回答した学部生の回答を掲載し、図の下段はそれ以外の回答である。この図の緑色がそれぞれの項目の地域活動に参加したこと

がある学部生であり、参加を希望する学部生は水色で表示している。結果、図の上段と下段を比べると、上段では、回答者のうちで緑色や水色の割合が多いことは明白である。このことから、「住民の交流活動」や「学校などの活動支援」、「子どもに関する活動」に関心があり、実際に地域での活動に参加した経験者が多いことが分かる。併せて、設問 10 の大学生活において「大学での学びや学んだことの実践」の関心の有無についてもクロスを行い、多くが「大学での学びや学んだことの実践」に関心があると回答している。なお、草津市に住みたいと回答しなかった学部生は 257 人であったが、この割合は 77.4% (332 名人中 257 人) であった。

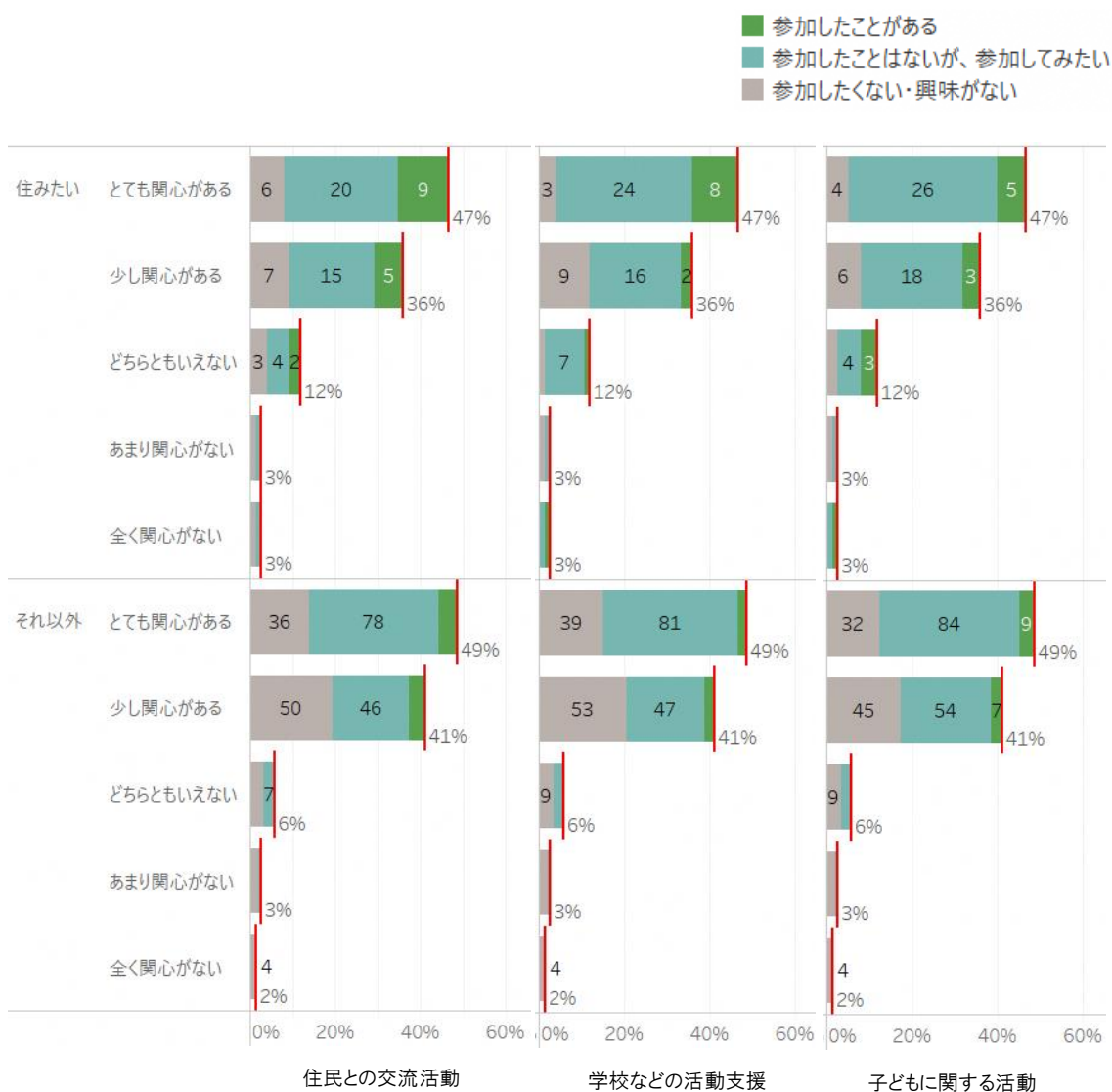


図 2-8 卒業後の草津市への居住の希望と大学での学びや学んだことの実践等

設問 41 において、卒業後に草津市に居住したいと希望する学部生の間で、設問 17 において項目選択肢「住民との交流活動」、「学校などの活動支援」、「子どもに関する活動」

に「参加したことがある」または「参加したことはないが、参加してみたい」と回答した割合が高いことが分かる。対照的に、設問 41 において卒業後に草津市への居住を特に希望していない学部生の間では、設問 17 において尋ねた内容（学生生活で、草津市の地域での活動への参加の有無）について、興味がないと回答した学部生の割合が高い。

一方で、設問 10 の大学での学びや学んだことの実践については、設問 41 の草津市への居住の意思に関わる回答に対して、差異はみられなかった。

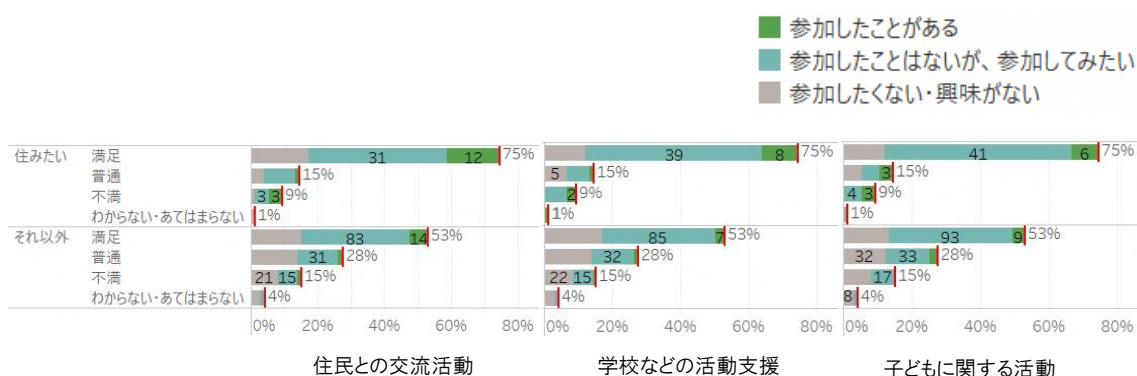


図 2-9a 卒業後の草津市への居住の希望と地域活動への参加状況とのクロス
(設問 15 で、草津市は学生生活を過ごしやすいまちであると回答した学部生)

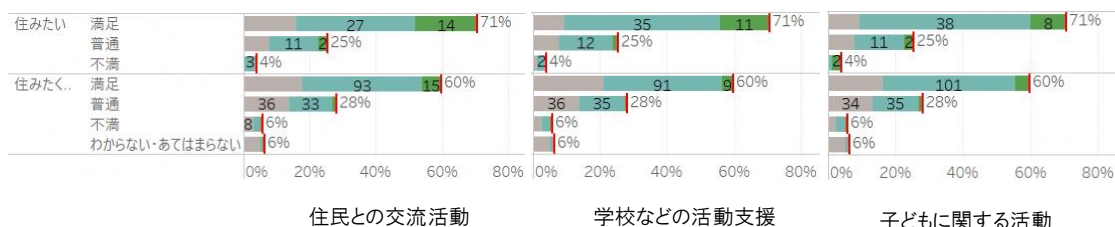


図 2-9b 卒業後の草津市への居住の希望と地域活動への参加状況とのクロス
(設問 15 で、草津市は琵琶湖や田園風景など自然が豊かであると回答した学部生)

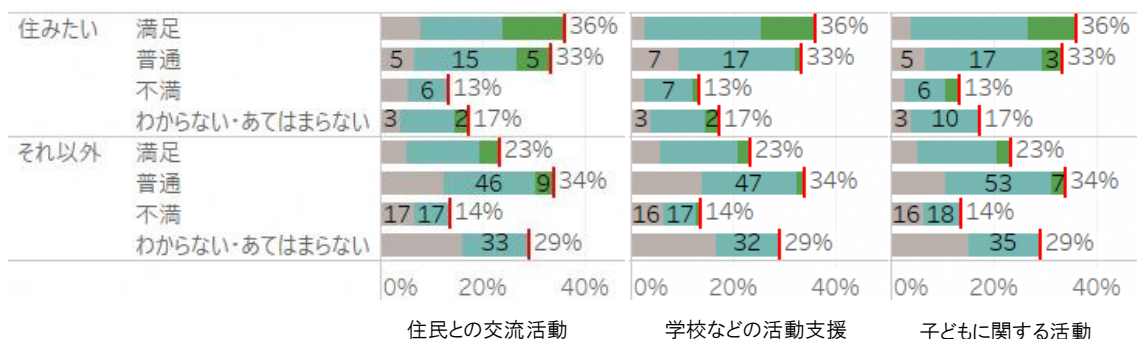


図 2-9c 卒業後の草津市への居住の希望と地域活動への参加状況とのクロス
(設問 15 で、草津市は地域において研究や成果の発表、実践を行う場所や協力してくれる人がいると回答した学部生)

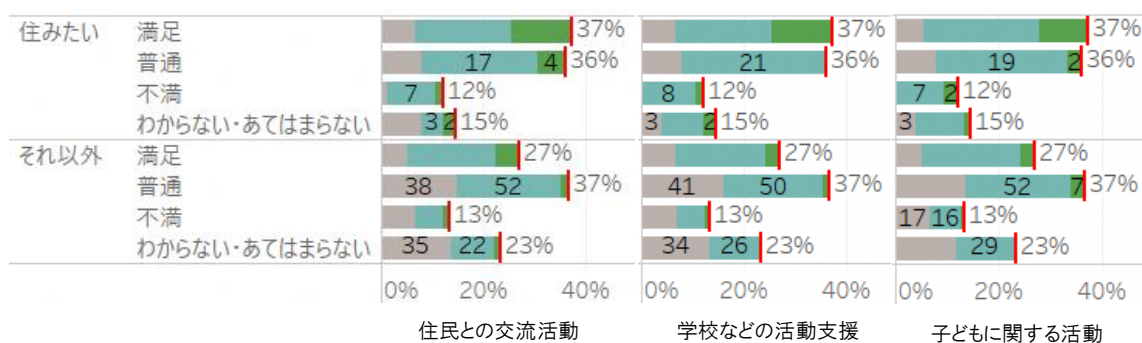


図 2-9d 卒業後の草津市への居住の希望と地域活動への参加状況とのクロス
 (設問 15 で、草津市はまちづくり活動ができる施設が充実していると回答した学部生)

図 2-9 (図 2-9a、図 2-9b、図 2-9c、図 2-9d) は上段と下段に分かれており、上段は卒業後に草津市に住みたいと回答した学部生の回答内容であり、下段は卒業後に草津市に住みたいと回答しなかった学部生の回答内容である。図からは、草津市が学生生活を過ごしやすい (図 2-9a)、または自然豊かであると感じる (図 2-9b) と回答した学部生が、卒業後に草津市に住みたいと回答している傾向がある。加えて、地域での活動経験がある学部生も多いことが分かる。

第3章 草津市において活動する立命館大学生の意識

1 立命館大学生の地域での活動の仕組み

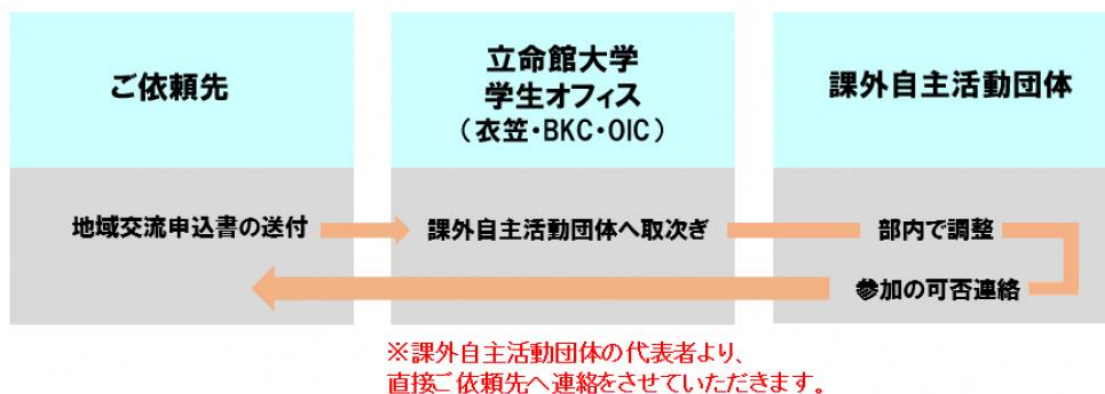
立命館大学では、各ゼミでの地域課題に対する活動や共通教育課サービスラーニングセンターが開講する地域参加学習入門などの正課授業、また小学校・中学校・高等学校との連携、行政機関等と連携した生涯学習支援の他、大学生(学部生および大学院生)の課外自主活動を支援する仕組みがある。

(1) BKC 学生オフィスの「地域交流」¹⁸

立命館大学としての「地域交流」の考え方は、「立命館大学では、多くの課外自主活動団体が、活動の場をキャンパスから地域に展開しています。地域交流とは、本学に所属する学生による課外自主活動団体が、演奏、発表などを通して、地域の皆様と交流を行い、相互の発展を目指すものです。」とされている。

地域交流の仕組みについては、図 3-1 に示すように、立命館大学 BKC 学生オフィスが窓口となって、各地域や団体等から申し込みを受け付け、各々の課外自主活動団体への取次ぎを行う仕組みとなっている。

大学全体では、400 ほどの課外自主活動団体が存在するとされ、ジャンルとしては、音楽や科学、芸術、研究、ダンス、マジックなど幅広い活動がされており、申込団体等からは、「学生達と接触すると元気をもらえる。」「大学生のお兄さん、お姉さんと交流が持てたことは子ども達にとっても良い刺激になった。」「多くの方がステージをご覧になっている姿が印象的でした。」との声がある。



出所：立命館大学ホームページ

図 3-1 地域交流の流れ

¹⁸ 立命館大学ホームページを参照。

本市内の各地域や団体等からの地域交流の申し込みは、表 3-1 のとおりであり、年間 100 件を超える申し込みがあったが、現在はコロナ禍により学生の地域での活動の場は大きく減少している。しかし、オンラインで実施されるなど、コロナ禍においても地域交流が行われた事例がある。

表 3-1 大学生への地域交流依頼件数

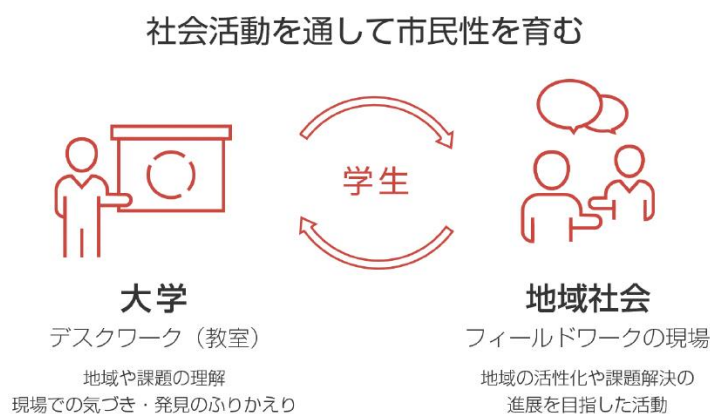
平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
141 件	135 件	143 件	18 件	17 件

※新型コロナウイルス感染症拡大状況により、2020(令和 2)年 3 月 17 日～7 月 27 日、2021(令和 3)年 8 月 23 日～10 月 7 日、2022(令和 4)年 1 月 27 日～3 月 17 日は地域交流の受付を停止。

出所：立命館大学 BKC 学生オフィス資料に基づき草津未来研究所作成

(2) サービスラーニングセンターの「学生コーディネーター」¹⁹

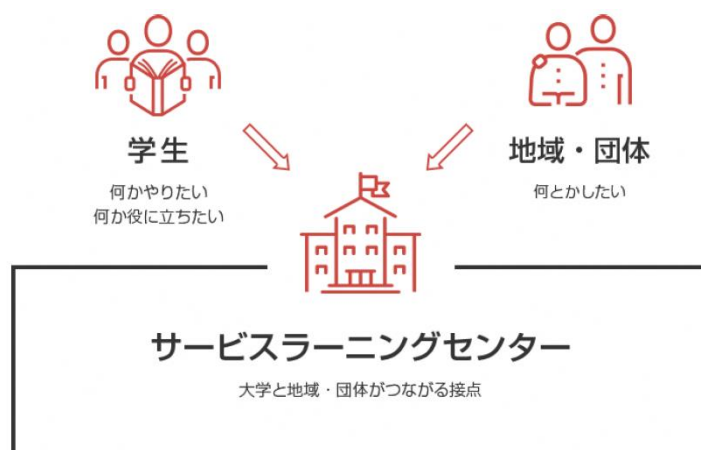
サービスラーニングとは、図 3-2 で示すように、大学における学びと社会における諸課題の解決を具体的な実践活動を通して結合させていく学びの手法で、社会貢献活動によって、人間関係を育み、学生が市民としての資質や社会性を高め、課題解決力、チームとしての実践力などを高めていくことを目的としている。立命館大学サービスラーニングセンターは、図 3-3 で示すように、学生が学びと成長を深めるための教学プログラムを開発・体系化する機関として、また大学と地域が取り組むネットワークを構築する拠点としての役割を担っており、教養教育におけるサービスラーニング科目の開講、地域・社会へのインターンシップやボランティア活動を企画・展開している。



出所：立命館大学ホームページ

図 3-2 サービスラーニングの概念

¹⁹ 立命館大学ホームページを参照。



出所：立命館大学ホームページ

図 3-3 サービスラーニングセンターの概念

学生コーディネーターは、サービスラーニングセンターで、学生同士が主体的に学び合い、支え合うピアサポーター²⁰として学生と地域をつなぐ活動を行っている。具体的には、①ボランティア、地域活動に関する相談対応(学生からの相談への対応、その人にあった活動探し等)、②ボランティア、地域活動の促進と啓発のための企画運営(企画を通して地域へ踏み出すきっかけ作り、SNS 等での情報発信等)、③地域や学内外の団体との関係づくり(自ら地域活動への参加、団体訪問等)、④サービスラーニング科目(正課授業)のサポート、などの活動を行う。現在、BKC には 31 名²¹の学生コーディネーターがいて、班に分かれて活動している。

2 ヒアリング調査の概要

(1) 目的

コロナ禍においても、地域で大学生が活動している事例がある。草津市内において、大学生と地域が連携している活動、また大学生が地域をフィールドに活動している事例について、活動内容やきっかけ、やりがい、課題などを把握するため、ヒアリング調査を行うこととした。

(2) 方法

多くの学生の地域活動の窓口である BKC 学生オフィス、BKC サービスラーニングセンターを通じて紹介いただいた 6 つの団体に、2022(令和 4)年 10 月 26 日(水)から 11 月 15 日(火)までの間において、ヒアリング調査を行った(表 3-2)。

²⁰ 立命館大学が行う学生同士が学習や学生生活において支え合い、助け合う制度。

²¹ 2023(令和 5)年 3 月 1 日現在。

表 3-2 ヒアリング団体

団体名等	地域活動の概要
立命の家実行委員会	小学生を対象に夏休み期間に体験型学習イベントを開催
体育会ラグビー部	大学および南草津駅周辺の地域において清掃活動を実施
Rits BBS	地域で遊びを通して子どもと触れ合う活動を展開
ライフサイエンス研究会	地域や小学校等で科学実験の体験・鑑賞を実施
玉川まちづくり講座	地域の情報発信を活性化させていく活動を展開
若草文庫への協力	地域の集会所で子どもの放課後の遊び場づくりに協力

3 ヒアリング調査結果

(1) 各団体の地域活動の内容等

①立命の家実行委員会

回答者：2021 実行委員長 森成 昇平さん(経済学部 3 回生、草津天文研究会所属)

2022 実行委員長 池上 拓都さん(情報理工学部 2 回生、Ri-one 所属)

西川 美裕さん(BKC 学生オフィス)

(活動内容等)

「立命の家」は 2001 年に始まったが、BKC 近郊の複数の小学校から参加者を募り、児童が大学キャンパス内で科学実験・工作などを体験するイベントで、地域交流の一環として、BKC を拠点に活動する学術系サークルやプロジェクト団体に所属する大学生が主体となって運営し、毎年 8 月に実施している。

毎年 1 月頃に BKC 学生オフィスから、初期から事業に携わっていて中心となる 8 団体に、翌年度の立命の家への参加を投げ掛け、実行委員会が組織される。3 月頃からは、毎週会議を開催。

開始当初から「自発的な体験型学習」を目的にし、その目的は引き継がれている。2021 年のテーマは「興味発見！新たな出会いを見つけよう」、2022 年は「新発見！新体験！！ひと夏の大冒険！！」。その年の企画によっては、他団体にも参加を依頼する。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020 年は中止、2021 年は初めてオンライン開催された。2022 年はオンラインと対面の両形式で開催した。

2021 年 8 月 19 日・20 日 オンラインで開催

2022 年 8 月 22 日・23 日 1 日目は対面 (BKC)、2 日目はオンラインで開催

②体育会ラグビー部

回答者：小暮 大悟さん(経済学部 2 回生)

尾崎 耕一郎さん(スポーツ健康科学部 2 回生)

御池 蓮二さん(スポーツ健康科学部 1 回生)

初田 航汰さん(経済学部 1 回生)

(活動内容等)

2022年2月に、ラグビー部全体で清掃活動(ロクハ公園、狼川沿い、びわこ文化公園等)をしたのをきっかけに、7月からラグビー部の有志で、BKC周辺や南草津駅周辺で清掃活動を定期的に行っている。

③Rits BBS

回答者：竹内 理人さん(理工学部2回生)

竹澤 一輝さん(理工学部2回生)

山田 竜也さん(経済学部2回生)

(活動内容等)

Rits BBS²²の主な活動としては、渋川学区・南笠東学区・老上学区で、小学生を対象にした「寺子屋」を開催。寺子屋は、第1土曜日に各2時間ずつ行っており、その時に行けるメンバーが参加していて、3か所とも参加することもある。会場は地域のまちづくりセンターや公園になる。参加している子ども達は平均して5~6人、男子・女子ともに参加がある。他にも、志津学区で他のBBSが行っている寺子屋を手伝ったり、玉川学区の地域活動に参加している。

寺子屋では、子どもがやりたい遊びを、子ども達と一緒にしている。ゲームはせずに、ドッジボールやフリスビーなど体を動かす遊びが中心で、BBSで代々受け継がれている遊びもある。

寺子屋の参加者は、参加している子どもが友達を誘ってきたり、地域のイベント時に配ったチラシを見て、新しい子どもの参加がある。

④ライフサイエンス研究会

回答者：井上 朋香さん(生命科学部3回生)

石黒 雄大さん(生命科学部3回生)

邨井 孝行さん(生命科学部4回生)

石川 宙さん(生命科学部4回生)

(活動内容等)

地域からの依頼に応じて、地域に出掛けて、ショーやワークショップ形式で科学実験を行う。地域から受けた依頼に対して、企画・準備をする。場合によるが、企画はWeb上で決めて、準備に2回ほど部室に集まる。実験メニューは50~60あるが、子ども達に科学のおもしろさを伝えるための実験メニューを、自分達で開発している。空気砲や巨大シャボン玉は人気があり、相手からリクエストされることもある。

草津市・大津市からの依頼が多い。対象者は小学生が多いが、未就学児のこともある。一

²² BBS(Big Brothers and Sisters Movement)は、青少年達に、同世代の兄や姉のような存在として、一緒に悩み、一緒に学び、一緒に楽しむボランティア活動。日本BBS連盟ホームページ参照。

昨年度・昨年度は休止していた対面の依頼を今年度から復活した。今年度は、これまでに高槻市の公民館行事や草津市のイベント(アートフェスタ)、こども園で科学実験を行った。子ども達の人数に応じて、ショー形式で空気砲などを見てもらったり、ワークショップ形式で巨大シャボン玉やスーパーボール作りなどを体験してもらった。

⑤玉川まちづくり講座

回答者：谷口 諒平さん(理工学部 3 回生)

長谷川 舞さん(生命科学部 3 回生)

木全 紀光さん(経済学部 3 回生)

(活動内容等)

玉川学区公式 LINE 開設にあたり、キャラクター募集から決定までを行った。

この活動は、大学の正課授業である「シチズンシップ・スタディーズ」受講のインターンシップ学生達が受入団体である草津市コミュニティ事業団と企画し、2021 年 12 月に行われた各地域まちづくり協議会と立命館大学の学生団体の「草津×立命館」マッチング会²³において、遺跡と萩の育む玉川まちづくり推進会議と学生コーディネーターの活動が繋がったのがきっかけ。

その後、地域の課題と学生の希望を出し合うミーティングを行った。地域の取り組みたい課題である、①SNS による情報発信、②学区ふれあいまつりへの協力、③野路いも復活プロジェクトの普及の 3 つの中から、①から取り組むこととなった。学生やファミリー層など若い世代が多く居住しながら、若い世代に地域情報が届いていない玉川の喫緊の地域課題に対し、SNS による情報発信は学生達のノウハウや感覚が活かしやすく、学生達が使用する SNS や若い人が求めている情報などを企画提案した上で、まずは公式 LINE キャラクターづくりに取り組んだ。

キャラクターづくりに関して、玉川小学校の校歌を調べるなど玉川学区のことを勉強し、メンバーが講師の講座を開き、キャラクターの募集を行った。

2022 年 4～6 月に募集し、7～8 月に選考会を 2 回開いて、キャラクターを決定した。

決定後は、学区ふれあいまつりである玉川萩まつりに参加して運営を手伝うとともに、公式 LINE の PR を行った。今後は、公式 LINE での情報提供に取り組んでいく。

⑥若草文庫への参加

回答者：岩藤 竜之介さん(理工学部 4 回生)

明瀬 葵衣さん(理工学研究科博士前期課程 2 回生)

²³ 「シチズンシップ・スタディーズ」履修のインターンシップ学生と受入団体である草津市コミュニティ事業団による共同企画として令和 3 年度から実施。地域の悩みと、地域での活動機会を求める学生団体とが出会い、アイデアを出し合い、実践に移していくための場。

(活動内容等)

毎週水曜日 14～17 時に若草第三集会所で開催されている「若草文庫」に参加している。活動としては、友達感覚で子ども達と一緒に遊ぶこと。志津南学区の子ども達が毎回 10 名を超えるぐらい参加し、小学生がほとんど。小学生は 15 時過ぎにやって来て、子ども達からのリクエストを中心に、公園での鬼ごっこや集会所内で折り紙などを楽しんでいる。また、科学実験やタブレットのゲームをしたこともあり、コロナ前はクリスマスなど季節イベントもしていた。若草文庫の運営については、地域の民生委員、ボランティアの方々がされており、学生は 5 名程度が参加しているが、決まりはなく好きなきに参加している。

(2) ヒアリングにおいて複数の団体で共通した回答内容

(活動のきっかけ)

活動を始めるきっかけとしては、ボランティアや子どもに興味があったり、地域との関係を重視している大学生が多い。また、情報の入手手段は様々であるが、自分から行動して情報を入手している。

ボランティアに興味

- ・大学生のうちに、1 つボランティアをしたかった。地域に貢献することがしたくて、大学のある草津市に貢献したいなと思い、見つけた。
- ・ボランティアに興味があり、大学のサークルを紹介する冊²⁴子で調べたら見つけた。
- ・ボランティアに興味があり、衣笠キャンパスのサークル活動で、まちの人と交流することは意義があることだと感じ、BKC でも活動したいと思った。

地域との関係

- ・地域から愛される・応援されるチームを目指すために必要と思い清掃活動を提案され、計画的にしていこうとの話になった。
- ・2 月に部全体で清掃活動をやってみて、地域の人との交流やつながりを深めていきたいと思っていた。
- ・学生も学ぶことがあり、地域も助かるのが大切なことではと思う。
- ・双方にメリット、成長がある取組みがしたい。
- ・片方がもう一方に何かをしてあげるのではないのが良いところだと思う。

子どもが好き

- ・子どもが好きで、子ども達と楽しく活動できたらという気持ちだった。
- ・子どもが好きで、科学も好きのために入部した。
- ・子どもと遊ぶこと、交流することが楽しい。

²⁴ 立命館大学学友会発行「立命館サークルコレクション」。新入学生には、オリター(新入学生のサポートを行う 2 回生以上の学生で組織された団体)が、ガイダンスなどで配布している他、キャンパス内のラックなどに設置され、希望者は持ち帰ることができる。

情報の入手手段

- ・ボランティアに興味があり、大学のサークルを紹介する冊子で調べたら見つけた。
- ・子どもと関われる活動をしているサークルに入りたくて Google で検索し、見つけた。
- ・Twitter で見つけ、生命科学部生も多いと聞いたので入部した。
- ・尊敬する先輩から誘われて、学生コーディネーターになった。
- ・学生コーディネーターのメンバーから誘われて参加した。

(やりがい、地域住民の反応や触れ合いの中で感じたこと)

活動を通じて、通常の学生生活ではできない色々な体験やつながり、地域・保護者からの感謝、子ども達からのあこがれにやりがいを感じている。

通常できない色々な体験、つながり

- ・コロナ禍で希薄になっていた人との関係で、周りを巻き込んでみんなで作り上げたことが自信につながった。
- ・日常生活ではあまりできないような経験をさせてもらっている。
- ・色々な経験ができること。ポスター作りや公式 LINE の投稿など、新しいことにチャレンジできた。また、つながりが増えること。学生だけでなく、地域の方や行政など、違う立場の人と関わることで、学生だけでは難しいことができるのが楽しい。
- ・コロナ禍で課外活動ができていなかったため、色々な経験をしたくて学生コーディネーターになった。
- ・地域のボランティアの方との関係で、地域のイベントに参加するなどして、別団体とのつながりや色々な方と交流ができるので、普通に学生生活を送っていたらできない非日常が味わえる経験なのが楽しい。

地域・保護者からの感謝

- ・保護者からもしっかりと子どもを見てくれてありがとうと言われ、うれしかった。
- ・南草津駅周辺で清掃活動をしていた際に、年配の女性の方にありがとうと声を掛けてもらいうれしかった。
- ・子ども達と関われるし、ボランティアをすることで地域の方や保護者に感謝される。
- ・子ども達がうれしそうにしてくれると、こちらも冥利につきる。
- ・子どもが喜んでくれて、それを見て保護者も喜んでるのがうれしい。

大学生へのあこがれ

- ・参加者アンケートでは、大学生にあこがれを持つ子どもが多くいてくれる。
- ・地域の会議では、子ども達は大学生のお兄さん、お姉さんがいるとさらに楽しくなるから、多く参加して欲しいと言われる。

(活動上での課題、うまくいかなかったこと、今後の目標)

活動上での課題としては、新型コロナウイルス感染症による活動中止の影響や、活動

の継続性や活動の拡充があげられている。

コロナの影響

- ・以前だと、学生の課外自主活動団体に地域交流の依頼が全体で年間 200～300 件あり、町内会夏祭りやクリスマス会など様々なイベントに参加していた。コロナ禍で受付を停止したり、地域からの依頼がなくなっていたが最近少しずつ依頼がある。現在の 4 回生以上しか地域交流や対面での立命の家を経験しておらず、通常なら立命の家の各団体の企画は 1・2 回生が中心だが、今年は 3・4 回生もかなり関わってくれた。
- ・コロナ禍もあって、地域の方とは交流できていない。草津市に下宿しているが、地域の人との関わりは持てていない。地域の方の役に立てる機会があったらやりたいと思う。
- ・僕ら 3 人が入部した時は、活動はなかった。実際の活動を知らないメンバーが多い中で、急に地域で色々な枠割を任されて、右往左往していた。コロナが始まる前の活動を、先輩から色々教えてもらってやっている。
- ・コロナ禍でどう活動を継続していくか。メンバーが少ないのが課題。コロナのためサークルへの入部は全体的に減っている。今年の 1 回生は入っている人も多くなっているらしい。
- ・活動が少ないとやっていない実験も多く、技術の伝承が難しい。依頼が多かった時代は、年間 100 件を超えて活動していたと聞いている。
- ・子どもや地域とのつながりが極端に減ってしまった。そのつながりをノウハウがあるうちに、復活させたい。

活動の継続性・拡充

- ・活動の継続性をどう保つか。自分達は 3 回生のため、次の人を探さなければならない。学生時代に力を入れたことになると思う。
- ・1 回生の時にサービスラーニングセンターの授業で知り参加したが、その後大学の担当者が代わられこともあってか大学との関係性が途切れ、その間大学生は自分 1 人だった。今の担当者の方が自分を見つけてくれて、学生コーディネーターが関わったり、サービスラーニングセンターで紹介してもらえるようになり、大学生も来てくれるようになった。
- ・来ていた小学生が来なくなったり、大学生が事情により参加できなくなるのが悲しい。
- ・自分が卒業しても続いて欲しいし、卒業後の自分が行けるような場所であって欲しいため、なくなって欲しくない。
- ・今は清掃活動しかできていないが、他にも種類を増やしてあげたいと思う。高齢者の困りごとや小学校のスクールガード、子ども達との関わりでラグビーを知ってもらいたい。指導陣とも、地元の高校生と交流できないか話している。僕は地元の高校出身で、コロナ前だがラグビーを教えてもらっている。
- ・まだ大学内の活動になっていて、年配の方には大丈夫なのかと心配されてしまう。大学生のことをもっと知ってもらい、認知度・信頼度を上げたい。
- ・他の大学生にもっとアピールしたい。ボランティアの楽しさを伝えたい。

第4章 草津市民の立命館大学および大学生に対する意識

1 アンケート調査の概要

(1) 目的

本市では、1994(平成6)年に立命館大学 BKC が開設され、現在 15,000 人を超える大学生が学んでいる。また、2003(平成15)年に、草津市と立命館大学は「草津市と立命館大学との連携協力に関する協定」を締結するなど、連携して事業に取り組んできた。2024(令和6)年には、草津市制施行70周年、立命館大学 BKC 開設30周年の節目の年を迎え、これを機会に、市と大学がさらに連携を深め、草津市が発展していくため、草津市民の立命館大学および大学生(学部生および大学院生)への意識に関するデータの収集を目的としてアンケート調査を行うこととした。

(2) 方法

調査方法：対象者を抽出し、郵送によりアンケート調査を行う

対象者：2022(令和4)年7月31日を基準日として、草津市に住民登録のある30歳以上の市民とし、その中から無作為に抽出した3,000人に郵送で調査票を送付。ただし、無作為抽出時には、小学校区ごとの人口比率、男女比率、各年代の比率を考慮し、抽出数を按分した(表4-1)。

表4-1 アンケート対象者抽出数

	小学校区(地区)																											
	志津		志津南		草津		大路		矢倉		渋川		老上西		老上		玉川		南笠東		山田		笠縫		笠縫東		常盤	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
30歳代	33	30	10	12	26	24	20	21	17	16	18	18	13	15	29	30	26	21	16	12	13	12	20	18	22	20	8	7
40歳代	39	34	20	21	27	24	30	33	24	25	25	25	24	26	30	29	30	28	17	15	17	16	27	27	27	25	11	10
50歳代	31	27	10	10	26	25	34	35	22	22	24	25	19	17	20	19	28	26	17	17	18	17	23	22	20	21	10	10
60歳代	17	16	9	12	20	20	19	19	13	13	15	14	12	12	12	13	14	15	14	14	14	15	16	20	18	18	10	10
70歳代	18	20	12	11	18	21	14	19	17	21	12	14	13	15	15	17	18	20	13	15	16	20	23	28	22	24	12	12
80歳代以上	10	14	4	6	12	17	9	14	10	14	7	10	8	10	7	11	9	12	6	8	10	16	15	21	10	13	6	9
合計	148	141	65	72	129	131	126	141	103	111	101	106	89	95	113	119	125	122	83	81	88	96	124	136	119	121	57	58
小学校区合計	289		137		260		267		214		207		184		232		247		164		184		260		240		115	
全体合計	3,000																											

出所：草津未来研究所作成

回答期間：2022年10月6日(木)～11月28日(月)

回答数：1,063人 (35.4%)

アンケート内容：参考資料 参照

今回のアンケートでは、大きく下記の視点を前提として設問を設定した。

- ・市民の立命館大学および大学生への意識を把握すること
- ・市民の立命館大学および大学生との関わりを把握すること
- ・市民の立命館大学および大学生への期待を把握すること

設問

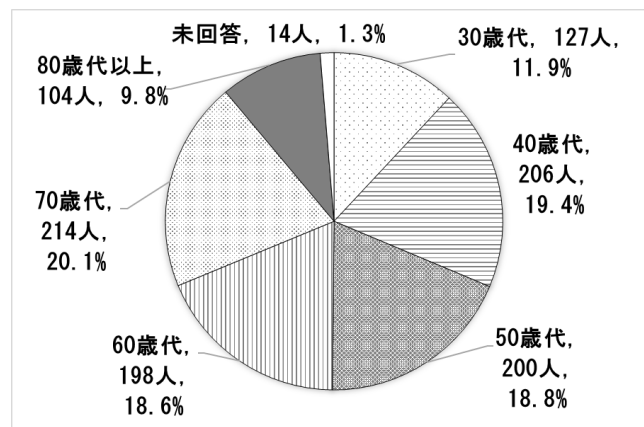
- 問 1～4 回答者の属性(年齢、地域、居住年数、就業状況)
- 問 5～8 立命館大学および大学生への意識(学部、取組、情報の入手手段など)
- 問 9～11 立命館大学および大学生との関わり
- 問 12、13 立命館大学への親近感、関心
- 問 14、15 立命館大学および大学生への期待
- 問 16 草津市と立命館大学の連携
- 問 17 立命館大学および大学生との関わりでの自由記述
- 問 18 立命館大学および大学生への期待や課題に関する自由記述

今回のアンケート調査については、任意での回答のため、必ずしも市民全体の総意とは一致していない可能性があるが、一定の傾向は読み取ることができると考える。

なお、本報告書におけるパーセンテージ(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100.0%にならないことがある。

2 アンケート調査結果

(1) 回答者の属性

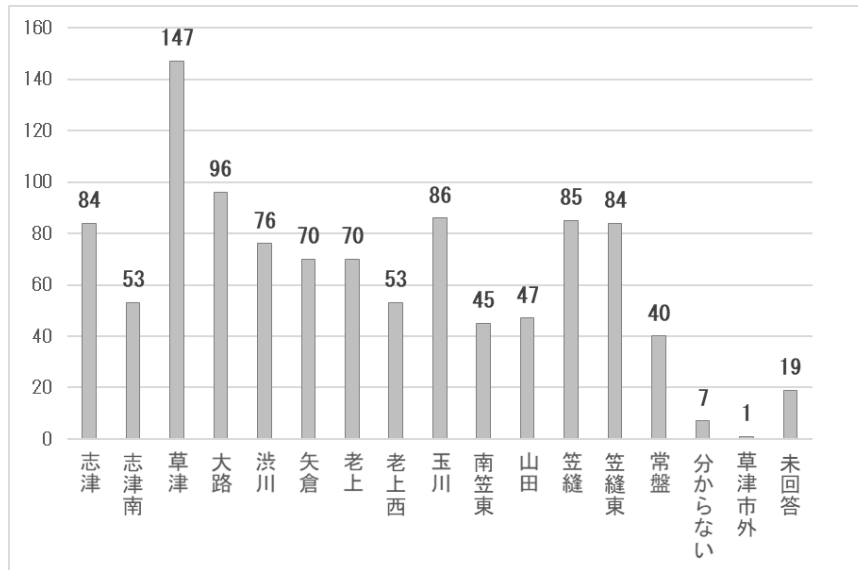


出所：草津未来研究所作成

図 4-1 年齢(設問 1)

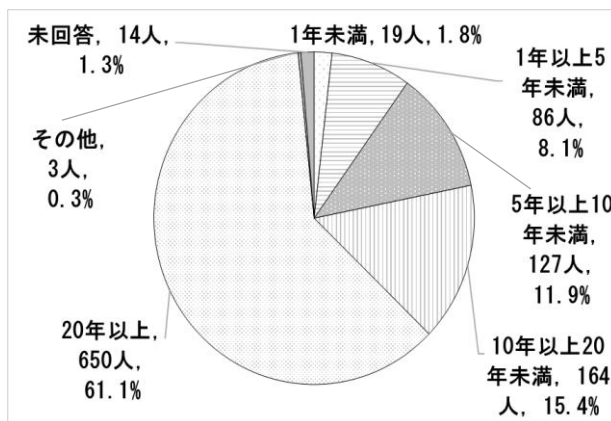
回答者の状況としては、70歳代が20.1%と最も多く、40歳代の19.4%、50歳代の18.8%が続き、若干の差異はあるもののそれぞれの年齢から一定の回答を得ることができた(図 4-1)。

回答者の住んでいる地域については、草津学区が最も多く、次いで大路区、玉川学区となっている(図 4-2)。



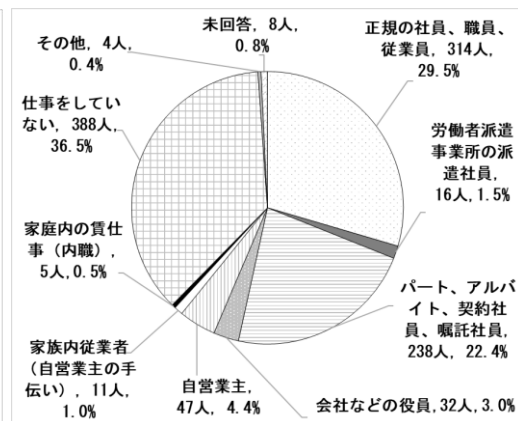
出所：草津未来研究所作成

図 4-2 住んでいる地域(設問 2)



出所：草津未来研究所作成

図 4-3 住んでいる年数(設問 3)



出所：草津未来研究所作成

図 4-4 就業状況(設問 4)

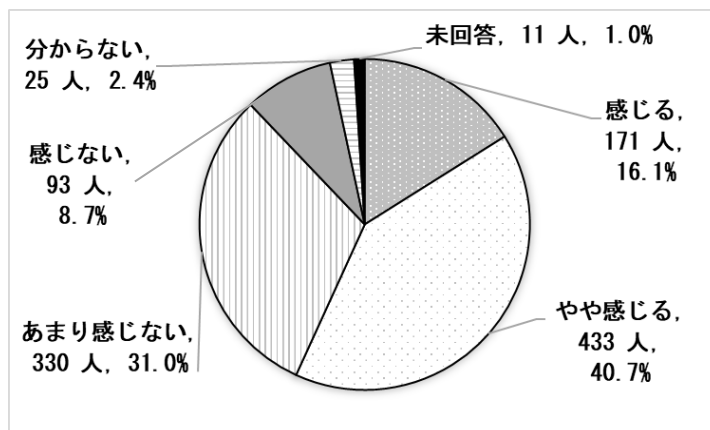
回答者の草津市に住んでいる年数については、20年以上が61.1%と最も多く(図4-3)、2022(令和3)年9月25日から10月1日までの就業状況については、仕事をしていないが36.5%と最も多く、次いで正規の社員、職員、従業員が29.5%、パート、アルバイト、契約社員、嘱託社員が22.4%であった(図4-4)。

(2) 草津市民の立命館大学および大学生に対する意識の現状

草津市民の大学および学生に関する意識(設問5)については、図4-5が示すように、草津市が大学のまち、学生のまちだと「感じる」「やや感じる」をあわせると56.8%であり、半数以上の市民が草津市を大学のまち、学生のまちだと感じている。

設問5：あなたは草津市が大学のまち、学生のまちだと感じますか？

回答5：



出所：草津未来研究所作成

図4-5 草津市民の大学および学生への意識(設問5)

草津市民の大学および大学生が、草津市内で行った取組に関する意識(設問7)については、表4-2が示すように、特に取組を知らないが最も多く、次に草津宿場まつりなどの市のイベントへの協力、学園祭などの大学生が企画したイベント、「立命館びわこ講座」など幅広い市民を対象にした取組への認識が高かった。

表4-2 草津市民の大学および大学生の取組への意識(設問7)

設問7：あなたは立命館大学および大学生が、草津市内(大学のキャンパス、またはキャンパス以外)で行ったイベントや講座、活動などの取組を知っていますか？【複数回答可】

回答7：

回 答	回答数	割合
①「立命館びわこ講座」など市民を対象にした講座	220人	20.7%
②学園祭や「立命の家」など大学生が企画したイベント	261人	24.6%
③市教育委員会と連携した「草津市小中学校体力向上プロジェクト」や「くさつビブリオバトル」などや、各学校への出前授業など小学生や中学生を対象にした取組	152人	14.3%
④河川の清掃や防犯の活動など、大学生による地域などでのボランティア活動	101人	9.5%
⑤市内の企業や地域、高校などと連携した製品やサービスの開発	100人	9.4%
⑥地域と連携した、住民が交流するカフェや、健康教室・運動教室などの開催	145人	13.6%
⑦大学キャンパス内のスポーツ施設での市民を対象にした運動プログラム教室の開催	176人	16.6%
⑧大学キャンパス内の木瓜原(ぼけわら)遺跡の保存と見学の対応や、天文台など大学内の施設を利用したイベントの開催	66人	6.2%
⑨草津宿場まつりや街あかり・華あかり・夢あかり、みなくさまつり、健幸フェアなど市のイベントへの協力	346人	32.5%
⑩その他()	5人	0.5%
⑪特に取組を知らない	439人	41.3%

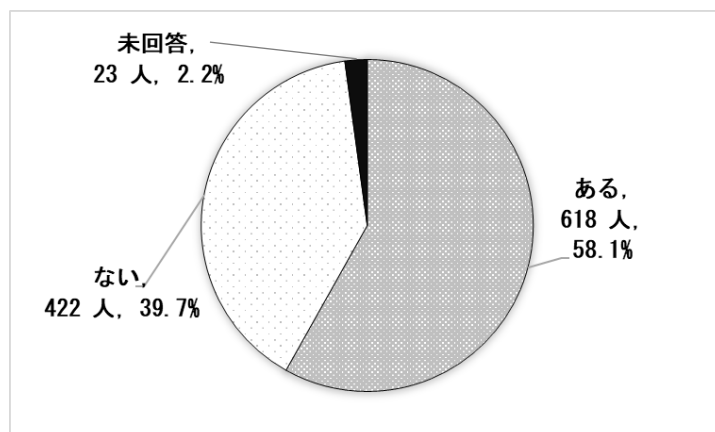
※⑩その他の回答

調査関係。えふえむ草津。健康体操。ボランティア活動。など

出所：草津未来研究所作成

設問 9 : あなたは立命館大学びわこ・くさつキャンパス (BKC) に行ったことがありますか？

回答 9 :



出所 : 草津未来研究所作成

図 4-6 草津市民の BKC 訪問の有無 (設問 9)

草津市民で BKC に行ったことのある回答割合は 58.1% であり (図 4-6)、その理由としては、表 4-3 で示すように、学園祭や学生団体が主催されたイベントへの参加、スポーツ健康commonsや大学図書館、レストランなどの BKC の施設利用が多いと思われる。

表 4-3 草津市民の大学および大学生の取組への関わり (設問 10)

設問 10 : あなたはこれまでに立命館大学および大学生が、草津市内 (大学のキャンパス、またはキャンパス以外) で行ったイベントや講座、活動などの取組に関わられたことがありますか？【複数回答可】

回答 10 :

回 答	回答数	割合
①大学が主催された講座や教室、セミナーに参加したことがある	79 人	7.4%
②学園祭や学生団体が主催されたイベントに参加したことがある	159 人	15.0%
③スポーツ健康commons (スポーツ施設) や大学図書館、レストランなど、BKC の施設を利用したことがある	150 人	14.1%
④大学の授業での活動や、ボランティア活動などで大学生と一緒に活動したことがある	33 人	3.1%
⑤町内会や子ども会、老人会などの行事に大学生に参加してもらったことがある	76 人	7.1%
⑥大学が行う実験や研究に参加したことがある (有償、無償は問いません)	25 人	2.4%
⑦近所に住んでいる大学生と個人的に交流がある	32 人	3.0%
⑧その他 ()	38 人	3.6%
⑨特に関わったことはない	645 人	60.7%

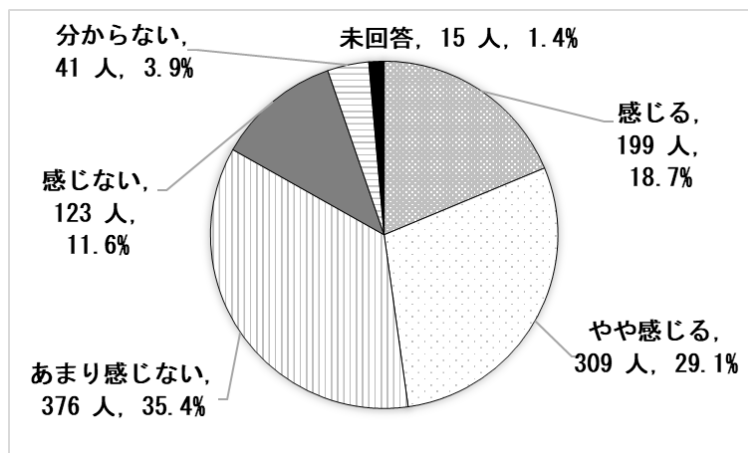
※⑧その他の回答

資格試験会場。大学関係者。身内が卒業生。仕事関係。講義をした。キャンパスで行われた市のイベントに参加。など

出所 : 草津未来研究所作成

設問 12：あなたは立命館大学を身近に感じますか？

回答 12：



出所：草津未来研究所作成

図 4-7 草津市民の大学への親近感(設問 12)

草津市民の立命館大学を身近に感じるかの回答割合については、「感じる」「やや感じる」が 47.8%、「あまり感じない」「感じない」が 47.0%とほぼ同じような割合となった(図 4-7)。

表 4-4 草津市民の立命館大学に望むこと(設問 14)

設問 14：あなたは立命館大学にどのようなことを望みますか？【複数回答可】

回答 14：

回 答	回答数	割合
①行政や地域と連携して、研究や社会実験を通して地域の課題解決に取り組んで欲しい	429 人	40.4%
②地元企業などと連携して研究や開発を行い、地域の経済を活発にして欲しい	498 人	46.8%
③滋賀県や草津市などの地域を支える人材を育てて欲しい	421 人	39.6%
④大学生と市民がふれあえる場をもっとつくって欲しい	174 人	16.4%
⑤草津市に愛着を持つ大学生を育てて欲しい	289 人	27.2%
⑥地域の催しなどに、大学生を集団で派遣して欲しい	80 人	7.5%
⑦市民向けの講座や教室、セミナーを開催して、学びの場を提供して欲しい	299 人	28.1%
⑧大学の施設を気軽に利用したい	317 人	29.8%
⑨その他 ()	24 人	2.3%
⑩特に何も望まない	114 人	10.7%

※⑨その他の回答

学生のことを一番優先して学びやすい環境にして欲しい。大学として、立派な成果を上げて欲しい。
草津市をもっと活気のあるまちにして欲しい。地域を明るく盛り上げるような存在であって欲しい。
滋賀県にキャンパスを置き続けて欲しい。学生のマナーを向上させて欲しい。
社会に役立つ人材を育てて欲しい。小・中・高校生の学習支援。
ボランティアを定期的に担う仕組みを市と連携してやって欲しい。など

出所：草津未来研究所作成

草津市民の立命館大学に望むこととしては、「地元企業などと連携して研究や開発を行い、地域の経済を活発にして欲しい」が 46.8%で最も回答割合が多く、次いで「行政や地域と連携して、研究や社会実験を通して地域の課題解決に取り組んで欲しい」「滋賀県や草津市などの地域を支える人材を育てて欲しい」の回答割合が多かった(表 4-4)。

表 4-5 草津市民の立命館大学の大学生に望むこと(設問 15)

設問 15 : あなたは立命館大学の大学生にどのようなことを望みますか?【複数回答可】

回答 15 :

回 答	回答数	割合
①研究成果や授業で学んだことをもとに、地域で活動して欲しい	367 人	34.5%
②ボランティア活動などを通じて、地域の活動や行事に参加して欲しい	296 人	27.8%
③学生ならではの視点や行動で、地域を舞台にした新しい取組に挑戦して欲しい	433 人	40.7%
④市内での下宿や、店舗で買い物をして、地域経済の活性化につなげて欲しい	238 人	22.4%
⑤小学生や中学生などの子ども達の学習の支援や交流により、子ども達の成長を応援して欲しい	397 人	37.3%
⑥学園祭や学生団体の発表会など市民が参加できるイベントを開催し、まちに賑わいを生み出して欲しい	320 人	30.1%
⑦卒業後も草津市で就職して働いて欲しい	159 人	15.0%
⑧卒業後も何らかの形で草津市に関わって欲しい	277 人	26.1%
⑨その他()	43 人	4.0%
⑩特に何も望まない	112 人	10.5%

※⑨その他の回答

社会に役立つ人になって欲しい。大学生活を楽しんでください。
 グローバルな視点と専門性を持って、社会に貢献できる人材に育てて欲しい。
 高齢者の困りごとを助けてあげて欲しい。ゴミ捨て、スマホの使い方など。
 草津市の発展に寄与して欲しい。色々学生さんの力で住みやすいまちにしてください。
 頑張って勉強して、滋賀や草津にこだわらず、社会に役立つことをして欲しい。
 自分のやりたい事を見つけ、草津でもそれ以外でも活躍して欲しい。
 草津市で大学生活を送って良かった、楽しかった、市民の心の温かさを感じたと思ってもらえたら。
 交通ルール、マナーを守って欲しい。など

出所：草津未来研究所作成

草津市民の立命館大学の大学生に望むこととしては、「学生ならではの視点や行動で、地域を舞台にした新しい取組に挑戦して欲しい」が 40.7%で最も回答割合が多く、次いで「小学生や中学生などの子ども達の学習の支援や交流により、子ども達の成長を応援して欲しい」「研究成果や授業で学んだことをもとに、地域で活動して欲しい」の回答割合が多かった(表 4-5)。

また、草津市民の草津市が立命館大学と今後強めていくべきと考える連携については、「起業など新しい産業の創出や、地元企業との協力による地域経済活性化に関する連携」が 40.1%で最も多く、次いで「環境問題への取組に関する連携」「小学校や中学校などの教育に関する連携」の回答割合が多かった(表 4-6)。

表 4-6 草津市民の草津市が立命館大学と今後強めていくべきと考える連携(設問 16)
 設問 16 : あなたは、草津市が立命館大学と今後どのような連携を強めていくべきだと思いますか?【複数回答可】

回答 16 :

回 答	回答数	割合
①住民同士のつながりが弱まるなど地域が抱える課題に関する連携	186 人	17.5%
②起業など新しい産業の創出や、地元企業との協力による地域経済活性化に関する連携	426 人	40.1%
③日本の課題に対応できる研究成果を生み出すために、大学が行う研究や社会実験等との連携	310 人	29.2%
④環境問題への取組に関する連携	403 人	37.9%
⑤農業や水産業の取組に関する連携	232 人	21.8%
⑥健康づくりの取組に関する連携	242 人	22.8%
⑦高齢者や障害者の福祉に関する連携	306 人	28.8%
⑧出産や子育てに関する連携	136 人	12.8%
⑨土地の利用や住まい、公共交通網などの都市計画に関する連携	213 人	20.0%
⑩道路や河川の整備、水道事業の維持などの社会基盤に関する連携	128 人	12.0%
⑪小学校や中学校などの教育に関する連携	323 人	30.4%
⑫講座など大人の生涯学習に関する連携	271 人	25.5%
⑬大学生の草津市への定住など人口問題に関する連携	131 人	12.3%
⑭地震や台風などの災害対策に関する連携	202 人	19.0%
⑮その他 ()	8 人	0.8%

※⑮その他の回答

シルバー人材センターの若者版のような仕組みを、代金を設定して運用できないか?

高齢者が多く住む地域での掃除やゴミ出し、買い物などのボランティア。

学生が勉強に集中できるようなバックアップ。

学部のキャンパス移転がないようにして欲しい。など

出所：草津未来研究所作成

(3) 草津市民の立命館大学および大学生に対する意識の考察

以下では、草津市民の立命館大学や大学生に対する意識について考察する。具体的には、草津市民が大学生に望む活動内容(設問 15)に着目し、それぞれの活動内容ごとに、草津市民の特徴を検討していく。設問 15 (複数回答可) の回答選択肢は、草津市民が立命館大学の大学生に対して望む内容がまとめられている。

着目した活動は、第一に、「子どもへの学習支援」(同じ設問 15 の回答選択肢の「⑤小学校や中学校などの子ども達の学習の支援や交流により、子ども達の成長を応援して欲しい」)である。第二に、学生のボランティアによる「地域の活動」(設問 15 の回答選択肢の「②ボランティア活動などを通じて、地域の活動や行事に参加して欲しい」)である。

表中は、「⑤小学校や中学校などの子ども達の学習の支援や交流により、子ども達の成長を応援して欲しい」を「子どもへの学習支援」、「②ボランティア活動などを通じて、

地域の活動や行事に参加して欲しい」を「地域の活動」と表記した。なお、「子どもへの学習支援」と回答した草津市民は、37.3%（1,063人中397人）で、「地域の活動」と回答した草津市民は、27.8%（1,063人中296人）であった。

表 4-7 市民が大学生に望む活動内容（「子どもへの学習支援」とその他の項目とのクロス

	問 15:子どもへの学習支援	問 7:大学・大学生の取組への意識	問 10:大学・大学生の取組への関わり	問 12:大学を身近に感じるか			総計
				感じる	感じない	分からない	
地域活動に参加してほしい	大学・大学生の取組を知っている	直接的な関わり		61	10		71
			間接的な関わり	74	33		107
			関わりなし	82	119	15	216
	大学・大学生の取組を知らない	関わりなし		1	2		3
無回答	大学・大学生の取組を知っている	直接的な関わり		11	6		17
		間接的な関わり		28	10		38
		関わりなし		28	46	5	79
	大学・大学生の取組を知らない	関わりなし			1		1

アンケートのカウン
1 119

※表中の「問 12:大学を身近に感じるか」において、「感じる」は設問 12 の回答選択肢の「感じる」「やや感じる」の合計、「感じない」は設問 12 の回答選択肢の「あまり感じない」「感じない」の合計。

※表中の「問 10: 大学・大学生の取組への関わり」において、「直接的な関わり」は設問 10 の回答選択肢の「④大学の授業での活動や、ボランティア活動などで大学生と一緒に活動したことがある」「⑤町内会や子ども会、老人会などの行事に大学生に参加してもらったことがある」「⑦近所に住んでいる大学生と個人的に交流がある」の合計、「関わりなし」は設問 10 の回答選択肢の「⑨特に関わったことはない」および未回答の合計、「間接的な関わり」は設問 10 の回答選択肢のそれ以外の合計。

まず、「子どもへの学習支援」と回答した市民の特徴について検討していく。

表 4-7 をみると、設問 12 の大学に対して身近に「感じない」かつ大学・大学生の取組への関わり（設問 10）について「関わりなし」を選択した市民が、「子どもへの学習支援」と回答した市民 397 名中 119 人と最も多い割合 (30.0%) であった。

次いで多いのは、大学に対して身近に「感じる」かつ「関わりなし」の 82 人であった。以上の回答者は、設問 7 で大学・大学生の取組を知っていると回答している。立命館大学や大学生に対して市民は「関わりなし」と回答しながらも、「子どもへの学習支援」を望む層が多数であることは、草津市民の子どもに関わる大学生への期待の大きさを推測させるものである。

他方で、上述の回答とは対照的に、設問 12 の大学に対して身近に「感じる」かつ、設問 10 の大学・大学生の取組への関わりについて、「直接的な関わり」や「間接的な関わり」を持つ回答者が 135 人（61 人+74 人）と、一定数の層が存在することに留意すべきと考える。

それでは、「子どもへの学習支援」と回答した市民の年齢構成での特徴は何であろうか。「子どもへの学習支援」と回答した市民の年齢構成割合（図 4-8）を見ると、40 歳代と 70 歳代の割合が拡大していたことに特徴がある。他の年齢区分では、構成割合が減少していた（30 歳代、50 歳代、60 歳代、80 歳代以上）。

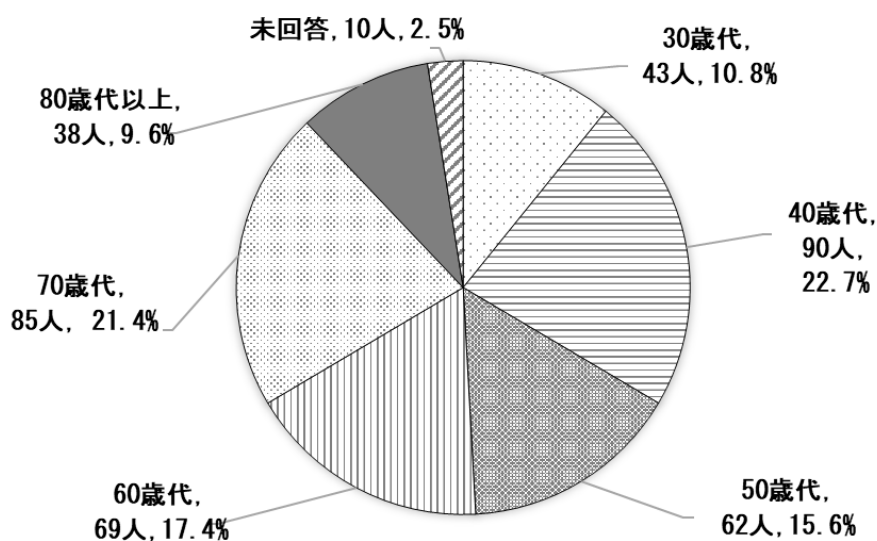


図 4-8 子どもへの学習支援と回答した市民の年齢構成割合

次いで、「地域の活動」と回答した住民の特徴について検討していく。結論を先取りすれば、「子どもへの学習支援」と回答した住民の特徴と重なりがあり、回答者数がやや少ないことに特徴を持つ。

表 4-8 をみると、設問 12 の大学に対して身近に「感じない」かつ大学・大学生の取組への関わり（設問 10）について「関わりなし」を選択した市民が、「地域の活動」と回答した市民 296 人中 88 人と最も多い割合 (29.7%) であった。

次いで多いのは、大学に対して身近に「感じる」かつ「関わりなし」の57人である。以上の回答者は、設問7で大学・大学生の取組を知っていると回答していた。

上述の回答とは対照的に、設問12の大学に対して身近に「感じる」かつ、設問10の大学・大学生の取組への関わりについて、「直接的な関わり」や「間接的な関わり」を持つ回答者が106人（53人+53人）であった。以上のように、「地域の活動」においても、「子どもへの学習支援」と回答した市民の特徴とほぼ重なることが分かる。

表 4-8 市民が大学生に望む活動内容（「地域の活動」）とその他の項目とのクロス

問 15:地域の活動	問 7:大学・大学生の取組への意識	問 10:大学・大学生の取組への関わり	問 12:大学を身近に感じるか			総計
			感じる	感じない	分からない	
地域活動に参加してほしい	大学・大学生の取組を知っている	直接的な関わり	53	12		65
		間接的な関わり	53	22		75
		関わりなし	57	88	9	154
	大学・大学生の取組を知らない	関わりなし		2		2
無回答	大学・大学生の取組を知っている	直接的な関わり	19	4		23
		間接的な関わり	49	21		70
		関わりなし	53	77	11	141
	大学・大学生の取組を知らない	関わりなし	1	1		2

アンケートのカウント 1 88

※表中の「問 12:大学を身近に感じるか」において、「感じる」は設問12の回答選択肢の「感じる」「やや感じる」の合計、「感じない」は設問12の回答選択肢の「あまり感じない」「感じない」の合計。

※表中の「問 10: 大学・大学生の取組への関わり」において、「直接的な関わり」は設問10の回答選択肢の「④大学の授業での活動や、ボランティア活動などで大学生と一緒に活動したことがある」「⑤町内会や子ども会、老人会などの行事に大学生に参加してもらったことがある」「⑦近所に住んでいる大学生と個人的に交流がある」の合計、「関わりなし」は設問10の回答選択肢の「⑨特に関わったことはない」および未回答の合計、「間接的な関わり」は設問10の回答選択肢のそれ以外の合計。

なお、年齢別の分析をおこなうと、図 4-9 で示すとおり、「地域の活動」と回答した市民の年齢構成割合と、全回答者の年齢構成割合とを比較すると、60歳代、70歳代、

80歳以上の構成割合が増大し、逆に30歳代、40歳代、50歳代では低下していた。相対的に、高齢者層で大学生に「地域の活動」を望んでいることが分かった。

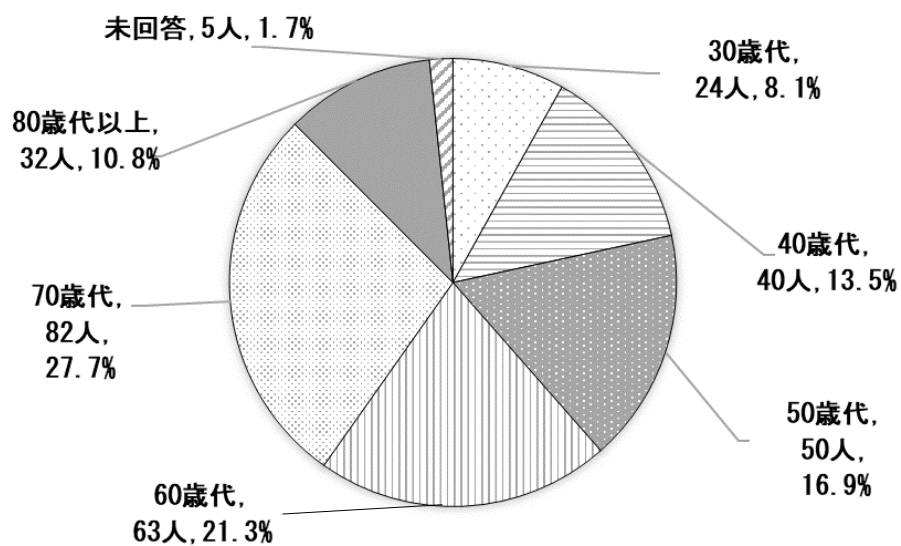


図 4-9 地域の活動と回答した市民の年齢構成割合

第5章 調査結果からみえた大学および大学生との連携の方向性

・ 学生生活を過ごしやすいまち草津

本調査研究では、アンケート調査やヒアリング調査の結果をもとに、立命館大学生の草津市での生活や活動の実態、草津市への意識を把握するとともに、大学生の草津市での地域活動への関心や、地域活動への参加経験と卒業後の草津市への意識について分析を試みた。

BKCの学部生へのアンケート調査結果については、活動意識の高い学部生の回答割合が高いと想定されることを考慮する必要はあるが、草津市は学生生活を過ごしやすいまちであると感じている学部生の割合は高い。その理由としては、飲食や買い物をする店舗がある、安全に生活をする事ができる、自然が豊かである等の項目で、満足と回答する割合が高かった。また、大学生活で関心のあることについての質問には、大学での学びや学んだことの実践の回答割合が特に高かったが、国や地方自治体の政策づくりへの関わりについても、半数近くの学部生が関心を持っていた。

・ 大学生の地域活動への参加と市民からの期待

大学生活において、大学での学びや学んだことの実践に関心があると回答した学部生の地域活動への参加状況や意識をみると、参加した経験の回答割合が高かった住民の交流に関する活動(祭りのサポートなど)や、参加経験はないが参加してみたい意向の回答割合が高かった子どもに関する活動(遊び相手や勉強のサポート)においては、参加したくない・興味がないは少なかった。大学生活において関心のあることで、大学での学びや学んだことの実践に関心があると回答した学部生の割合は特に高いので、これらの地域における住民の交流や、遊び相手や勉強のサポートなどの子どもに関する活動に関わる意向のある学部生は多いと想定される。これらの活動は、市民へのアンケート調査でも、大学生に望むことの質問において回答が多くあり、また取組に特別な専門知識が必要ではないため、地域と一緒にやりやすい活動ではないかと考えられる。

BKCの学部生へのアンケート調査結果から

地域活動全般において、参加経験はないが参加してみたい意向の回答割合が、約半数以上あった。そして、地域活動に参加した経験がある学部生は、卒業後に草津市に住みたいと回答している割合が高かった。このことは、地域活動を通じて、草津市への愛着が醸成されていることが考えられる。また、草津市での満足度に関して、本市を過ごしやすいまちと感じたり、自然豊かであると回答した学部生も、卒業後に草津市に住みたいと回答する傾向があった。

ヒアリング調査結果から

コロナ禍においても地域活動を実践している団体から意見を聞いたが、積極的に活動している大学生は自ら様々な手段を用いて活動に関する情報を収集し、行動している。

このような大学生は、通常の大学生活では出来ない体験やつながりの広がりややりがいを感じ、成長している。また、地域や保護者からの感謝や子ども達からのあこがれが励みになっている。

今回のヒアリング調査とアンケート調査の結果から、地域活動に参加してみたい意向の大学生は多くいると想定されるが、既に活動している積極的な大学生と、関心はあるものの活動できていない大学生に分かれることが分かった。地域からそれぞれの層にあったアプローチ方法が必要と思われるが、特に関心はあるものの活動できていない大学生へのアプローチの方法を検討していく必要がある。

草津市民へのアンケート調査結果から

草津市民の立命館大学および大学生が市内で行った取組への意識や関わり、また大学への親近感、大学や大学生に望むことを把握するとともに、市民の大学生に望むことに焦点をあて分析を行った。

アンケート調査結果では、大学や大学生が市内で行った取組については、特に知らないの回答割合が最も高く、次に多いのが市のイベントへの協力であった。また、大学や大学生の取組への市民の関わりについても、特に関わったことはないが最も多かった。一方で、半数以上の市民が草津市は大学・学生のまちだと感じており、立命館大学を身近に感じると回答した市民も約半数おり、感じないを上回った。市民が大学に対して望むことは、地域課題の解決や地域経済の活性化、地域を支える人材の育成を望む回答が多くあった。また、市民が大学生に対して望むことは、地域を舞台にした取組への挑戦や、学んだことをもとにした地域での活動、子ども達の学習支援や交流による子ども達の成長の応援の回答が多かった。

大学生に望むことに着目し、地域における活動として、比較的活動がしやすいと思われるボランティア活動を通じた地域の活動や行事への参加や、子ども達の学習支援や交流による子ども達の成長の応援を回答した市民を詳しくみると、市内での大学や大学生の取組を知っているものの、大学を身近に感じず、また大学や大学生との関わりがない人が最も多かった。これは、市民にとって、大学や大学生と直接関わりがなく、身近に感じられていないが、大学や大学生の存在に期待していると想定できる。なお、大学や大学生の取組を知っており、身近に感じる人からの回答割合も高く、市民からは大学や大学生に地域での活動に関わって欲しいとの期待は高いものと想定できる。なお、年齢構成を見ると、ボランティア活動を通じた地域の活動や行事への参加については、60歳以上の年代からの回答割合が高く、実質的に地域活動を担っている層からの期待が高い。また、子ども達の成長の応援については、40歳代、70歳代の回答割合が高く、これは小中学生の親や小中学生の孫がいると思われる層からの期待が高いことが考えられる。

・大学生と市民が関わる仕組みづくりの必要性

BKCの学部生は、飲食や買い物をする店舗がある、安全に生活をする事ができる、

自然が豊かである等を理由に、草津市は学生生活を過ごしやすいまちであると感じており、草津市に対する評価は高いと言える。

また、地域活動に関しても、これまで参加経験はないが参加してみたい意向のある学部生が多く存在し、さらには、地域活動を経験した学部生は、将来草津市に住みたいとの回答割合が高くなっている。一方で、市民も大学生が地域活動に参加することに期待していると想定されるが、大学生が行う取組への意識や関わりが少ない現状であり、大学生と市民をどうやって結びつけるのか、また何をどうしてもらうのか、その仕組みづくりの構築が必要である。

・行政と大学の連携

市民へのアンケート調査結果から、市が大学と今後強めていくべき連携としては、地域経済の活性化や環境問題への取組、小学校や中学校などの教育に関する連携の回答が多かった。市民が望んでいる大学との連携に関しては、地域経済の活性化では、市では市産業振興計画の策定に取り組み、令和5年7月には市産業振興計画を制定予定である。様々な主体との連携により、本市の経済発展に取り組んでいくこととなるが、その中でも大学との連携は非常に重要である。また、本市は2021(令和3)年12月に、草津市気候非常事態(ゼロカーボンシティ)宣言を行っており、脱炭素社会に向けた取組でも大学の知見は必要不可欠である。市教育委員会においても、大学とはこれまでから多くの連携事業に取り組んでおり、全国的に少子高齢化が進み、社会情勢が大きく変わっている中で、市と大学の連携は益々重要になってくる。

・新型コロナウイルス感染症の影響

本調査研究では、新型コロナウイルス感染症が大学生の活動にも大きな影響を及ぼしていることが改めて感じられた。大学生は、コロナ禍において多くの活動の制限を受けており、学部生へのアンケート調査結果では、地域活動に参加してみたい意向はあるものの参加したことがなかったり、市内での活動頻度に関する質問では、課外活動やアルバイト、まち歩きを全くしていないとの回答割合が高かった。ただし、この結果については、新型コロナウイルス感染症の影響だけではなく、本市の課題であるとの認識が必要だと考えられる。ヒアリング調査でも、コロナ禍のために活動ができず、メンバーの減少やノウハウの消失などの課題があることや、地域からの交流依頼の受付停止期間があったこと、地域からの依頼数が大きく減少している状況を聞いた。

現在は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での活動の再開が始まっており、今後活動が増えていくことが想定される。今後は、大学生と市民がお互いの取組や活動、課題等を知る機会を設けていくことが、より両者の連携を深めていくためのきっかけとなる。今回のアンケート調査等の結果で、両者の望みが重なる地域や子ども達の成長に関する分野を中心に、市民と大学生を結びつける仕組みの構築を図っていくことが有益であると考えられる。

おわりに

本調査研究では、BKCの大学生の生活や活動の実態、地域活動への意識や卒業後の意識、そして市民の大学および大学生への意識や関わり、大学および大学生に望むことの把握を行った。結果は、地域活動にこれまで参加経験はないが参加してみたい意向のある大学生が多く存在し、また地域活動を経験している大学生は、卒業後の草津市への居住に関する回答割合が高かった。また、市民においても大学を身近に感じる割合は一定あり、大学生に対しても、地域を舞台にした取組や学んだことによる地域での活動、子どもに関する活動を中心に期待が高いことが分かった。しかし、今回のアンケート調査では、詳しいニーズの把握までには至っておらず、今後細かなニーズ把握が必要になると思われる。そのためには、大学生と市民の連携の実践を通して、具体的にどのような活動が必要なのかを明確にしていかなければならない。また、これまで大学および大学生と市民が関わる場合は、講座やセミナーへの参加、学園祭等のイベントへの参加、地域の夏祭り等への学生の参加が主な内容であった。アンケート調査結果でも回答割合の高かった地域を舞台にした学生ならではの視点による取組や研究成果をもとにした活動については、これからの課題である。

市民へのアンケート調査の自由記述において、一部大学生のマナーについて苦言を呈する意見もあったが、BKCの存続を願う意見や、大学生と直接関わったと思われる方からは真面目である、礼儀正しいなどの好印象の意見が多くあり、草津市民は立命館大学および大学生を好意的に感じていると考えられる。一方、大学の取組や大学生の活躍を知る機会が少なく、そのような場が必要との意見も複数あった。

少子高齢化の進展により、大学においても、地方自治体においても難しい経営が求められている。このような中、草津市においては、立命館大学BKCが立地するのは大きな資源であり、お互いに求める役割を果たしながら、持続可能なまちづくりが進んでいくことが望まれる。

◎関係者一覧

○アドバイザー

橋本 貴彦 立命館大学経済学部教授(草津未来研究所 運営委員)

○草津未来研究所

角 一朗 草津市総合政策部 草津未来研究所 副所長

山本 一成 草津市総合政策部 草津未来研究所 統括研究員(主担当)

田中 祥温 草津市総合政策部 草津未来研究所 参与

橋本 千秋 草津市総合政策部 草津未来研究所 研究員

参考文献

- 草津市(1991)「第3次草津市総合計画(くさつハイプラン21)」
- 草津市(1999)「第4次草津市総合計画(くさつ2010ビジョン)」
- 草津市(2010a)「第5次草津市総合計画 基本構想」
- 草津市(2010b)「第5次草津市総合計画 第1期基本計画」
- 草津市(2013a)「第5次草津市総合計画 第2期基本計画」
- 草津市(2013b)「南草津のまちづくりに関する調査研究報告書－南草津地域のまちづくりの方向性について－」
- 草津市(2015)「大学と地域の連携に関する調査研究報告書－大学のある都市としての優位性を活かすために－」
- 草津市(2017)「第5次草津市総合計画 第3期基本計画」
- 草津市(2021a)「第6次草津市総合計画 基本構想」
- 草津市(2021b)「第6次草津市総合計画 第1期基本計画」
- 草津市(2021c)「南草津エリアまちづくり推進ビジョン」
- 立命館大学(2018)「学園ビジョン R2030 挑戦をもっと自由に」
- 立命館大学(2020)「学園ビジョン R2030 立命館大学チャレンジ・デザイン」
- 文部科学省(2021)「地域で学び、地域で支える。大学による地方創生の取組事例集」
- 草津市(2022a)「草津市 総合政策部 草津未来研究所 令和3年度事業報告書」
- 草津市(2022b)「令和3年度草津市のまちづくりについての市民意識調査結果報告書」
- 立命館大学(2022)「アクティブライフ共創コンソーシアムが目指す未来社会像と今後の活動について」
- 総務省 国勢調査(政府統計の総合窓口 e-Stat)
〈<https://www.e-stat.go.jp/statistics/00200521>〉(2023.1.5 閲覧)
- 立命館大学ホームページ「年表で見る立命館」
〈<https://www.ritsumei.ac.jp/profile/about/history/chronology/>〉(2023.1.5 閲覧)
- 立命館大学ホームページ「立命館大学 学生数」
〈<https://www.ritsumeikan-trust.jp/publicinfo/disclosure/data/>〉(2023.1.5 閲覧)
- 立命館大学ホームページ「学生との地域交流のご案内」
〈https://www.ritsumei.ac.jp/community_affiliations/chiiki/〉(2023.1.25 閲覧)
- 立命館大学ホームページ「シチズンシップ・スタディーズ」
〈<https://www.ritsumei.ac.jp/slc/curriculum/citizenship/>〉(2023.1.25 閲覧)
- 立命館大学ホームページ「サービスマーケティングセンター」
〈<https://www.ritsumei.ac.jp/slc/>〉(2023.1.25 閲覧)
- 早稲田大学ホームページ「地域連携ワークショップとは」
〈<https://www.waseda.jp/inst/sr/region/>〉(2023.1.6 閲覧)

参考資料

目次

参考資料1	大学生アンケート調査結果(単純集計)……………	58
参考資料2	大学生ヒアリング調査結果……………	65
参考資料3	市民アンケート調査結果(単純集計)……………	73

参考資料1 立命館大学生への「草津市に関するアンケート調査」結果(単純集計)

設問1～5、7、10～12、15、17、41～42については、第2章で掲載

設問6：滋賀県外に住んでいる方にお聞きします。現在住んでいる地域を選択してください。66人

回答6：①京都府 48.5%(32人) ②大阪府 30.3%(20人) ③兵庫県 7.6%(5人) ④奈良県 4.5%(3人)
⑤岐阜県 4.5%(3人) ⑥愛知県 4.5%(3人) ⑦三重県 0% ⑧その他 () 0%

設問8：住んでいるところから、キャンパスまでの普段の通学時間を教えてください。332人

回答8：①30分未満 62.3%(207人) ②30分～1時間未満 14.5%(48人)
③1時間～1時間30分未満 8.1%(27人) ④1時間30分～2時間未満 9.9%(33人)
⑤2時間～2時間30分未満 4.2%(14人) ⑥2時間30分～3時間未満 0.6%(2人)
⑦3時間以上 0.3%(1人)

設問9：BKCに到着する時の交通手段について教えてください。332人

回答9：①徒歩 8.7%(29人) ②自転車 54.2%(180人) ③バイク、原付 7.2%(24人)
④近江鉄道バス 25.0%(83人) ⑤京阪バス(京阪中書島駅) 1.5%(5人)
⑥衣笠・BKC・OICキャンパス間シャトルバス 1.8%(6人) ⑦その他 () 1.5%(5人)

設問13：あなたは、今年の春学期の授業期間中にどこでアルバイトをしましたか(複数回答)
332人

回答13：①草津市 43.1%(143人) ②滋賀県内の市町(草津市以外) 17.8%(59人)
③京都府 17.8%(59人) ④大阪府 8.4%(28人)
⑤兵庫県 1.2%(4人) ⑥奈良県 0.9%(3人)
⑦三重県 0% ⑧岐阜県 0.9%(3人)
⑨愛知県 1.2%(4人) ⑩その他 () 0%
⑪アルバイトをしていない 23.8%(79人)

設問14：(設問5で「①草津市」と答えた方にお聞きします。)

生活に関する情報(ゴミの出し方など)を、どのような手段で入手していますか(複数回答) 230人

回答14：①市の広報紙(広報くさつ) 22.6%(52人)
②市のパンフレットなどの印刷物 16.1%(37人)
③市のホームページ 13.0%(30人)
④市のSNS(LINE、Facebook) 1.7%(4人)
⑤大学から(印刷物、ホームページ、SNSなど) 7.4%(17人)
⑥大学生協から(印刷物、ホームページ、SNSなど) 7.4%(17人)
⑦人から教えてもらう(家族・親族、友人、知り合いなど) 7.8%(18人)
⑧下宿先の管理会社から(掲示板など) 58.3%(134人)
⑨その他 () 3.0%(7人) アプリ。学区からのお知らせ。
⑩入手していない 3.5%(8人)

設問16：草津市内(BKC以外)で、1年間に複数回行ったことがある場所について教えてください。(複数回答) 332人

回答16：①ロクハ公園、草津川跡地公園(de愛ひろば、ai彩ひろば)、矢橋帰帆島公園 31.0%(103人)
②市のスポーツ施設(運動グラウンド、体育館、テニスコートなど) 15.4%(51人)

- ③まちづくり施設（市民交流プラザ（フェリエ南草津内）、UDCBK（西友南草津店内）など）
13.0%(43人)
- ④草津市立図書館（草津町）、南草津図書館（フェリエ南草津内）17.8%(59人)
- ⑤クリアホール（野路6丁目）、アマカホール（草津市役所隣）3.6%(12人)
- ⑥歴史施設（草津宿本陣、草津宿街道交流館など）8.4%(28人)
- ⑦観光施設（琵琶湖博物館、水生植物公園みずの森など）8.1%(27人)
- ⑧琵琶湖などの自然 33.7%(112人)
- ⑨フェリエ南草津、西友南草津店 61.7%(205人)
- ⑩イオンモール草津、エスクエア、近鉄百貨店草津店 70.2%(233人)
- ⑪娯楽施設（ボウリング、ネットカフェ、カラオケなど）40.7%(135人)
- ⑫スーパー、コンビニ 77.4%(257人)
- ⑬飲食店 66.3%(220人)
- ⑭その他（ ）0.3%(1人)
- ⑮どこも行っていない 5.7%(19人)

設問18：設問17以外に、参加した/参加してみたい草津市の地域での活動はありますか。あれば、具体的に記入ください。7人

回答18：学童ボランティア。手話。ゴミ問題。オリンピックのボランティア。立命の家に参加した。オーブン観覧型の音楽発表会。スポーツフェスタ(大学での開催)。

設問19～：（設問17で、各項目において「何度も参加したことがある」「1回だけ参加したことがある」を選択した方にお聞きします。）※各項目ごとに回答
参加した理由について教えてください。（複数回答）

- 回答19～：
- | | |
|----------------|------------------|
| ①研究や学んだことの実践 | ②興味がある |
| ③仲間や知り合いができる | ④地域の人と交流するのが楽しい |
| ⑤人の役に立ちたい | ⑥謝礼が出る |
| ⑦自分の知識や特技が生かせる | ⑧将来希望する仕事に関係している |
| ⑨授業の一環 | ⑩その他（ ） |

設問20～：（設問17で、各項目において「何度も参加したことがある」「1回だけ参加したことがある」を選択した方にお聞きします。）※各項目ごとに回答
その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答）

- 回答20～：
- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| ①市の広報紙（広報くさつ） | ②市のチラシなどの印刷物 |
| ③市のホームページ、SNS（LINE、Facebook） | |
| ④市の担当部署に相談した | ⑤大学のチラシなどの印刷物 |
| ⑥大学のホームページ、電子掲示板（manaba+R）、SNS | |
| ⑦大学の授業 | ⑧大学の担当部署に相談した |
| ⑨市や大学以外の印刷物 | ⑩市や大学以外のホームページ、SNS |
| ⑪人から教えてもらった | ⑫その他（ ） |
| ⑬具体的な情報は知らない | |

【各項目の回答】

設問19：「住民の交流に関する活動（祭りのサポートなど）」に参加した理由について教えてください。（複数回答）37人

回答19：（最も多かった参加理由）②興味がある 48.6%(18人)

設問 2 0 : 「住民の交流に関する活動（祭りのサポートなど）」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答）（複数回答） 37 人

回答 2 0 : （最も多かった情報入手方法）⑪人から教えてもらった 32.4%(12 人)

設問 2 1 : 「町内会と連携した地域の問題に関する活動」に参加した理由について教えてください。（複数回答） 28 人

回答 2 1 : （最も多かった参加理由）②興味がある 57.1%(16 人)

設問 2 2 : 「町内会と連携した地域の問題に関する活動」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答）（複数回答） 28 人

回答 2 2 : （最も多かった情報入手方法）⑪人から教えてもらった 32.1%(9 人)

設問 2 3 : 「保育園や小中学校などの活動の支援」に参加した理由について教えてください。（複数回答） 24 人

回答 2 3 : （最も多かった参加理由）②興味がある 37.5%(9 人)

設問 2 4 : 「保育園や小中学校などの活動の支援」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答） 24 人

回答 2 4 : （最も多かった情報入手方法）⑪人から教えてもらった 33.3%(8 人)

設問 2 5 : 「子どもに関する活動（遊び相手や勉強のサポートなど）」に参加した理由について教えてください。（複数回答） 28 人

回答 2 5 : （最も多かった参加理由）②興味がある 53.6%(15 人)

設問 2 6 : 「子どもに関する活動（遊び相手や勉強のサポートなど）」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答） 28 人

回答 2 6 : （最も多かった情報入手方法）⑪人から教えてもらった 28.6%(8 人)

設問 2 7 : 「高齢者・障害者に関する活動（見守りなど）」に参加した理由について教えてください。（複数回答） 12 人

回答 2 7 : （最も多かった参加理由）②興味がある 41.7%(5 人)、③仲間や知り合いができる 41.7%(5 人)

設問 2 8 : 「高齢者・障害者に関する活動（見守りなど）」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答） 12 人

回答 2 8 : （最も多かった情報入手方法）⑪人から教えてもらった 33.3%(4 人)

設問 2 9 : 「防災や防犯に関する活動（防災マップづくりやパトロールなど）」に参加した理由について教えてください。（複数回答） 17 人

回答 2 9 : （最も多かった参加理由）②興味がある 52.9%(9 人)

設問 3 0 : 「防災や防犯に関する活動（防災マップづくりやパトロールなど）」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答） 17 人

回答 3 0 : （最も多かった情報入手方法）③市のホームページ、SNS(LINE、Facebook) 23.5%(4 人)、⑤大学のチラシなどの印刷物 23.5%(4 人)、⑥大学のホームページ、電子掲示板(manaba+R)、SNS 23.5%(4 人)、⑦大学の授業 23.5%(4 人)

- 設問 3 1 : 「健康づくりに関する活動（教室のサポートなど）」に参加した理由について教えてください。（複数回答）15 人
回答 3 1 : （最も多かった参加理由）③仲間や知り合いができる 46.7%(7 人)
- 設問 3 2 : 「健康づくりに関する活動（教室のサポートなど）」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答）15 人
回答 3 2 : （最も多かった情報入手方法）⑪人から教えてもらった 40.0%(6 人)
- 設問 3 3 : 「スポーツに関する活動（教室や大会のサポートなど）」に参加した理由について教えてください。（複数回答）31 人
回答 3 3 : （最も多かった参加理由）②興味がある 58.1%(18 人)
- 設問 3 4 : 「スポーツに関する活動（教室や大会のサポートなど）」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答）31 人
回答 3 4 : （最も多かった情報入手方法）⑪人から教えてもらった 35.7%(5 人)
- 設問 3 5 : 「歴史・文化に関する活動（文化財保護や発表会のサポートなど）」に参加した理由について教えてください。（複数回答）17 人
回答 3 5 : （最も多かった参加理由）②興味がある 41.2%(7 人)
- 設問 3 6 : 「歴史・文化に関する活動（文化財保護や発表会のサポートなど）」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答）17 人
回答 3 6 : （最も多かった情報入手方法）⑦大学の授業 41.2%(7 人)
- 設問 3 7 : 「生活環境に関する活動（清掃活動など）」に参加した理由について教えてください。（複数回答）22 人
回答 3 7 : （最も多かった参加理由）②興味がある 36.4%(8 人)
- 設問 3 8 : 「生活環境に関する活動（清掃活動など）」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答）22 人
回答 3 8 : （最も多かった情報入手方法）⑤大学のチラシなどの印刷物 36.4%(8 人)
- 設問 3 9 : 「地球環境に関する活動（SDGs など）」に参加した理由について教えてください。（複数回答）23 人
回答 3 9 : （最も多かった参加理由）②興味がある 65.2%(15 人)
- 設問 4 0 : 「地球環境に関する活動（SDGs など）」その活動の情報について、何で知りましたか（複数回答）23 人
回答 4 0 : （最も多かった情報入手方法）⑦大学の授業 34.8%(8 人)
- 設問 4 3 : あなたが将来就職を希望する（起業を考えている）業種は何ですか
内定が出ている人は、就職先の業種について教えてください。（複数回答）332 人
回答 4 3 : ①農林水産業 4.8%(16 人)
②建設・不動産業 9.3%(31 人)
③製造業 17.5%(58 人)

- ④電気・ガス・水道関係 6.6%(22人)
- ⑤運輸・物流業（鉄道・運輸・倉庫会社など） 8.1%(27人)
- ⑥旅行・宿泊関係（旅行会社、ホテルなど） 5.7%(19人)
- ⑦卸売・小売・飲食業（商社、スーパー、レストランなど） 9.9%(33人)
- ⑧金融・保険業 10.2%(34人)
- ⑨教育関係（大学、塾なども含む） 7.5%(25人)
- ⑩福祉・医療関係 9.3%(31人)
- ⑪情報・通信サービス関係 21.7%(72人)
- ⑫環境関係 7.2%(24人)
- ⑬広告関係（広告代理店、マスコミなど） 4.5%(15人)
- ⑭スポーツ関係 7.5%(25人)
- ⑮歴史・文化・芸術関係 4.5%(15人)
- ⑯専門資格業（弁護士、公認会計士など） 5.4%(18人)
- ⑰公務員 11.7%(39人)
- ⑱家業を継ぐ 2.1%(7人)
- ⑲その他（ ） 2.4%(8人)
研究者。研究・開発。食品関係。薬剤師。など
- ⑳まだ決まっていない、わからない 14.8%(49人)

設問 4 4 : あなたは今までに起業を考えたことがありますか 332人

- 回答 4 4 : ①考えたことがあり、起業に向けてすでに活動している 2.7%(9人)
 ②すでに起業している 0.9%(3人)
 ③考えたことはあるが、起業に向けた活動はしていない⇒設問 4 4へ 37.0%(123人)
 ④考えたことはない 59.3%(197人)

設問 4 5 : （設問 4 4で「③考えたことはあるが、起業に向けた活動はしていない」と答えた方にお聞きします。） その理由について教えてください。（複数回答） 123人

- 回答 4 5 : ①起業の相談場所（活動方法）がわからない 33.3%(41人)
 ②学業などが忙しくて時間がない 45.5%(56人)
 ③金銭的に難しい 26.0%(32人)
 ④仕事の経験を積んでから起業したい 53.7%(66人)
 ⑤その他（ ） 4.1%(5人)
 何で起業しようか何も思い浮かばなかったことと、強い意志を持ってやりきる自信がなかった。やったけど自分に合わなかったから。わからない、そこまで本格的なものではない。漠然としすぎている。熱意を持って起業しようと思う案がない。

設問 4 6 : 草津市で大学生活を送る中で良かったこと、また不便に感じたことなどがあれば、ご自由にご意見をお聞かせください。

回答 4 6 :

【街並み・店舗関係】

街の規模が丁度よく、喧騒に悩まされることのない静かな場所なので、学業に集中しやすい。基本的に草津市内で生活が完結できることが便利(買い物や行事)。自転車があれば、買い物、食事ができるお店も多いので便利です。生活圏が狭く、大都市にも近いため、とても住みやすい街です。自然豊かなところと、商業施設や公共交通機関の充実さが表れている都市であるところの両面が備わっていて、とても過ごしやすい。

地元とは違い、少し移動すると自然に触れられる点がとても良いと思った。
フードバンクの活動とか、自転車専用の道路とか、かなり過ごしやすい。しかし、あまり遊ぶような施設がない。イオンまで少し遠いし、駅周辺がもっと賑やかだったらいいのと思う。
治安がよくとてもいい街だと思います。
大通りから少しそれるとスーパーや交通手段が減るので、下宿生には生活しづらいところがある。
交通の便や遊ぶ場所、自習できる場所が少ない。
歩道がきちんとある所が多い点は安心して歩いたり、自転車に乗ることができる。イオンモール草津や西友南草津店、フレンドマートで食材や生活用品を買える点も快適で良いと思う。琵琶湖に近い所も気分転換に良いと思うし、公園や体育館がきちんと整備されている点も運動できるので良いと思う。近鉄百貨店があるのも良いと思う。新快速が止まり、京都大阪への利便性も良くベッドタウンとしては最適だと思う。希望としては、フェリエ南草津の規模が小さいのもう少し店を増やすなり充実させてほしいこと、娯楽施設が少ないこと、歴史的な建造物のより積極的な PR、宅地開発が進んでいるが自然も残して適度な田園都市にとどめてほしいこと、BKC 周辺に何かしらの商業施設があればなお良い点、歴史的な史跡のより一層の発掘・PRを期待したい。
スーパーや飲食店、様々な施設が揃っており、大学生にとって住みやすいです。
スーパーの数をもっと増やしてほしい。
飲食店が多くてありがたい。南草津駅周辺の飲食店の種類が少ない。
学生の街であるため、ファストフードやラーメン屋など学生にとってありがたいお手頃価格な店が多いこと。スーパーやドラッグストアが駅周辺に集中しすぎている。
駅前などの飲食店、ショッピングモールをもう少し充実させてほしい。
滋賀県では最低賃金が低いので、滋賀県内でアルバイトをしようとは思えないです。
娯楽施設が同じものも多く、遊ぶなら京都や大阪に行ってしまうこと。
社会人と大学生の拠点が草津駅と南草津駅で分かれている気がする。大学生にとっては過ごしやすいが、一般の方がどう感じているのか興味がある。
など

【交通・道路関係】

南草津駅から立命館大学までの直通バスがあることや、新快速電車が停車することが良い。
京都や大阪に乗り換え無しで行けるのは便利だと思います。
朝夕のラッシュ時間帯で、南草津駅から大学を結ぶ道路が混雑する。十分時間に余裕があると思っても、渋滞の影響で遅刻しそうになります。
雨の日や特定の時間ではかなり道が混んでおり、バスが大幅に遅れたり、利用者が多く乗れない時がある。また、電車が他の地域のものより天候に弱く、大幅に遅れたり止まったりするのが不便。
草津駅から立命館大学へのバスの便を増やしてほしい。
バスの路線が不便(バス停の位置など)。
コロナ禍以降、バスの本数が非常に減ってしまったため、市内の少し遠くの場所への行き来がしにくくなってしまいました。
祝日は大学が通常通りに授業しますが、バスのダイヤは祝日ダイヤで 5 限後の帰宅はやや不便である。バスの料金が高く感じます。
京都より滋賀県側において電車の本数が少ないので困ります。
南草津駅前駐輪場を全部屋根有りにして、駐輪場を増やしてほしいこと(特に 4 月頃は満車)、帝産湖南交通バスに IC カード読み取り機をつけてほしいこと、朝の近江鉄道バスの大行列の緩和を期待したい。
自転車で行く際も、学校手前の信号待ちで非常に混み合う。
バスの路線の範囲が狭く、自転車がいないと不便な地域が多いこと。
自転車用の道路がないのに交通量が多いため、買い物・アルバイトに行く時に事故が起きる可能性が高いと感じながら移動している。

中学生の通学する自転車のマナーが良くない。
交通量に対する道の幅員や見通しなどが適切でない場所があったり、交通違反(赤信号での車の直進・右左折など)が非常に多かたりするのが不満な点。
自動車の運転が荒いように思う。
他大学の学校周辺環境に比べて、優っているもの足りないものを分析したら面白そう。学校と駅間移動のために、レンタサイクルや電動自転車利用の方の充電できる場所など、柔軟な発想でいろいろなサービスを生み出して欲しい。自分が起業するなら需要があるレンタサイクル会社を起業する。
歩道が狭くて自転車では通りづらく、車道を走れるスペースもないところが多く、何度か事故を起こしそうになった。
草津市外にも共通するが、交通量が多いのに道が細くて歩道がないところが通行しづらかったり、変なところで行き止まりになっていて、道が分かりづらい。
歩道が狭い、ほぼない道がある。そのせいで何度も車にクラクションを鳴らされたし、雨の日は水がはねてきて何着も服がだめになった。
道路に凹凸があり、自転車やスーツケースを持つての移動が難しい。
自然も多く、治安もよいので大好きな街なのですが、唯一不満があるとすれば、道が凸凹しているところが多いことです。道の舗装や古くなった道の更新には既に尽力されているとは存じますが、更に舗装が進めばもっと良い街になると思います。
道路の整備が行き届いていると感じる。
街灯が少なく、夜暗くて足元や前が見づらい。
町中にある街灯がとても暗く数も少なく、夜危険を感じながら帰宅しています。街灯を増やしてほしいのと、明るくするためにLEDを使用してほしいです。
歩道に車が進入するのを防ぐポールが複数設置されているが、意味のない方向に取り付けられているため意味をなさず、障害物になっていて危険である。
太陽光パネルで夜間に発色する仕組みになっているが、全く光っておらず過去に自転車が衝突して事故になっている現場を見たことがある。歩道と車道のつなぎ目も段差が多いため、そこを通過した際の衝撃で自転車のカゴの荷物が飛んで行ったことが何度かある。
道路脇の側溝が剥き出しになっており、落ちそうになったので危ない。
坂が多く、自転車で生活するには不向き。
道路の勾配がかなり激しく、通学するのに一苦勞です。
木の枝が道まで出てきていて危険。
立命館大学までの通学路で点字ブロックの上を歩いたら確実に木の葉っぱが当たる道があって、もしそこを通る視覚障害者の人がいたら危ないなと思うので、葉っぱを切った方がいいと思います。
など

【生活関係】

自転車と原付が盗まれた。
幹線道路沿いに住んでいるが、夜中にバイクの音がとてつもなくうるさい。
ゴミ袋の値段が高い。どのゴミの日に出せばいいのか、ルールに迷っています。
近隣住民が学生に冷たい。
自分から行動すれば地域の方との繋がりができ、さまざまな経験ができること。繋がりを使って、大学での学びを実践することもできる。
概ね住みやすく満足しています。地域と大学がもっと協力したイベントがあるとよりよいと感じます。
など

参考資料 2 大学生ヒアリング調査結果

各団体のヒアリングの回答者および活動内容は、第3章で掲載

①立命の家実行委員会

(活動のきっかけ)

- ・各団体では、2回生が役職に就いて団体を運営していくが、立命の家を担当する広報に就いたので実行委員会に参加した。先輩に説明された内容で、他団体と交流できるのが面白そうと思った。後から結構大変だと聞いたが。
 - ・団体内の役職の兼ね合いで、立命の家の主担当と別の役職を兼務した。
- (やりがい)
- ・コロナ禍で直接打ち合わせができなかったが、前日リハーサルで初めて実感がわいた。オンラインでは説明内容が難しいとの意見が出て急遽修正したが、各団体が柔軟に対応してくれた。アンケート等の小学生の話を聞いて、やって良かったと感じた。
 - ・実行委員会で話し合うが、実行委員長として、最後は決定権が自分にあるという怖さはあった。準備段階からオンラインでの準備であった。しかし、前日のリハーサル・当日は対面で実行委員同士交流することが出来た。特に、当日の1日目に実行委員全員で集合写真を撮った際に、一期一会的に出会えたメンバーとイベントを作り上げることが出来たことに喜びを感じた。コロナ禍で希薄になっていた人との関係で、周りを巻き込んでみんなで作り上げたことが自信につながった。
 - ・立命の家を実施できたこと自体。これまで生徒会などを経験せず、こういう役をすることが初めてだったので、良い経験になった。メールの書き方や司会進行など、自分のスキルアップにつながった。
 - ・参加者のうち 85%が草津市内の児童。参加者アンケートでは、大学生にあこがれを持つ子どもが多くいてくれる。実行委員の学生アンケートでは、こんなに大変だと思わなかったとの感想もある。

(地域住民の反応や触れ合いの中で感じたこと)

- ・新しいものを子どもに見せたいという保護者の意向と、大学生が行うこのイベントの目的が合致していると思った。実行委員長の時は本部にいたので直接小学生と関わることはなかったが、今年は団体の企画に携わり小学生と関わった。保護者に言われて参加した小学生と一緒に過ごす中で、興味が全然ないところから少しは興味を持ってくれたのではないかと感じ、保護者からもしっかりと子どもを見てくれてありがとうと言われ、うれしかった。
- ・オンラインの様子を見ていると、プログラミングは想定以上に小学生が知っている、出来ているので、もう少しレベルを上げてもいいと思った。

(活動上での課題、うまくいかなかったこと)

- ・団体内での役割分担があまり機能しなかったこともあり、自分で全部やろうとしてキャパオーバーになった。事務も多くありモチベーションが下がった時期もあったが、学生オフィスを担当の方に面談してもらい、過去の写真などを見て、子どもが楽しそうな様子を聞きモチベーションが戻った。
- ・連絡のやりとりが大変だった。実行委員として、団体と大学職員の間で調整を行う役割があり、

プレッシャーはあった。初めての団体に連絡をとる必要もあった。当日は、参加団体以外にもボランティアを募り、総勢95人の学生が携わっており、直前にはその人達にも説明会を行った。

- ・オンライン開催では、材料などを郵便で参加者に送っているが、参加者から徴収しづらいことが課題となった。校友会の奨励金制度を活用して、申請・面接を経て通った。2021年は委員長1人で対応して大変だったので、2022年は副委員長も交えて複数で対応した
- ・以前だと、学生の課外自主活動団体に地域交流の依頼が全体で年間200~300件あり、町内会夏祭りやクリスマス会など様々なイベントに参加していた。コロナ禍で受付を停止したり、地域からの依頼がなくなっていたが最近少しずつ依頼がある。現在の4回生以上しか地域交流や対面での立命の家を経験しておらず、通常なら立命の家の各団体の企画は1・2回生が中心だが、今年は3・4回生もかなり関わってくれた。
- ・所属していた草津天文研究会では、材料の準備から当日に使う資料作成・実施までの大半で、3・4回生からのサポートがあった。コロナ禍での団体運営の難しさや従来のイベント実施のノウハウを次世代に引き継ぐことの重要性を実感する機会となった。

②体育会ラグビー部

(活動のきっかけ)

- ・2021(令和3年)度にチームビルディングを考えるリーダー(3回生)で話し合い、地域貢献のため、2月に単発だが清掃活動を実施した。今年度入部した部員が、キャンパスと練習場所のグリーンフィールド間を自転車で移動している際に、ゴミが落ちていたので、綺麗であればというのと、地域から愛される・応援されるチームを目指すために必要と思い清掃活動を提案され、計画的にしていこうとの話になった。主に1・2回生が中心となり、練習が休みの月曜日・木曜日の夕方にメンバーを集めて数回実施している。メンバーは、その時集まれる部員(10名程度)が参加している。

(活動理由)

- ・高校時代も清掃活動を行っていた。汚れているより綺麗なほうが、みんなが気持ち良いと思う。また、周囲から愛されるチームづくりをしたいと思った。
- ・愛されるチーム・応援されるチームに共感して、1回生なのにそのような発言をしてくれたことがうれしかった。僕も思いはあったが、活動には移せていなかった。
- ・2月に部全体で清掃活動をやってみて、地域の人との交流やつながりを深めていきたいと思っていた。愛されるチームづくりを提案してくれ、何か地域で活動ができたらの思いもあって、継続的に行うことが実現できており、可能なかぎり参加している。
- ・日本一に輝いた高校が清掃活動をしていることを知りかっこいいと思っていた。刺激を受け、自分もやろうと思った。

(やりがい、活動を通して変わったこと)

- ・思ったよりゴミが落ちていて、驚いている。ペットボトルや菓子袋、マスク、タバコなどで、1回のゴミの回収量は約70リットルのゴミ袋が3つほどいっぱいになる。
- ・今までゴミに気付いていなかったが、活動をして見えて変わった。他の場所でも綺麗にしようという思いになった。
- ・ゴミがよく見えるようになり、落ちているのが気になる。活動以外でも気付いたら拾うようになった。駅でもなるべく拾うようにしている。活動を通して変わった。
- ・活動していく中で、余裕が出てきた。余裕がない時はゴミとか見えない。余裕がないとラグビ

一のプレーでもせっぱつまってしまう。ゴミを拾えるのは心に余裕があるので、プレーでも私生活でも余裕が出てきた感じがする。

- ・プレー面で、視野が狭いと感じていた。ゴミは草むらの小さい隙間にもあるので、見つけるようになったことで、日常生活でも視野が広がったかなと思う。

(地域住民の反応や触れ合いの中で感じたこと)

- ・南草津駅周辺で清掃活動をしていた際に、年配の女性の方にありがとうと声を掛けてもらい、うれしかった。

(活動上での課題、うまくいかなかったこと)

- ・定期的に行って文化を残していこうと4人で考えている。
- ・今は清掃活動しかできていないが、他にも種類を増やしていけたらと思う。高齢者の困りごとや小学校のスクールガード、子ども達との関わりでラグビーを知ってもらいたい。指導陣とも、地元の高校生と交流できないか話している。僕は地元の高校出身で、コロナ前だがラグビーを教えてもらっている。
- ・コロナ禍もあって、地域の方とは交流できていない。草津市に下宿しているが、地域の人との関わりは持てていない。地域の方の役に立てる機会があったらやりたいと思う。
- ・自分が卒業後も続いて欲しいので、継続していきたい。活動に参加しているのは10人ぐらいで、毎回メンバーは変わっている。全体には及んでいないが、続けていくことで部全体に良い影響を与えられたらと思う。

(今後の目標)

- ・チームとしての目標は、大学選手権で勝つこと。自分は選手ではないが、運営面で貢献したい。チームとして、活動を通して地域とのつながりをつくっていき、地元で貢献したいし、応援してもらえるチームになりたい。
- ・マネージャー副務として考えている役割の1つに、チームの風土的、文化的なものを、いい方向に導けるように日頃の活動や新たな活動を模索していくことがある。チームの目標は選手権出場であり、部員の意識向上ができるよう1つの例として、地域の交流を進めて文化をつくりたい。
- ・応援されるチームという文化をつくって、後輩に引き継いでいきたい。
- ・グリーンフィールドで練習しているので、見に来てもらえたらうれしい。年間を通して色々試合はあるので地域に知ってもらって、試合を観に来てもらいたい。

③Rits BBS

(活動のきっかけ)

- ・子どもと関われる活動をしているサークルに入りたくてGoogleで検索し、BBSを見つけた。子どもが好きで、子ども達と楽しく活動できたらという気持ちだった。
- ・ボランティアに興味があり、大学のサークルを紹介する冊子で調べたらBBSを見つけた。ボランティアはもともと環境などに興味があったが、BBSは子どもと遊べて楽しいかなと思いついた。
- ・大学生のうちに、1つボランティアをしたかった。地域に貢献することがしたくて、国際協力や京都府の田舎での活動もあったが、大学のある草津市に貢献したいなと思い、BBSを見つけた。

(やりがい)

- ・子ども達と関われるし、ボランティアをすることで地域の方や保護者に感謝される。
- ・子どもと関わりたくて入ったが、地域住民の方と関わることも多い。担当している地域の活動

では保護者の方と関わるのが結構でき、日常生活ではあまりできないような経験をさせてもらっている。

- ・子どもと関わることで、元気をもらえる。活気があるので、こちらが逆にパワーをもらえる。自分が子どもの頃に参加していたイベントが、このような感じで企画され、事故などが起こらないよう色々考えられていたのだと知って為になり、裏側を知れて良い経験をさせてもらっている。

(地域住民の反応や触れ合いの中で感じたこと)

- ・まちづくり協議会主催のイベントに、BBSもボランティアとして参加し、ふれあいまつりの受付等の運営、稲刈りやデイキャンプ、釣り・魚拓づくりなどの色々な企画を手伝った。
- ・地域の会議にも出席している。地域の会議に出席する役職として、分校長というのがあり、1つの学区で1・2名割り当てられている。また、寺子屋がある学区以外でも、担当者がそれぞれいる。

イベントをする前には何回か会議をするが、地域の色々な団体の方と会議をして、企画を決めている。会議では、子ども達は大学生のお兄さん、お姉さんがいるとさらに楽しくなるから、多く参加して欲しいと言われる。

- ・イベント時に任される仕事は、子どもへの対応や、他にも釣り・魚拓づくりのイベントでは、魚に墨を塗ったり、魚を釣るのを手伝う係など、色々なことをさせてもらった。

(活動する上での課題、うまくいかなかったこと)

- ・子どものケンカの対処が、人によって違う。自分は思ったことを言うので、対処の仕方が難しい。
- ・子どもは、良い意味でも悪い意味でも予想外のことをするため、その対処が難しい。
- ・怪我は怖いので、救急セットは準備している。
- ・所属は46人。日常的に活動しているメンバーは25人程度。1回生が25人程度、2回生が10人程度いるが、コロナ禍で活動がストップしていた。僕ら3人が入部した時は、活動はなかった。実際の活動を知らないメンバーが多い中で、急に地域で色々な役割を任されて、右往左往していた。コロナが始まる前の活動を、先輩から色々教えてもらってやっている。
- ・イベントもだいぶ増えてきていると感じる。寺子屋も、今年度から再開した。
- ・楽しく活動しており、緊急の課題は感じない。

(今後の目標)

- ・活動を現状維持して、子どもと関わっていきたい。
- ・地域のイベントで担当をもらっている餅つきを成功させたい。
- ・他の大学生にもっとアピールしたい。部員を増やして、こんな良いサークルがあるよとか、ボランティアの楽しさを伝えたい。

④ライフサイエンス研究会

(活動のきっかけ)

- ・親が科学の本を買ってくれたり、テレビのでんじろう先生の実験がおもしろいと思ったのがきっかけで、科学が好きになった。子どもが好きで、でんじろう先生の実験を見ていてもおもしろいので、大学のサークルを紹介する冊子で見つけて入部した。
- ・子どもが好きで、科学も好きのために入部した。4月の勧誘期間中に、サークルのブースを全部回って決めた。子どもの頃は恐竜や動物などの図鑑が好きで、小学生になると身の回りの雑

学の本を読むのが好きだった。

- ・高校は科学部で、学園祭で科学実験を披露した時に子どもの反応がうれしかったので、大学でも同じようなことをできるところを探した。小学生の頃によく科学館に行っていて、小学校も科学クラブで、それらの経験を通して科学をおもしろいと思った。
- ・Twitter で見つけ、生命科学部生も多いと聞いたので入部した。世界で一番美しい元素図鑑が好きで元素に興味を持ち、中学や高校の授業で、答えがこれとはまるどころが好きで、科学が好きになった。

(やりがい)

- ・体験実験は、子ども達の反応がリアルに聞ける。うれしそうにしてくれると、こちらも冥利につきる。
- ・前に見て楽しかったので、また来ましたと言ってくれるリピーターの声聞いた時に、科学を好きになってもらえたと思い、うれしかった。

(地域住民の反応や触れ合いの中で感じたこと)

- ・子どもが喜んでくれて、それを見て保護者も喜んでるのがうれしい。例えば、巨大シャボン玉の中に子どもが入り、保護者が写真を撮っている。子どもより親が楽しんでいて、たくさん拍手してくれる時もある。親が楽しそうなのもうれしい。
- ・子どもが先入観なく見てくれ、質問してくれる。保護者も原理を質問してこられたり、別の視点で楽しんでくださっている。

(活動する上での課題、うまくいかなかったこと)

- ・現在の登録は19人で、頻繁に活動しているのは6~8人。コロナ前は80人以上所属していて、実働は30~40人だった。基本は4回生で終了だが、大学院生にも参加してもらっている。人数的に、全部の依頼は受けられていない。部の幹部とは別に、イベントごとに取りまとめる担当者がいたので、複数の依頼を同時に受けることが可能だった。活動としても、例会などで週1回程度集まっていたが、現在はコロナで集まるのも難しい。
- ・コロナ禍でどう活動を継続していくか。メンバーが少ないのが課題。コロナのためサークルへの入部は全体的に減っている。特に3回生は入学した4月に緊急事態宣言があり、大学に行けずオンラインだった。今年の1回生はサークルに入っている人も多くなっているらしい。
- ・子どもに分かりやすく伝えることが課題で、年齢層によって実験メニューは変えるが、幅広い対象者だと難しい。相手を見て、言葉や伝え方を配慮している。各学年で学びのポイントが違うので、低学年に合わせすぎると高学年は飽きてしまう。子どもへの説明には、簡単な言葉を使うこと、ゆっくり話すことを意識している。熟語を使わないこと、ジェスチャーやフリップボードを用いて視覚的に分かりやすくしている。
- ・オンラインと対面は違う。今年参加した「立命の家」は対面とオンラインが1日ずつあり、特にオンラインは個人に説明が伝わりづらかったり、コミュニケーションがとりづらく大変だった。
- ・今はサークルに入る学生自体が減っている。直接触れ合う活動なので、コロナ禍でどのように活動していくのか悩んだ。去年・一昨年は、オンラインで各1回ずつ行った。
- ・活動が少ないとやっていない実験も多く、技術の伝承が難しい。依頼が多かった時代は、年間100件を超えて活動していたと聞いている。

(今後の目標)

- ・自分達で企画し、広報もして大学でイベントを行う自主企画の「わくわくサイエンスラボ」を

復活させたい。子どもや地域とのつながりが極端に減ってしまった。そのつながりをノウハウがあるうちに、復活させたい。

⑤玉川まちづくり講座

(活動のきっかけ)

- ・尊敬する先輩から誘われて、学生コーディネーターになった。自他共栄が大事だと考えていて、学生が楽しく活動していれば、地域の方にもおもしろいと思ってもらえると思う。学生も学ぶことがあり、地域も助かるのが大切なことではと思う。この活動は、おもしろそうだったのと、学生コーディネーターの活動拠点が別の学区にはあったが、大学の立地している玉川学区にはなかったことから選んだ。
- ・地域の人に必要な情報を手軽に届けたいという玉川まちづくりセンターの想いと、大学で学んでいて課題に感じていた防災に関する情報を、住民の皆様にもうまく伝えるにはどうすれば良いかという想いが重なったこともきっかけの一つ。
- ・双方にメリット、成長がある取組みがしたい。広げたい、暮らしてみたいと思える魅力は楽しいと思うからこそ伝わると思う。コロナで課外活動ができていなかったのも、色々な経験をしたくて学生コーディネーターになった。色々な経験で自分を変えたくて、活動している。この活動は、楽しいという話を聞いていて、選考会ぐらいから参加することになった。選考会で応募用紙を見て、玉川の魅力を学んだ。これまで子どもに関わるボランティアへの参加が多く、まちづくりに関わる活動はしたことがなかった。
- ・ボランティアに興味があり、衣笠キャンパスのサークル活動で、まちの人と交流することは意義があることだと感じ、BKCでも活動したいと思った。NPO 法人主催の豆まきボランティアを玉川まちづくりセンターでしたことがきっかけで、3月から参加するようになった。

(やりがい)

- ・色々な経験ができること。ポスター作りや公式 LINE の投稿など、新しいことにチャレンジできた。また、つながりが増えること。学生だけでなく、地域の方や行政など、違う立場の人と関わることで、学生だけでは難しいことができるのが楽しい。まちづくりは地域の課題を解決することだと思っていて、学んだことを使って良くしていけることがやりがいだと感じる。
- ・見通しが立っていないところを、自分達で模索しながらやっていくところがやりがい。参加者が意欲的で、例えば伝え方など、自分に足りないところを学べている。
- ・滋賀や草津について知れること。東京出身だが、京都や滋賀の歴史・文化が好き。草津市では追分道標など、全国的にはあまり知られていないが興味深い歴史も多くある。この活動は将来につながる。まちづくりや地域を盛り上げる職業に就きたい。こちらに住みたいと思い、就職活動をしている。

(地域住民の反応や触れ合いの中で感じたこと)

- ・玉川萩まつりにブースを出して LINE を PR した際、子育て家庭の保護者の反応が良かった。また、自分達に何のメリットがあるのかという質問もあり、これからの課題でもある。

(活動する上での課題、うまくいかなかったこと)

- ・最初はキャラクター案があまり集まらなかった。講座も開いたが、最後は 1 人ずつ回って PR を行い、最終的に 50 案程度集まった。
- ・キャラクターを選ぶのが大変だった。1 回目は学生とまちづくり推進会議の担当者の方で絞り込み、2 回目はまちづくり推進会議の会長や大学の先生にも選考委員になっていただき、審査

を行った。アイコンとしての収まり・汎用性・玉川らしさ・どんな世代にも受け入れてもらえるか・親しみやインパクトの5項目で採点して決定した。

- ・活動の継続性をどう保つか。自分達は3回生のため、次の人を探さなければならない。学生時代に力を入れたことになると宣伝しようと思っている。
- ・信頼性を高めること。まだ大学内の活動になっていて、年配の方には大丈夫なのかと心配されてしまう。学生のことをもっと知ってもらい、認知度・信頼度を上げたい。

(今後の目標)

- ・LINEで情報を提供していくこと。どのような投稿をしたら学生が見てくれるのか。玉川で頑張っている人を紹介する等幾つか企画している。また、野路いも普及のため、情報収集として野路いも復活プロジェクトの農家の方を取材させてもらう予定である。
- ・LINEで、玉川学区に住んでいる大学生に向けて、どのような情報を発信したらいいのか考えていきたい。例えば新入生に向けて、お店や学習できるスペースの紹介など。

⑥若草文庫への参加

(活動のきっかけ)

- ・1回生の6月にチラシで知っていたが、9月にボランティアに参加した時に代表者の名前を再度見たので若草文庫に参加し、人柄に触れて定期的に参加するようになった。
- ・3回生の時に、サービスラーニングセンターの学生コーディネーターのメンバーから誘われて参加した。

(やりがい)

- ・子どもと遊ぶこと、交流することが楽しい。地域の大人の方も、おおらかな人ばかりで話すのが楽しい。子ども達が帰った後、大人だけで話す機会もあるがそこも楽しい。
- ・子ども達も楽しんでくれていて、自分は子ども達と会うこと、他の学生と会うこと、地域の方と話すこと・話を聞いてもらうこと全部が楽しい。メンバーがホームページをつくってくれたり、子ども達への科学実験をしてくれたり、みんなができることをしていることがうれしい。
- ・片方がもう一方に何かをしてあげるのではないのが良いところだと思う。子ども達と遊んでもらっているとか、大人も遊んでいるとか、あそこでおしゃべりできるとか、全員が何かをもらえて、その場にいるから何かを与えているだけであって、行きたい時に行け、敷居が高くない場所であることが素敵だと思っている。地域の方は女性が多いが、男性の方も時々来て、おもちをつくってくださったりする。
- ・小学2年生から来ている子どもが今は中学生になっているが、今も来てくれている。小学校卒業後も来てくれる場所になっているのがうれしい。人に優しい子になっていて、成長が見られる。子どもだけでなく、自分も変わったと思う。
- ・決まったことはないので、子どものためにしてあげたいと思ったことができる。

(地域住民の反応や触れ合いの中で感じたこと)

- ・地域の方とのつながりは感じており、いい方が多いので続けられる。
- ・地域のボランティアの方との関係で、地域のイベントに参加するなどして、別団体とのつながりや色々な方と交流ができるので、普通に学生生活を送っていたらできない非日常が味わえる経験なのが楽しい。地域から学生の力を貸して欲しいという要望があり、こちらは貸しますという感じでやりがいがある。
- ・子ども達も大学生に関わる機会の中々ないと思うので、お互いにとって良いと思う。

(活動する上での課題、うまくいかなかったこと)

- ・1回生の時にサービラーニングセンターの授業で知り参加したが、その後大学の担当者が代わられこともあってか大学との関係性が途切れ、その間大学生は自分1人だった。今の担当者の方が自分を見つけてくれて、学生コーディネーターが関わったり、サービラーニングセンターで紹介してもらえるようになり、大学生も来てくれるようになった。
- ・子ども達が誰も来ない時期があった。通りかかった知り合いの小学生に誰か呼んできてとお願いしたりした。
- ・来ていた小学生が来なくなったり、大学生が事情により参加できなくなるのが悲しい。小学生が来なくなる理由は遊びのマナー化が考えられるため、もっと楽しめる場が提供できるよう、遊びの工夫をできたらと思う。
- ・来ていた人が来なくなることに悲しい気持ちはあるが、行きたい時に行ける場所がこの場所の魅力である以上、仕方ないことだと思う。現在若草地域は子どもが少なく、かがやきの丘地域から来てくれている子どもが多いことなど、これからの地域自体の課題を感じる時もある。

(今後の目標)

- ・コロナ禍で活動がストップしていた時期は、自分も家で独りでしんどかった。コロナを境に、来ない子どももいる。若草文庫のような、自由に行って話のできる場所がもっとあると、独りでしんどい人が減るのではないかと思う。
- ・予定があえば来て子どもと一緒に遊ぶ、ハードルが低いボランティアだと思う。進路を迷っている時にこのまま卒業したら迷惑がかかると思い、子ども達が描いた絵を使ったチラシやホームページをつくって、最低限の基盤を固めたいと思った。ホームページからも参加できるようにしているので、告知して何人か来てくれたらうれしい。
- ・バイトのシフトなどではなく、学生が自由に来て子ども達と遊んで欲しいし、子ども達も調整している訳ではないので、大人と遊びたい時に遊べる自由な空間であって欲しい。
- ・自分が卒業しても続いて欲しいし、卒業後の自分が行けるような場所であって欲しいため、なくなって欲しくない。

参考資料3 草津市民への「立命館大学に関するアンケート調査」結果(単純集計)

設問1～5、7、9～10、12、14～16については、第4章で掲載

設問6：あなたは立命館大学びわこ・くさつキャンパス（BKC）に、どのような学部があるか知っていますか？(複数回答)

- 回答6：①経済学部 368人 ②スポーツ健康科学部 370人 ③食マネジメント学部 186人
④理工学部 479人 ⑤情報理工学部 324人 ⑥生命科学部 196人
⑦薬学部 218人 ⑧どの学部も知らない 380人

設問8：設問7で、1から10の番号（「11. 特にと組を知らない」以外）に○をされた方にお聞きします。そのと組を何で知りましたか？(複数回答) 607人

- 回答8：①市の広報くさつや回覧板 310人
②市の冊子やパンフレット、チラシなどの印刷物 168人
③市のホームページやSNS 31人
④大学の冊子やパンフレット、チラシなどの印刷物 56人
⑤大学のホームページやSNS 28人
⑥新聞やテレビ、ラジオでの報道 97人
⑦町内会や団体、小中学校などからの案内やチラシなどの印刷物 178人
⑧町内会や団体、小中学校などのホームページやSNS 24人
⑨人から教えてもらった 79人
⑩当日現場でたまたま知った 96人
⑪その他（ ）18人 仕事。家が近所。卒業生。子どもの関係。学区の役員。など

設問11：設問10で、「4. 大学の授業での活動や、ボランティア活動などで大学生と一緒に活動したことがある」「5. 町内会や子ども会、老人会などの行事に大学生に参加してもらったことがある」に○をされた方にお聞きします。それはどのような内容ですか？

- 回答11：
●時期 平成9年以前 2件 平成10年～19年 10件 平成20～31年 36件
平成・年不明 28件 令和 22件 時期不明 13件
●活動内容 学区ふれあいまつり。町内夏祭り。地域のイベント。老人クラブ。
みなくさまつり、ビブリオバトル。小学校でのボランティア。子ども会。学童。BBS 寺子屋。
健康づくり・福祉活動。環境活動。国際交流。など

活動内容一覧

年号	年	行事内容	大学生はどのようなことをしていましたか？
平成	20	学区ふれあいまつり	手品の披露、手品教室
平成	25	学区ふれあいまつり	ロボット研究会など3つのサークルに参加してもらい、小学生や地域の子とも達と交流
平成	30	学区ふれあいまつり	イベント(マジック、実験など)参加。小学校の教室で、子ども達参加型の教室で、毎年子ども達が楽しみにしていました。
平成	?	矢倉学区ふれあいまつり	チアガール演技披露。子どもさんにも参加を呼び掛けておられました。
平成	?	学区ふれあいまつり(玉川秋まつり)	科学実験の指導
令和	3	学区ふれあいまつり(南笠東学区合同フェスタ)	ヨーヨーつりの屋台出展
令和	4	志津まちづくりセンター夏祭り	子ども対象のコーナーの運営
?	?	草津まちづくりセンターの周年記念行事	落語会
平成	15	町内夏祭り	司会、バンド演奏など
平成	25～30	町内夏祭り	その年によって企画は色々だったが、ダブルタッチを見せてくれたり、子どもにも出てこさせて何かをさせる内容だった。
平成	26～30	町内夏祭り	子ども会から夏祭りの出店した際に学生にお手伝いをしてもらった。パンサーズの皆さんでブースを出されておられ、子ども達と交流された。小学校登校時の見守りをしてくださった。

年号	年	行事内容	大学生はどのようなことをしていましたか？
平成	28	町内夏祭り (野路サマーフェスティバル)	司会、運営、出演など
平成	30	町内夏祭り	落語研究会の方に落語を披露してもらった。
平成	30	町内夏祭り	司会を含む運営
平成	30	町内夏祭り	太鼓の演奏
平成	30	町内夏祭り	出店
平成	?	町内夏祭り (野路サマーフェスティバル)	イベント司会。音響機器の協力
平成	?	町内夏祭り	音楽
平成	?	町内夏祭り	音楽その他
平成	?	町内夏祭り	音楽パフォーマンス
平成	?	町内夏祭り	コーラス、バントワリング
平成	?	町内夏祭り	ダブルダッチ
平成	?	町内夏祭り	マジックショーとチアパフォーマンス
平成	?	町内夏祭り	ステージ披露
平成	?	町内夏祭り	子どものアメフト体験
平成	?	町内夏祭り	かなり前なので内容がいまいち思い出せないが、バンド関係か手品等で立命館大学生が参加してくれた様に思います。
平成	?	町内夏祭り	司会進行
平成	?	町内夏祭り	
平成	?	町内夏祭り (野路サマーフェスティバル)	ステージ披露から、裏方支援など(サークル各団体)
平成	?	町内夏祭り (笠山町夏まつり)	アカペラ・ダンス・ダブルダッチ
令和	元	町内夏祭り	夏祭りの司会進行や音楽を担当してもらった。
令和	元	町内夏祭り	プログラムへの参加・準備など
令和	元	町内夏祭り	イベントの手伝い
令和	元	町内夏祭り	積極的に協力してくれた。
令和	2	町内夏祭り	夏祭りのお手伝いや自治会の方のお手伝い、舞台に参加されたり、色々していただきました。舞台では色々歌ったり、今風のダンスをしていただきました。
令和	4	町内夏祭り (野路サマーフェスティバル)	司会
?	?	町内夏祭り	住民向けのマジック
?	?	町内夏祭り、河川清掃、 カフェ週2回(月・木)	清掃は市民と同じ仕事、夏祭りは司会またはお手伝い
?	?	町内夏祭り、小学校の文化祭	内容はよく覚えていない。
平成	12	町内の祭り	ダンス、チアリーディング
平成	17~	町内会行事	落語、似顔絵等その他色々来ていただきました。
令和	元	町内秋祭り	同好会メンバーによるマジックの披露
平成	?	町内イベント	落語を2~3人で寄席をやっていた頂き、どの方も一生懸命で楽しかったです。
平成	?	町内運動会(笠山町運動会)	
令和	4	町内会、子どものイベント	サークルの方に来てもらい、出し物をしてもらう予定
平成	6	子ども会、町内会のイベント	子ども達と一緒に活動して楽しませていただきました。
?	?	?	サークル活動を地域で披露してもらった。
平成	24	地藏盆	10年前に手品に来ていただいたことがある。
平成	30	地藏盆	
令和	元	敬老会	太鼓の演奏
令和	2	町内会老人クラブ	落語研究会(3人ほど)による落語の披露
令和	4	町内会老人クラブ	落語研究会(3人ほど)による落語の披露
平成	26	町内サロン	落語
平成	?	町内会(みのる会)で セラバンド体操を開催	毎週月曜日に、セラバンド体操でDVDを観ながら行う指導を教えてくださいました。
令和	1,2頃	地域のいきいき百歳体操を 中心としたクラブ(サロン)	サロンの主催者との面談、調査等
平成	23	みなくさまつり	イベントでの活躍(サークル団体が子ども達に遊び体験)
平成	27	みなくさまつり	立命館大学の紹介、イベントの手伝い
平成	27~	みなくさまつりのビブリオバトル	準備、運営、清掃など
平成	28	みなくさまつりのビブリオバトル	隣のブースに声が届かないように器具を取り付けバトルがスムーズに運ぶようにされていた。
平成	?	みなくさまつり	ダンス音楽、学習支援
平成	?	みなくさまつり	ブースの中で活動内容の説明等
平成	?	みなくさまつり	ダンス音楽、学習支援
?	?	みなくさまつり	舞台での音楽の発表など、模擬店の出店

設問 17：あなたがこれまで立命館大学や大学生と関わられた際に、思われたことがあればご自由にお書きください。

回答 17：

コロナ禍の前に学園祭に行った事があります。学生らしいアイデアで、活気があって良かったです。町内会の行事に、積極的にこたえていただいていると感じています。特に夏祭り行事に関する依頼対応。また、敬老会に際し、教授の講演会開催と会場の提供を快く引き受けてもらい、助かりました。

夏祭りイベントで交流できて、身近な存在に感じました。これからも地域の活性化に、大学生の若いパワーを提供して欲しいと思います。

草津市内であったイベントで、子ども向けにクイズや鉄道模型の運転をさせてくださったのですが、子どもにも保護者にもとても対応が良く感心しました。

まじめで印象が良いと感じました。

皆さん非常に礼儀正しく気持ちの良い方々でした。

若い人が多いと、街に活気があるので学生が通う大学であって欲しい。

子育て中なので、大学生と関わりを持つことで憧れや夢につながるものが子どもに芽生えるとすごくいいなあとと思います。

子ども達にとっては年上のお兄さん・お姉さん達と、また大人世代には若い人達と関われ、意見交換ができるのは良いことだと思います。

優秀な人材なので、地域で活躍できる場を多く提供してあげ、大学周辺の地域だけでなく、草津市全体に分散・活動できるよう市との連携をはかって欲しい。

コロナ禍で思うような学生生活を送れていないかもしれませんが、貴重な学生生活楽しんでください。

学生自身大変な方も多くいると思います。経済的にも精神的にもっと地域の方が寄りそえたらいいのに。

学生さんに地域活動・ボランティアを望むのであれば、相応の有償にすべき。

滋賀県の魅力を若者目線で全国に発信して欲しい。

以前講座を受講したことがあり、とても有意義でした。違う視点で考えることを教えていただき、刺激的でした。立命館大学での講座やセミナーを通じて、学生だけでなく教員等との意見交換ができることはとても有意義に感じます。

来るべき人口流出、産業衰退に対して、研究を深めて欲しい。特に教育・環境において、さらなる地域連携を求む。

大学での研究内容が地域で活かせるのであれば、最大限活用して欲しい。協力もしていきたい。

総合大学のメリットを生かして、あらゆる角度から草津市の発展に力を貸して欲しい。研究の成果、および市内企業に勤務する等で貢献して欲しい。

草津商工会議所の会員だが、大学との交流はほとんど無い。もっと交流すべきと思う。

大学および大学生が地域社会に溶け込んでいない。もっと草津市内へ進出して色々なことをやって欲しい。郊外にあるので、大学と駅との通過をするだけの街になっている。

大学が住まいから遠いので、あまり関わりがないです。

立命館大学が滋賀にキャンパスを作ってくれたことで、草津市がすごく発展したと思う。

キャンパス内は、市民開放されているが、敷居が高いイメージがある。レストランや図書館は利用できる事も知らなかった。

木瓜原遺跡を保存し、見学ができるようにしてもらっていることに対して感謝しています。

大学生なのに、交通ルールや常識のない行動をよく見かけます。

夜中の大声、騒音、公共交通機関での大声、近隣住民への迷惑を考えて節度ある行動をして欲しい。

地域の中でとても頑張っている学生さんがいる一方で、大学生、成人として社会性が身につけていない学生さんもいることがとても残念。大学として、学生の生活面、社会人育成に力を入れてくださることを願います。

正門前の道を通りますが、信号を守って通行してくれるので危険なことなく有難く思っています。

など

設問 18：あなたが立命館大学や大学生に期待することや課題に思われることがあればご自由にお書きください。

回答18:

【大学に期待すること】

(大学運営等)

大学には、社会的にも会社的にもいい人材がでるよう期待する。

世界で活躍する人材を輩出し続けてください。

滋賀県の強みを活かして、全国あるいは海外へ発信できるような人材を育てていただきたいと思います。その為には、滋賀県の魅力をもっと理解してもらうことが必要ではないかと思います。

滋賀、草津のすばらしさを学生の皆さんに伝える活動をして欲しい。

他府県から来た学生に、逆に出身地の良い取り組みや食文化などを紹介していただき、草津市に新しい文化発展の芽を植えて欲しい。

大学で学んだことを活かせる就職口との連携。在学中にやりたいことが見つかる出会い・授業・経験。

地震や災害の時の避難場所としての大学の提供。

理系の学部が多く、食の面からも日本の抱える課題を解決してもらいたい。低迷しつつある日本を盛り上げて欲しい。

素晴らしい施設や教授、講師などのリソースを地域へもっと開放して欲しい。

世の中には、大学に行きたくても行けなかった方が多くいられると思います。その方々が大学が身近にあることで再び学べる環境を整えるのも良いことかと思えます。学食で食事するだけでも楽しいでしょうし、小さなお子さんを連れて行くのも、大学の人気が上がって行きたい大学の候補になるかもしれません。

大学には、市民向けの講座を開いて欲しい。絶対に行きたい(建物の中へ入ってみたいというもある)。

6年前から滋賀県に住み、地域のことを知りたくて、立命館びわこ講座に出席させていただき沢山勉強させていただきました。出席することが楽しかったです。学生食堂でランチをとったことがうれしかったです。

など

(地域連携等)

地域が応援する大学の1つであって欲しい。

立命館大学の素晴らしい英知を、市に提案・提言していただき、学術の市として草津市を成長させていただきたいです。

学びの場だけでなく、大学生が行動できること。そのためには、仲立ちできる学校側や市関係者の方々の働きが大切ですね。

市民と大学生の交流の場をもっとつくって欲しい。

大学が望む地域との関わりもあると思います。Win-Winの関係での連携を望みます。

草津市民と連携し、共に発展できるよう期待します。特に、スポーツ関係、健幸都市くさつなので、その方向で強化してはどうかと思います。

若い子達が自主的に自身の住んでいる場所の町内会の行事に参加することは少ないので、大学の行事として参加していただけると、若い人達が参加するきっかけ作りになるのではないかと思う。

各地域では高齢化に伴い、次世代の担い手が不足している状況にあります。学生生活で、地域の方と関わる機会を作り、草津市に住み続けたい、活気のある地域づくりをしたいと思えるような学生さんが増えることを期待します。

何年か前に学部移転で学生数が減少したと聞いています。これからも草津に若い学生さん達が残ってくれればうれしいです。市民生活としても学生さんが多くいるまちは、消費経済ともに学生ニーズを無視できないことから、まちも色々と思恵を受けています。また、街に学生さんが多いというだけで、活気づいているように思えます。

行政や地域企業と連携し、草津市を活性化させ魅力あふれる街にして欲しい。また、その活動に学生も携われるようにすることで、学生にとっても貴重な経験となり、社会人になった際や将来生活に還元出来るようになることを期待する。

立命館大学の周りには商業施設がなく、学生はバス、徒歩にて南草津駅の往復であり、地域活動にはサークルを除いて参加は皆無である。大学を通して、地域活動の活性化を願う。

地域の子ども達を中心にこれからも交流して欲しいです。また、高齢化が進むマンションや町内会などの地域に対して、若い学生達で福祉など色々な問題、課題を一緒に考えたり、提案などをして欲しいです。

など

(産学連携等)

滋賀県や草津市の産業の発展に資するような研究開発やスタートアップの創出など、産学連携で取り組んでいただきたい。

地元企業と連携して、新規技術の開拓、新商品の開発に一役買って欲しい。

インキュベータ、産学連携の取組は非常に良いので、ますます充実させて欲しい。この機能をブランディングできれば良いと思います。

大学の見識のもとで産官学が連携を深めて、環境問題・食糧問題等に対応出来るシステムを構築して欲しい。

優れた技術を研究している研究室、先生がおられるが、なかなか社会実装につながっていないように感じる。企業側の立場としては、自分達ももっと大学が行っている研究に積極的に触れる機会を作るべきと考えるが、大学側にも対外的なアピール、情報発信をお願いしたい。

学生の街らしくするには、街のあちこちに学生の経営する小さな店があり、誰も(大人・小人)がのぞきたくなるような興深いものがあれば、街全体も活気づくであろうと思う。

閑散とした商店街や各所にある空き家、団地など、丸ごとではないけど、大学の学生が運営するようなプロジェクトがあれば、勉強と実績がついて学生が活性化すると思います。社会に出たらできない思い切ったアイデアなどが挑戦できる場があれば、学生が集まるのではないかと思います。

兼業農家していますが、老いとともに難しくなってきた。ロボット化してきた最近、大学でも研究・発明して欲しい。また学生ボランティアで、稲作補助していただけると有難い。

大学生に休耕田畑の活用方法など、今後の農業対策に少してエネルギーを貸して欲しい。

など

(教育関係等)

立命館大学と言えば、この辺りでは最も名の通った大学で、賢いできる学生というイメージがあるので、その学生の力や研究成果、学力を地域の子ども達との活動を通して、子ども達に刺激、魅力を与えて欲しい。

小学生、中学生、高校生との関わり。大学生の視点での課外活動での関わりがあれば良いと思う。例えば、高校生が大学を選ぶ時のアドバイスなど。

子どもが将来進路を考える際に、せっかく市内に立命館大学がありますので、大学の様子や学べること等を知れるような親しみを持てるようなイベント等があればうれしいと思います。

草津市、滋賀県発展の為に若い力を活かして幅広く活躍してください。小中学校との関わりが増えると、より良いのではと思います。

地域交流の場がコロナ禍でなくなっている今、大学生の若い力で様々な世代が交流できるような場を作ってほしい。子どもが学生と触れあえる場を作ってほしい。

子ども達と走り方教室やスポーツに関わることを、コロナが収まればまた再開して欲しい。

小中学校のクラブ活動等の指導、中高生向けのキャンパス体験や学生との交流。特に滋賀県は、子どもの勉強面が全国的に低いという結果もあるため、教育や学習面で協力し合えば、有意義な結果が生まれるのではないかと考える。

子ども達にとって、先生や親以外の大人として、何か将来の夢につながるような子どもと大学生の関わり、取組があるといいなと思います。良きカッコいい大人の見本として。

大学生には、草津市の中にも恵まれない子どもがたくさんいると思うので、そういう子ども達のために特に取り組んでほしい。学ぶ場や交流や指導等(子どもの情操教育に関する取組)。

プログラミング等を楽しく小学生に教えに来てくれる授業などがあるといいと思う。もしかしたらすでにあ

るかもしれませんが。

留学生の方と子ども達との国際交流の機会等で、広い視野を持った子ども達の育成へとつなげて欲しい。
など

【大学生に期待すること】

(学生生活等)

学んだことを生かして、自分の納得がいく人生を送れるよう頑張ってもらいたい。

大学生活を楽しんでください。

何でも挑戦できる年代なので、夢に向かって頑張ってもらいたい。

勉強を頑張って入学されたと思うので、バイトや遊びに力を入れ過ぎず、「将来の夢」「やりたいこと」を見つけて楽しんで欲しいです。コロナ禍でキャンパスが敷居の高い所に感じるようになりました。学園祭やイベントでまた行きたいです。

コロナ禍で色々と制約があって、思うような学生生活を送れていないかもしれませんが、今しか出来ない事があります。前向きに励んで欲しいです。

学生生活だからこそ、学べること、経験できることがたくさんあると思います。その経験したことを、自身のために、他のために役立てていただけることを期待しております。

遊びも勉強も頑張って色々な発想で色々なことをして欲しい。将来生きやすい良い環境を作ってもらいたい。親は高い授業料をためらわず払っているのだから、生かしてください。

不確かな時代に何が正しいことかを判断ができるように、勉強や社会事業へ積極的に参加をして知識と経験を通して、未来への道への糧としていただければと期待します。

大学で学び経験したことを生かして日本を支えていって欲しい。仲間をたくさんつくって遊びもたくさんして、人にやさしい人になって欲しい。

グローバルな視点と専門性を持って社会に貢献できる人材に育てて欲しい。

など

(地域との関係等)

他府県から入学された学生の皆さんが、少しでも滋賀県草津市をふるさとと思っていただけたら(青春の1ページ)うれしいです！

第二のふるさとと思って学生生活を楽しんでもらえたら、草津市民としてうれしく思います。

大学時代はたくさんのことを吸収できる数少ない期間なので、できるだけ広い視野で地域のことも含めて知識の吸収や経験をしていって欲しいです。また、積極的に地域と関わりをもっていって欲しいと思います。

コロナもあるかもしれませんが、社会勉強になると思うし、地域の人とのコミュニケーションの場だと思うので、大学以外でも草津を楽しんで欲しいです。

仕事、イベント、スポーツ、音楽あらゆる活動で若者らしさを発揮して老化しつつある草津市に活力を与えて欲しい。市政にもどんどん意見を出して街を変えて欲しい。

高齢化社会にこれからもどんどん進んでいくので、若い人の力や優しさをボランティアなどで、高齢者や障害者・子ども(小さな子ども・赤ちゃん)にいつでも力を貸してもらえるような関わりに期待します。

中学生や高校生に今伝えたいことなどがあれば何かで報告して欲しいものです。

草津がつまらない街だ面白くないと思うのであれば、自分達で面白い街にするような活動をしていって欲しい。

講演などの講師を、学生にやって欲しい。

など

(卒業後)

若い斬新的な知識や発想で、行き詰っている日本の未来に貢献して欲しい。また、世界に視野を向けて活動して欲しい。

卒業後も学生が草津市に定住し、草津市および滋賀県を活性化して欲しい。

中小企業に就職し、知識を活かして欲しい。

皆さんそれぞれの未来があるので、就職する学生さんに定住して欲しいとは思いません。しかし今、これだけネットを使って仕事ができる時代ですので、在学中に起業して草津に住みながらネットで仕事をし、そのまま定住といったようなモデルもあると思います。そういった方へ、市から支援があると今後の草津市のためにもいいのかなと思いました。

立命に通うことによって滋賀の素敵な場所や草津の住みやすい環境を感じてもらえて、卒業してもまた住みたいと思ってもらえたらうれしい。

将来、滋賀県や草津市の発展のために出来ることがあれば協力いただきたいです。

縁あって草津で学び、草津の住民として生活してきたので、ぜひ草津市発展のため、定住または何らかの関わりをもって活動して欲しい。

など

【大学で課題に思われること】

(大学運営等)

朝の南草津駅は学生さんや大学域のバス等で非常に混雑する為、授業開始時間を 30 分ずらしていただくはまだ混雑状況はましになるかも。

学生達の通学時間などの安全性を大切にしたい。

学生マンションのゴミ捨て場が無秩序で回収してもらえず、ゴミステーションからゴミがあふれ出ている。管理会社の責任もあるが、大学側も学生をきちんと育ててくれないだろうか。

一部学部が移転するのが寂しいです。若者が減少するのは、まちの活気が薄れていく様に思います。

立命館大学が草津に開学してくれた事で南草津駅に新快速が停まったり、駅周辺が賑やかになった事はとても嬉しい。ただ、学部が減るのには淋しさがある。

草津市民としては、大阪いばらきキャンパスへの移転は反対です。多少さわがしくても元気な学生さん達に、市内で買い物等してもらって、地域経済に貢献していただきたいです。

BKC の各学部が他府県に移転すること。少子化で学生の数自体が今後減ると予想される中、大学側も学生を集めようと思ったら、新しい校舎で利便性の良い都市に学校をと考えるのが当然だと思います。それに対抗できる何かがないと BKC が無くなり、学生が街から消えてしまうのではと不安です。

他地域に学部を移転することは仕方ないですが、現在のキャンパスもより発展していく為の話し合いを進めて欲しいと思います。

学部移転で築き上げたものがなくなるという現実は一時的な問題。学部や研究で地域とつながりができても、大学の意向で移転されると元も子もなくなる。大学の運営に、Sustainability は大変重要。

滋賀大、県立大、立命大、龍谷大学の横のつながりを促進すべきでは。

など

(地域との連携等)

市民講座や教室も草津駅周辺で開催して欲しいです。色々期待しています。

子を持つ親の感情としては、子ども達の為に楽しく学べる機会や体験の場、体を動かす場などをつくっていただけると有難い。

大学・学生・市民・行政の皆がWIN-WINになるような仕組みの構築(知識/ポジティブエネルギー/嬉しい気持ち。温かい気持ち/他者貢献感/自己肯定感)。

地域住民との間に距離がある。学生が地域に関わる際、授業や研究の一環というバリアがあるため、学生主体か地域主体かという形になりやすい。研究の一環で地域を利用するのでもなく、地域が学生というブランドにぶらさがるのでなく、お互いに対等の立場で新しいものを創れる雰囲気になれば、何も残らないし、立命館が去ったら草津は過疎化する。

大学生さんは 4 年が終われば違う所へ旅立たれ、通りすぎていく人という印象がある。昔スーパーで見知らぬ学生さんに魚を煮る方法を尋ねられ、教えた事がある。何か心細そうな気持ちを抱えておられる学生さんのお見受けした。1 人住まいを始めたばかりの学生さんやコロナで仕送りも少なくなり、不安

を1人で抱えておられる学生さんがおられたら、地域のおばちゃんとして何か出来ないかと思う。大学におばちゃんが出向いて行って学生さんと一緒にいろんな料理を作り、無料で学生さんに提供する行事もあってよいかとも思う。

私は長年草津市の住民であるが、立命館大学が草津市にあること以外は無関心であった。南草津駅を利用する住民以外の市民のほとんどが、同じ思いであると思う。現在と昔の比較では、家庭教師から塾、下宿屋さんからアパート、食事も自炊から外食利用、学費仕送りからアルバイトなど、地域住民との接触交流は大幅に変化、減少しているように思います。このため、地域住民と学校との交流は減少、変化しているように思う。

暮らしの中で、立命館大学についての情報がほとんど入って来ません。色々と発信されているかと思うのですが、より何か発信があると良いのかなと思いました。

学園祭とかイベントを、もっと地域参加型にしてふれあいをもってもらえたら、地域の方ももっと立命館大学に興味が出てくるのではないのでしょうか？

など

【大学生で課題に思われること】

公共の場でのマナーや交通マナーが気になる時があります。

子ども達も多く住んでいる草津市なので、交通ルールなどの基本的なマナーは日々守り、大人であることの自覚を持った姿勢を示して欲しい。

一部の学生さんですが、バイク・自転車のマナーの悪さが気になります。

全ての学生の方だとは思いませんが、集団・複数で行動される中、公共の場でのマナー等だと思えます。私達大人も守られない者も少なくありませんが、もしも自分ならと思う心を持ち、考えることができるようになると良いですね。

学生さんの自転車マナー向上は講じられていると思うが、やはり酷いマナーの学生が多い。

通学についての交通ルールを良識をもって守ってほしい。特にバイク通学については車を運転する側にとって危険に感じる場合があります。

研究室単位、スポーツ部単位など、団体で見ると、とても前向きな活動をされていると思いますが、生活面で日常的な個々の行動においては、基本的マナーを守らない、利己的無関心等が目立つ方もおられます。

大学生が集う場がない。地域住民が大学生と交流する機会がない(コロナ禍のため?)。

など

大学生の意識に着目した草津市の魅力向上
のための基礎調査に関する調査研究報告書

2023(令和5)年3月 発行

草津市 草津未来研究所

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号

TEL 077-561-6009 FAX 077-561-2489

E-Mail kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp